

2025年度入学者用

国際学部

# 履修要項

## 注 意 事 項

1. この履修要項は卒業まで使用するものです。  
再交付は行いませんので、卒業まで大切に保管してください。
2. 履修科目を選択する前に、この履修要項を熟読し、所属する  
学科、コースのカリキュラムを十分に理解してください。
3. 不明な点は、八王子学務課窓口で直接問い合わせてください。  
(電話等による問い合わせには応じません)

# 目 次

国際学部 学士課程教育に関する基本方針.....	1
I 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）.....	3
II 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）.....	3
<b>履修についての一般事項.....</b>	<b>5</b>
I 授業について.....	7
1. 学期・授業期間.....	7
2. 授業時間.....	7
3. 科 目.....	7
4. 休 講.....	7
5. 補 講.....	7
6. 欠 席.....	7
7. 連 絡.....	8
8. 問い合わせ.....	8
II 単位認定について.....	8
III 履修登録について.....	9
1. カリキュラム.....	9
2. 履修登録の基本事項.....	9
3. 履修登録の手続き.....	9
4. 履修登録取消制度.....	10
5. 履修登録単位制限.....	10
6. 再履修.....	11
IV 試験について.....	11
1. 学期試験.....	11
2. 追試験.....	12
3. 再試験.....	13
V 成績について.....	14
1. 成績発表.....	14
2. 成績照会.....	14
3. 成績評価.....	14
4. G P A制度.....	15
5. 修学指導.....	15
6. 厳格な成績評価への取り組み.....	16
7. 入学前に他大学等で修得した科目の単位認定.....	17
VI 履修⇒授業⇒試験⇒成績発表フロー.....	18
1. 前 期.....	18
2. 後 期.....	19
VII 鉄道運行停止時の授業・学期試験の取り扱いについて.....	20
1. 鉄道運行停止時の授業・学期試験の取り扱いについて.....	20
2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業・学期試験の対応.....	20

<b>国際学部における履修</b> .....	<b>21</b>
I 教育課程（カリキュラム）について .....	23
1. 教育課程の構成 .....	23
2. コース専門の選択 .....	24
3. 副専攻について .....	24
II 進級・卒業要件について .....	25
1. 卒業要件 .....	25
2. 進級要件 .....	26
3. 卒業論文について .....	26
III 科目の履修方法について .....	27
1. 全学共通教養科目の履修方法 .....	27
2. 外国語科目の履修方法 .....	27
3. 専門科目の履修方法 .....	29
4. 自由科目の履修方法 .....	30
IV 単位互換制度について .....	31
V 国際学科授業科目一覧表 .....	32
〈全学共通教養科目配当表〉 .....	32
〈外国語科目配当表〉 .....	33
〈専門科目配当表〉 .....	34
〈専門共通科目配当表〉 .....	34
〈国際協力コース〉 .....	35
〈国際経済コース〉 .....	36
〈国際政治コース〉 .....	37
〈国際文化コース〉 .....	38
〈国際観光コース〉 .....	39
〈農業総合コース〉 .....	40
〈国際スポーツコース〉 .....	41
<b>国際スポーツコースの履修について</b> .....	<b>43</b>
I 英語科目の履修上の注意 .....	45
II スポーツ指導者基礎資格 .....	46
「環境再生医」初級資格.....	49
「カリキュラム・マップ」「科目ナンバリング」及び「カリキュラムツリー」 .....	53
<b>教職課程 履修要項</b> .....	<b>83</b>
<b>拓殖大学日本語教員養成講座 履修要項</b> .....	<b>93</b>
<b>拓殖大学学則（抄）</b> .....	<b>99</b>
<b>拓殖大学研究倫理ガイドライン</b> .....	<b>111</b>

国際学部  
学士課程教育に関する基本方針



## I 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学部国際学科の7コースでは以下に示す教育目標を掲げている。

- (1) 国際協力コース  
開発途上国及び新興国への協力の在り方及びその改善策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (2) 国際経済コース  
世界がともに経済発展を遂げるための具体的な方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (3) 国際政治コース  
紛争や対立を解決に導く平和・安全保障の未来形を提示し、これを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (4) 国際文化コース  
歴史や文化への理解をもとに世界とコミュニケーションする方法を学びこれを積み上げていく方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (5) 国際観光コース  
大交流時代に相応しい観光の在り方とこれを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (6) 農業総合コース  
農業ビジネス・環境保全・農村開発の推進役としてとるべき具体的な行動プランを考案できる専門的知識と能力の修得
- (7) 国際スポーツコース  
スポーツを通じた国際交流や社会貢献活動を考案し、これを実行できる能力の修得

国際学部国際学科では、基礎科目、外国語科目、専門共通科目、上記の各コース専門科目、及び自由科目の所定単位を修得することで、①三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）を身につけ、②各コースの専門的知識を体系的に修得し、この知識・技能を駆使して、③各コースに関わる国際社会的課題を自ら設定し、必要な情報の収集・分析を行い、他者と協調・協働しながら、その課題を解決できる能力を身につけたと認められる学生に対して、卒業を認定し学士（国際開発）の学位を授与する。

国際学部国際学科の教育課程を修め、以上の教育目標に十分達したと認められた学位取得者は、国際的なビジネスを展開する企業（貿易・商社、金融・証券、メーカー、観光、農業、スポーツ）や国際協力・交流に取り組む国際機関・団体などの職業で、優れた能力を発揮できる。

## II 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学部国際学科では、「卒業認定・学位授与の方針」を達成するために教育課程を編成する。具体的には三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）と、各コースの専門的知識の体系的な修得を通して、グローバル化時代に活躍できる人材の育成を目指す。そのために、基礎知識、コミュニケーション力と実践力を身につける科目や専門知識を養う科目を、年次進行に合わせ順次的・体系的に配置する。

基礎知識を養う科目として、教養科目に加え、基礎的アカデミックスキル、言語処理、数理処理にかかわる科目を1年次から2年次にかけて配置する。

コミュニケーション力を養う科目として外国語科目を設置する。外国語科目は英語に加え、第二外国語の履修を1年次から2年間必修とする。日本人の学生は、第二外国語として、主にアジア諸国の言語の中から一言語選択して2年間学修する。外国人留学生は第二外国語として日本語を学修する。さらに3年次以降も外国語の学修を継続できるように、上級科目を置く。

実践力を養うために、学生の海外留学・国内研修・ボランティア活動やキャリア教育を支援する。専門知識については、1年次にグローバル人材育成のための入門科目と各コースの入門科目を配置する。2年次は基礎から専門への移行期と位置づけ、専門共通科目とコース専門科目（必修）を配置する。3年次以降はコース専門科目（選択）の履修を通じて、さらに各コースの教育目標に必要な知識を修得させる。

なお、2年、3年、4年と3年間かけて履修する専門ゼミナールでは、少人数教育の枠組みで、上記基礎知識、コミュニケーション力、実践力、専門知識の育成を組織的に進め、卒業論文でその集大成を行う。

以上のように、専門的知識の体系的な理解、社会生活に必要な汎用的技能、主体的学修能力、実社会での課題発見・解決能力を身につけることができる教育課程を編成する。

なお、学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。



## 履修についての一般事項



# I 授業について

## 1. 学期・授業期間

1つの学年は2学期制となっており、学則上では**前期**（4月1日～9月30日）と**後期**（10月1日～3月31日）に分かれています。

ただし、学年暦（1年間の日程表）は年度毎に決まり、実際の授業期間は年度によって異なります。また、各曜日の授業回数を十分に確保するため祝日に授業を実施する場合があります。詳細は毎年配付される学年暦を参照してください。

## 2. 授業時間

授業は1時限105分で、**原則として週単位で編成された授業時間割に従って**、以下の時間帯で行われます。時間帯は両キャンパス統一です。

時 限	授 業 時 間 帯
1 時 限	9 : 2 0 ~ 1 1 : 0 5
2 時 限	1 1 : 1 5 ~ 1 3 : 0 0
(昼 休 み)	( 1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 5 0 )
3 時 限	1 3 : 5 0 ~ 1 5 : 3 5
4 時 限	1 5 : 4 5 ~ 1 7 : 3 0
5 時 限	1 7 : 4 0 ~ 1 9 : 2 5

## 3. 科 目

科目には、次の5つの形態があります。科目により授業形態が異なりますので、授業時間割で確認してください。

- (1) **前期科目** ... 前期の期間に授業が行われる科目
- (2) **後期科目** ... 後期の期間に授業が行われる科目
- (3) **通年科目** ... 1年間（前期・後期）にわたって授業が行われる科目
- (4) **連続授業科目** ... 1週間に2時限以上授業が行われる科目
- (5) **単位認定科目** ... 学修の成果により単位が認定される科目（履修登録は不要）

## 4. 休 講

大学側あるいは授業担当教員の都合、更には自然災害や鉄道の運行停止等により、やむを得ず授業を休講とする場合があります。休講情報は、**ポータルサイト (Takudai Portal) から配信**しますので、授業が始まる前までに必ず確認してください。

休講の配信がなく、授業開始から30分経過しても授業担当教員が出講していないときには、八王子学務課窓口で指示を受けてください。

なお、**電話等での休講に関する問い合わせには一切応じません**ので注意してください。

また、鉄道運行停止時等の授業の取り扱いについては、20頁を参照してください。

## 5. 補 講

授業は講義要項等に示された授業計画に基づいて進行しますが、休講になった場合や講義の進行が遅れた場合は、**補講**を行います。補講情報は、**ポータルサイト (Takudai Portal) から配信**しますので確認してください。

補講は、原則として毎週土曜日1～3時限目と前・後期の学期末に設定される補講期間（期間は毎年発表される学年暦を参照）に行います。

## 6. 欠 席

科目履修者は、基本的にすべての授業に出席することが求められており、欠席が多い場合、成績評価に影響が及ぶとともに学期試験を受けられなくなることがあります。体調不良等でやむを得ず欠席する場合には、欠席届を提出することができます。

欠席届用紙は、八王子学生支援室に用意してあります（就職活動の場合は、八王子就職課）。病気等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、所定の欠席届用紙に記入し、証明書を持参のうえ八王子学生支援室で指示を受け、担当教員へ直接提出してください。

ただし、この欠席届の扱いは、**担当教員の判断によりますので、必ずしも出席扱いになるものではありません。**

## 7. 連絡

履修・授業・試験・成績等に関する重要事項の連絡は、次の2つの伝達方法で行いますので、毎日必ず確認するようにしてください。

(1)「ポータルサイト (Takudai Portal) からの配信」

(2)「掲示板への掲示」(八王子学務課窓口)

なお、大学から学生個人に対する緊急の用件、その他必要が生じたときは、ポータルサイト (Takudai Portal) の個人伝言、あるいは電話による連絡を行う場合があります。

また、八王子学務課より上記方法で学生個人に対する連絡があった時は、速やかに指示に従ってください。

**ポータルサイト (Takudai Portal) や掲示板を確認しなかったり、指示に従わなかったりすることにより生じる不利益や不都合等については、大学は一切関知しません。**

## 8. 問い合わせ

履修・授業・試験・成績・休講等についての電話による問い合わせには、一切応じません。

質問等があるときは、必ず**本人が八王子学務課窓口**に直接出向いて確認してください。

また、外部からの個人的な連絡(電話の取り次ぎ・郵便物等の受け渡し)には一切応じません。

## Ⅱ 単位について

各科目にはそれぞれ「単位」が、割り当てられています。進級や卒業の要件として、一定以上の単位の修得が必要となります。

ここでいう「単位」とは、学修の量を示す基準です。教育課程(カリキュラム)に従い科目を履修し、試験等に合格することによって、その科目の単位を修得したものと認められます。

各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としていますので、授業時間で不足する学修時間分は「授業時間外に必要な学修等」として授業内容を深く理解するために、自ら準備、確認、予習、復習等の時間を授業時間外に設けることが求められます。単位の計算方法は、授業科目の種類によって異なり、次の基準によって計算されます。

- (1)講義及び演習の授業科目については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2)実験、実習及び実技の授業科目については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3)ゼミナール論文、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

授業は予習を前提として行われますので、講義要項に書かれている予習項目にしっかりと取り組み、授業に出席してください。また、次回の授業までにその回の授業の復習を行い、理解をより一層深めることに努めてください。

## Ⅲ 履修登録について

### 1. カリキュラム

卒業するには4年以上在籍し、各年次で履修登録を行い所定の単位を修得しなければなりません。そのためには、自分の所属する各コースのカリキュラムをよく理解し、履修計画を立てることが大切です。

科目は、体系的に学修できるように編成されており、**履修年次が定められています。**

また、各コースの目的に従って**科目区分**が設けられています。

### 2. 履修登録の基本事項

科目を履修する際には、定められた規則に従わなければなりません。

次の事項は、履修登録の基本となりますので、十分理解しておいてください。

- (1) この「履修要項」や毎年度提示される「講義要項」を熟読して、授業科目の概要を理解してください。
- (2) 所属するコースのカリキュラムをよく理解し、卒業までの履修計画を立ててください。
- (3) 八王子国際キャンパス開講科目を履修してください。
- (4) **同一名称の科目は1科目しか履修・修得できません。**
- (5) 科目毎に定められた履修年次・学期に従って履修してください。
  - a) **原則として、上級年次の配当科目は履修できません。**
  - b) 下級年次の配当科目は履修できます。
  - c) **必修科目は、必ず指定された年次に履修してください。**
- (6) クラス編成を行う科目は、**必ず指定されたクラスを履修してください。**
- (7) 一度単位修得した科目を再び履修することはできません。  
また、**修得した単位を取り消すこともできません。**
- (8) **メディアを利用して行う授業（遠隔授業）により修得できる単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60単位が限度となるので注意してください。**  
※遠隔授業の詳細は毎年配付される「履修登録資料」を確認してください。

### 3. 履修登録の手続き

履修登録は、1年間の学修計画を決める上で最も重要な手続であり、履修登録が正しくされていなければ単位を修得できず進級や卒業ができなくなります。次の(1)～(5)をよく理解のうえ、必ず履修登録を行ってください。

- (1) 学年の始めに年間の履修計画を立て、その年度に履修する科目（前期・後期ともに）をポータルサイト（Takudai Portal）より登録してください。所定の期日までに登録しない場合は、除籍の対象となりますので注意してください。
- (2) 登録内容は、ポータルサイト（Takudai Portal）で確認できます。正しく登録されているか確認してください。
- (3) 登録した科目は、所定の期間に手続きすることで、履修登録の取り消しが認められます（「4. 履修登録取消制度」参照）。また、後期の科目については、指定された期間に前期の成績を確認した上で、既に登録してある科目を変更（削除・追加）できます。
- (4) 登録していない科目は、たとえ授業に出席し、試験で合格点を取っても単位は認定されません。また不合格になった科目は学業成績表に記録が残り、GPA（15頁を参照）にも影響があるため、安易に履修しないで慎重に履修計画を立てることが大切です。
- (5) 履修登録期間以外の登録は認めません。

#### 4. 履修登録取消制度

履修登録取消制度とは、履修登録して授業を受けたものの、「授業内容が勉強したいものと違っていた」「授業についていけるだけの学力が不足していた」等の理由により履修登録の取り消しを認めるもので、単位修得できないことによりGPA（15頁を参照）が下がることを回避するための制度です。

次の(1)～(5)をよく理解した上で、申請してください。

- (1)前期・後期それぞれの所定期間内（授業開始から4～5週間目頃）にポータルサイト（Takudai Portal）にて申請することで履修登録の取り消しが認められます。申請期間等の詳細は、ポータルサイト（Takudai Portal）でお知らせします。
- (2)取り消し科目数の制限は設けません。ただし、全科目の取り消しはできません。  
なお、4年生については、取り消し後の履修登録単位数が、最低履修登録単位数を下回ることできません。（5. 履修登録単位制限を参照ください）
- (3)通年科目は、前期履修登録取消期間にのみ取り消すことができます。
- (4)取り消した科目は、当該年度のみ記載（学業成績表の最終評価に[W]が付きます）され、次年度以降は記載されません。
- (5)登録を取り消しても、履修登録単位制限（学期上限24単位）の計算からは除外されません。

#### 5. 履修登録単位制限

	1年	2年	3年	4年
履修登録 単位制限	年間48単位以下 ただし 各学期24単位を 超えないこと	年間48単位以下 ただし 各学期24単位を 超えないこと	年間48単位以下 ただし 各学期24単位を 超えないこと	年間6単位以上 年間48単位以下 ただし 各学期24単位を 超えないこと

##### ※通年科目の単位計算上の注意事項

履修登録単位制限を計算する場合に限り、**通年科目は単位を2分割し、半期毎、「半分の単位数」に換算します。**

- (例) **通年4単位の科目** → **前期 2単位 + 後期 2単位 に換算**  
**通年2単位の科目** → **前期 1単位 + 後期 1単位 に換算**

ただし、「開発研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「長期開発研修Ⅰ・Ⅱ」、「国際特別講座（キャリアセミナー）」、及び「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、認定科目のため履修登録単位制限の対象にはなりません。

また、教職課程及び日本語教員養成講座の登録者は、次の科目を履修登録単位制限の対象から除外することができます。なお、教職課程科目等に登録し、履修登録単位制限（48単位）を超えて履修登録する場合は、学修に支障をきたさないよう注意してください。

また、メディアを利用して行う授業（遠隔授業）により修得できる単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60単位が限度となるので注意してください。

※遠隔授業の詳細は毎年配付される「履修登録資料」を確認してください。

##### ○履修登録単位制限から除外される科目

- ①認定科目
- ②教職課程科目（教科及び教科の指導法に関する科目のうち教職課程専用科目、教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目）
- ③拓殖大学日本語教員養成講座科目（時間割表に㊦印のある科目）

## 6. 再履修

履修登録した科目が不合格になった場合、その科目を年度内に再び履修することはできません。

ただし、翌年度以降、あらためて履修することができます。これを「再履修」といいます。なお、科目によっては、翌年度以降休講になり、再履修できない場合や、クラス指定等制限のある科目もあります。詳細は毎年配付される履修登録に関する資料等を参照してください。

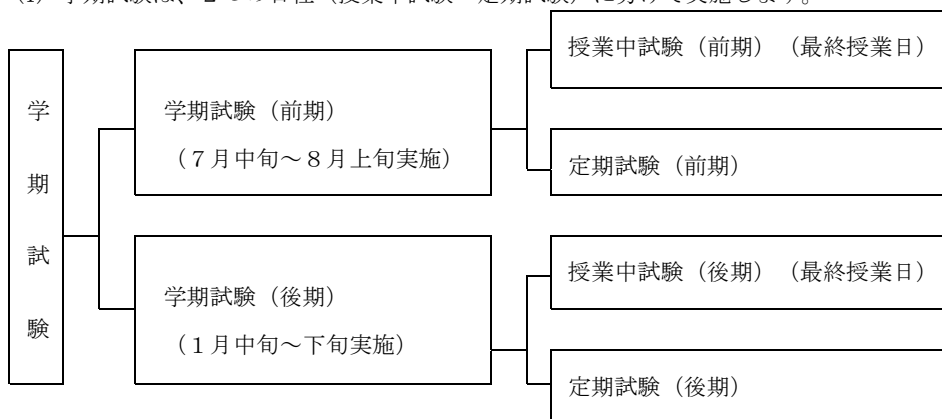
# IV 試験について

試験には、**学期試験(前期・後期)・追試験(前期・後期)・再試験(年度末)の3種類**があります。

この他に、担当教員が必要に応じて、小テスト等を実施する場合があります。

## 1. 学期試験

(1) 学期試験は、2つの日程（授業中試験・定期試験）に分けて実施します。



(2) 「授業中試験」は、最終授業日に実施します。八王子学務課では授業中試験で実施する科目の試験日時等の発表は行いませんので、通常の授業中に担当教員より指示を受けてください。

(3) 「定期試験」は、通常の授業曜日・時限とは異なり、新たに時間割を編成して実施します。

定期試験の時間割は、定期試験開始の3週間前頃にポータルサイト (Takudai Portal) で発表します。

(4) 定期試験時間帯

1時限	9:30～10:30
2時限	11:00～12:00
3時限	13:00～14:00
4時限	14:30～15:30
5時限	16:00～17:00
6時限	17:30～18:30

(5) 学期試験は、**原則としてその科目の授業回数**の「**3分の2以上**」出席しなければ受験資格が与えられません。その他の受験資格については、担当教員の判断により異なります。

(6) 試験の方法は原則として筆記試験ですが、担当教員によっては論文・レポートの提出または口頭試験等で実施する場合があります。

(7) 次のいずれかに該当する場合は、学期試験を受験することはできません。また、たとえ受験したとしても、単位は認定されません。

- 受験した科目を履修登録していない場合
- 決められた時間（試験開始後15分）までに試験室に入室していない場合**
- 学生証を携帯していない場合**
- その他、規定による受験資格のない場合

- (8) 定期試験の時間割で、受験すべき科目が同一時間に重なった場合は、指定期間内に「試験時間重複科目届」を八王子学務課に提出してください。提出のない場合にはどちらか1科目しか受験できませんので注意してください。
- (9) **定期試験では試験開始30分後、試験室から退出できます。**
- (10) 筆記試験受験の際、試験答案用紙には、学生番号・氏名をペン書き（ボールペン等）で記入してください（答案作成は鉛筆を用いても構いません）。
- (11) 試験は試験監督の指示に従い厳粛な気持ちで受験してください。  
不正行為があった場合は学則の規定により処罰し、保護者等に通告しますので、正々堂々と自己の実力を試すよう、取り組んでください。  
また、不正行為があった場合は、進級・卒業に影響を及ぼします。

## 2. 追試験

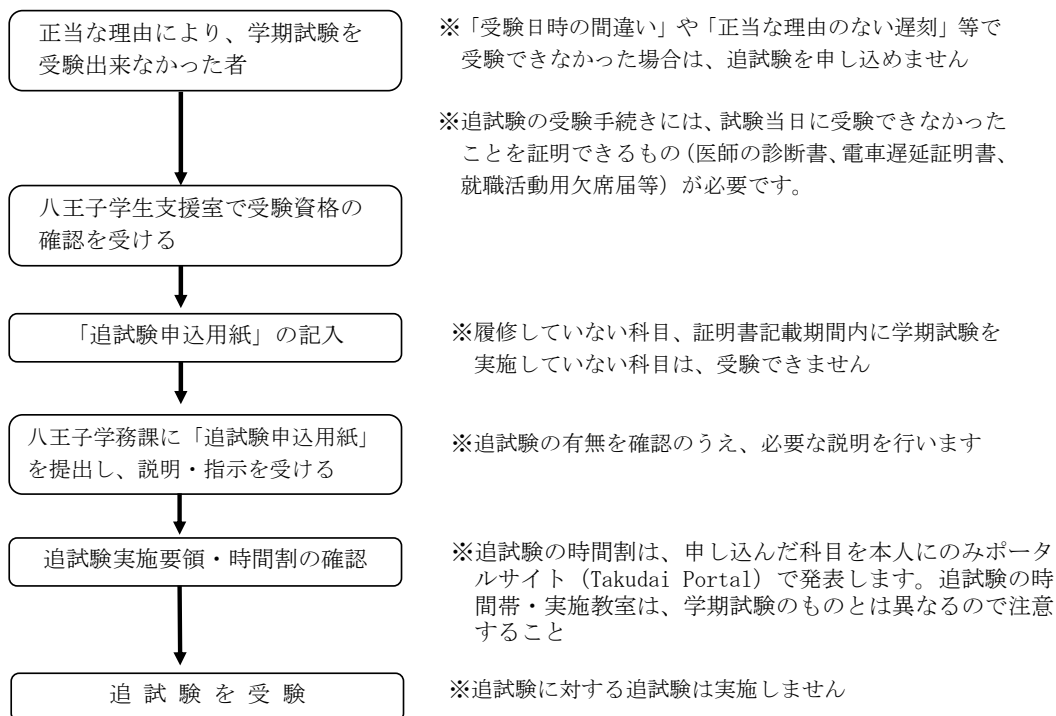
学期試験を正当な理由（電車遅延・疾病・就職活動等）により受験できなかった場合は、**追試験**を受験することができます。

- (1) 追試験は次の要領で実施します。

追 試 験 の 実 施 条 件 等

項 目	条 件 等
受 験 可 能 な 学 年	全 学 年
受 験 資 格	正当な理由により学期試験を受験できなかった者
対 象 科 目	学期試験を実施した全科目（平常点、レポート試験を除く）
申 込・受 験 可 能 な 単 位 数	制限なし
成 績 評 価	通常の学期試験に準ずる
実 施 時 期	前期・後期 学期試験終了後 (詳細はポータルサイト (Takudai Portal) および掲示等でお知らせします)

- (2) 追試験の受験手続きは、次の手順によって行います。



### 3. 再試験

進級保留者（2年生で、3年次進級所要単位を充足できなかった者）および卒業保留者（4年生で、卒業所要単位を充足できなかった者）は、再試験を受験することができます。

再試験は次の要領で実施されますが、受験には申込の他、受験料が必要になります。詳細は、ポータルサイト（Takudai Portal）および掲示等で連絡します。

#### 再 試 験 実 施 要 領

##### (1)進級保留者

項 目	条 件 等
受 験 資 格	2年生で、3年次進級所要単位を充足できなかった者
対 象 科 目	<p>当年度履修科目のうち、成績評点が〔0～59点〕で不合格となった科目。評点が〔XXX〕および〔---〕でF（不合格）になった科目は受験できません。</p> <p>また、以下に掲げる科目は再試験を実施しません。</p> <p><b>【実施しない科目】</b></p> <p>①講座「拓く力」（世界の中の日本）、②講座「スポーツと人間」、③スポーツ演習、④トレーニング演習、⑤歴史の中の拓殖大学、⑥ゼミナール</p> <p>⑦教職課程科目（教科及び教科の指導法に関する科目のうち教職課程専用科目、教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目）、および日本語教員養成講座科目</p> <p>⑧単位認定科目</p>
申込・受験できる単位数	当年度履修科目のうち、10単位以内
成 績 評 価	試験（筆記、口頭、実技等）、レポート、授業参加状況（発表等）を総合的に判断して評価した成績について、再試験の結果を考慮し、60点を上限として再評価する。
実 施 時 期	2月下旬～3月上旬

※再試験受験料は毎年配付される「履修登録資料」等を確認してください。

##### (2)卒業保留者

項 目	条 件 等
受 験 資 格	4年生で、卒業所要単位を充足できなかった者
対 象 科 目	<p>当年度履修科目のうち、成績評点が〔0～59点〕で不合格となった科目。評点が〔XXX〕および〔---〕でF（不合格）になった科目は受験できません。</p> <p>また、以下に掲げる科目は再試験を実施しません。</p> <p><b>【実施しない科目】</b></p> <p>①講座「拓く力」（世界の中の日本）、②講座「スポーツと人間」、③スポーツ演習、④トレーニング演習、⑤歴史の中の拓殖大学、⑥ゼミナール</p> <p>⑦教職課程科目（教科及び教科の指導法に関する科目のうち教職課程専用科目、教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目）、および日本語教員養成講座科目</p> <p>⑧単位認定科目</p>
申込・受験できる単位数	当年度履修科目のうち、10単位以内
成 績 評 価	試験（筆記、口頭、実技等）、レポート、授業参加状況（発表等）を総合的に判断して評価した成績について、再試験の結果を考慮し、60点を上限として再評価する
実 施 時 期	2月下旬～3月上旬

※再試験受験料は毎年配付される「履修登録資料」等を確認してください。

## V 成績について

### 1. 成績発表

- (1) 学業成績は年に2回、「学業成績表」にてお知らせします。  
 詳細については、ポータルサイト (Takudai Portal) および掲示等で連絡します。

#### 成績発表の時期・方法

	学年	発表時期	発表方法
前期成績	全学年	9月中旬	ポータルサイト (Takudai Portal) で発表
後期成績	1～3年	3月中旬～3月下旬	
	4年	2月中旬～2月下旬	

- (2) 成績評価に関して不明な事項がある場合は、**成績発表日から1ヶ月以内に申し出なければ無効**となります。質問等がある場合は、科目担当教員に直接申し出てください。

### 2. 成績照会

学業成績表の見方、進級・卒業単位について質問がある場合は、学業成績表を持参のうえ、八王子学務課窓口へ直接出向いて相談してください（電話等での問い合わせには一切応じません）。

### 3. 成績評価

- (1) 成績は、科目担当教員が試験（筆記、口頭、実技等）、レポート、授業参加状況（発表等）を総合的に判断して評価します。成績評価の方法は講義要項を参照してください。

- (2) 成績は、原則として**素点（0～100）で発表**されます。  
 ただし、次のような表示で発表される場合もあります。

[---]印： **未受験**（試験等を未受験の場合）

[XXX]印： **評価に値せず**（出席不良等で評価に値しない場合）

- (3) 成績の評価は、S・A・B・C・Fで表記します。評価基準は次のとおりです。

可否	評価	素点等	成績の状況
合格 (単位修得)	S	100～90点	特に優れている 学修の成果が到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績に与えられます。
	A	89～80点	優れている 学修の成果が到達目標を十分に達成できている優れた成績に与えられます。
	B	79～70点	良好 学修の成果が到達目標を達成できている成績に与えられます。
	C	69～60点	合格と認められる最低限 学修の成果が到達目標を最低限達成できている成績に与えられます。
不合格	F	59～0点	合格基準に達していない 学修の成果が到達目標を達成できていない場合です。
		[---]	
		[XXX]	

- (4) 通年科目は、前期に成績発表を行わず、後期に通年評価としての点数を発表します。
- (5) 不合格となった科目は、次年度以降、学業成績表の「不合格科目欄」に記載されます。「不合格科目欄」に記載された科目は、原則として次年度以降再履修し、単位修得すると抹消されます（科目担当教員が異なっても構いません）。
- (6) 教職課程科目（教科及び教科の指導法に関する科目のうち教職課程専用科目、教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目）、日本語教員養成講座科目については、不合格になっても評価に[F]は付きません。また次年度以降も、学業成績表の不合格科目欄に記載されません。

#### 4. GPA制度

GPA (Grade Point Average) とは、科目ごとの成績素点に対してGP (Grade Point) を設定し、その科目の単位数を加味して1単位あたりのGPの平均値を表したもので、学修状況を総合的に示す指標です。GPAは次の通り算出します。

##### (1) 各科目のGPを求める

$$GP = (\text{成績素点} - 55) / 10$$

ただしGPが ① 0.5未満のときは、GP = 0.0 (59点以下)

② 0.5~0.9のときは、GP = 1.0 (60点~64点)

③ 4.1~4.5のときは、GP = 4.0 (96点~100点) になります。

◆評価・成績素点・GP対照表

評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP
S	100	4.0	A	89	3.4	B	79	2.4	C	69	1.4	F	59~0 「XXX」 「----」	0.0
	99	4.0		88	3.3		78	2.3		68	1.3			
	98	4.0		87	3.2		77	2.2		67	1.2			
	97	4.0		86	3.1		76	2.1		66	1.1			
	96	4.0		85	3.0		75	2.0		65	1.0			
	95	4.0		84	2.9		74	1.9		64	1.0			
	94	3.9		83	2.8		73	1.8		63	1.0			
	93	3.8		82	2.7		72	1.7		62	1.0			
	92	3.7		81	2.6		71	1.6		61	1.0			
	91	3.6		80	2.5		70	1.5		60	1.0			

##### (2) GPAを求める

$$GPA = \frac{\text{履修登録科目のGP} \times \text{その科目の単位数の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数 (不合格科目含む)}}$$

##### ① GPAの対象とならない科目

- ・教職課程科目 (教科及び教科の指導法に関する科目のうち教職課程専用科目、教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目)、日本語教員養成講座科目
- ・履修登録の取り消しが認められた科目
- ・素点を示さず、単位認定された科目

② GPAの値は、小数第3位を切り捨てて、小数第2位まで表示します。

##### (3) GPAの発表

GPAは、学業成績表に学期 (前期・後期) ・年度・累積の3種類を記載します。

また、成績証明書に累積のGPAを記載します。

#### 5. 修学指導

本学では、入学後にオリエンテーションを実施し、履修要項及び履修ガイダンス資料に基づき、4年間の履修手続の流れや学修計画の立て方などについて、きめ細かな履修指導を行うとともに、学生が気軽に教員の研究室を訪れ、個別に学業などの質問や相談ができるよう、全ての専任教員が「オフィスアワー」 (教員情報に掲載) を設定し、年間を通じた学修指導の体制を整えています。さらに、学修状況の不調を早期に把握する観点から出席不良、成績不振、原級等となった学生への個別面接などを行っています。

このように本学では、学生が自覚をもって有意義な大学生活を送り、やがて自律した社会人となることを支援するよう努めています。

本学の学則 24 条では、次のとおり在学年限を超過して在学することはできません。この規定に該当すると退学の措置を適用することになります。

学則（在学年限）

第 24 条

学生は、6 年をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、8 年以内の期間、在学することができる。

2 第 30 条第 1 項の規定により入学した学生は、同条第 2 項により定められた在学年数の 1.5 倍の年数（端数が生じた場合は切上げた数）をこえて在学することができない。ただし教授会の議を経て学長が許可した場合は、その 2 倍に相当する年数以内の期間、在学することができる。

このような措置の対象とならないよう、本学では、生活習慣を改善し学修意欲を高めてもらうこと、学修活動の改善を支援することなどを目的として、次のとおり、G P A の基準を用いて、「成績不振学生の面接等」を行っています。

○成績不振学生の面接等

学期ごとの G P A が、その終了時に 1.0 未満の学生を対象に次のとおり面接等を行います。ただし、当該学期の休学者、卒業所要単位修得者及び学部が対象外とする者を除きます。

回数	指導内容等
1 回	学生本人に、学部長が指名する教員が学修指導を行います。
2 回 連続	学生本人に、学部長又は学部長が指名する教員が進路変更を含めた学修指導を行います。
3 回 連続	学生本人・保護者等に学部長が退学を含む進路変更を勧告します。

この他、学生支援室において、出席不良、原級等となった学生への個別面接も行っています。

6. 厳格な成績評価への取組

本学では、成績評価を客観的かつ厳格に行うことを目的として、次のとおり、G P A の基準を用いて「成績不振学生の面接等」を行うこと、学科目別の成績評価分布の状況を把握し公表したうえで、教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」（履修要項 14 頁参照）及び「成績評価分布の目安」を定めるなどの取組を行っています。

(1) 教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」等

- ① 試験問題やレポートの難易度は、客観的な評価となるよう、工夫し予め 70 から 80 点程度の平均点となるように努めます。
- ② 成績評価は、学期試験、レポート、小テスト、授業への参加状況など、多面的かつ総合的に評価し、その個々の評価点の割合を講義要項で示します。
- ③ 成績評価は、極端な偏りの評価が行われないよう、学科目別成績評価分布表の平均値を踏まえ、下表のとおり、評価の分布（目安）となるように努めます。

○成績評価分布の目安

評価	素点	評価の分布（目安）
S	100～90 点	20%程度
A	89～80 点	20～30%程度
B	79～70 点	20～30%程度

※ C・F の評価の分布の目安は、次に示す「学科目別成績評価分布」の平均値を考慮します。

※履修者 20 名以下及び習熟度別クラスの科目は除きます。

(2) 学科目別の成績評価分布表は、本学ホームページで公表しています。

「拓殖大学 学科目別 成績評価分布」で検索してください。

## 7. 入学前に他大学等で修得した科目の単位認定

入学前に他の大学または短期大学等において修得した科目について、本学が教育上有益と認めるとき、本人の申請（入学時のみ）に基づいて単位認定を行います。申請方法等詳細については八王子学務課にお問い合わせください。

(1) 申請対象者・申請期間

申請対象者は、新入生のみで、入学年度の4月に指定する期間を申請期間とします。

(2) 申請に必要な資料

①既修得科目単位認定申請書

②申請時最新の成績証明書とその写し

③在学証明書（単位認定申請科目の成績を修得した時点の当該大学等の在籍が分かるもの）

④シラバス・講義要項（単位認定申請科目履修時のもの）

⑤授業回数・授業時間が分かるもの（単位認定申請科目履修時のもの）

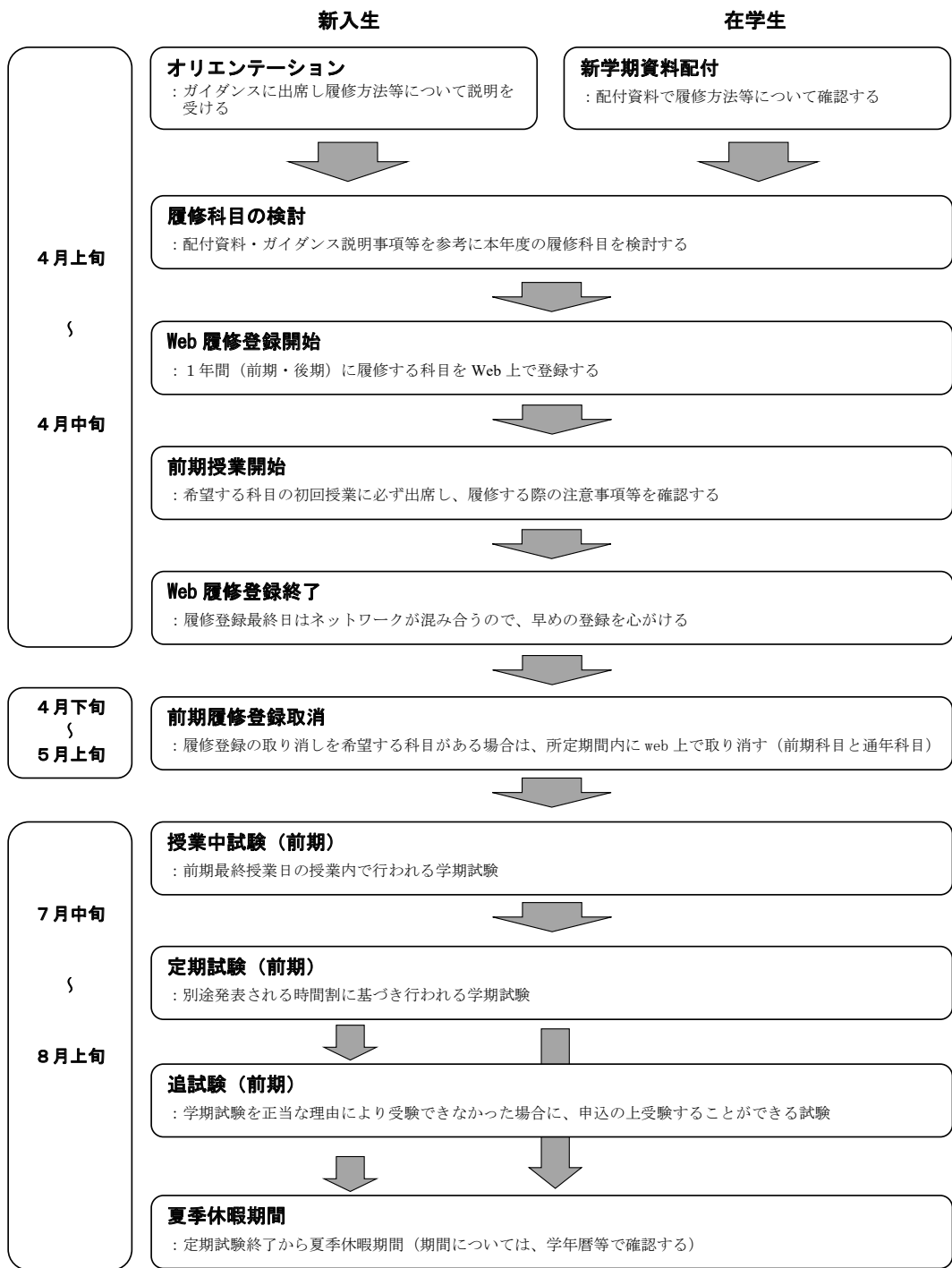
⑥履修要項（単位認定申請科目の配当〔専門科目または教養科目、年次〕の記載があるもの）

(3) その他

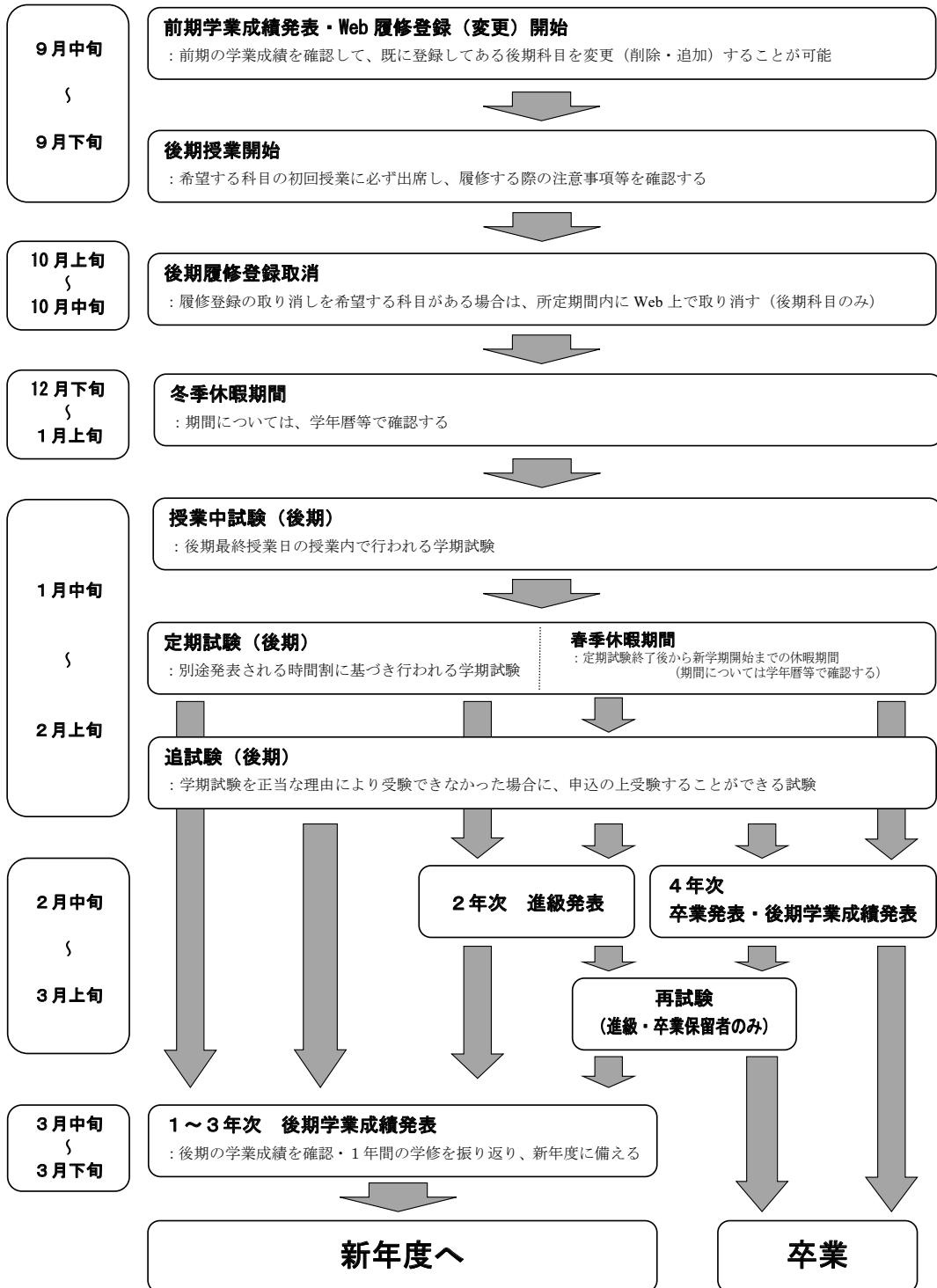
認定に際し、別途面接を実施します。

# VI 履修⇒授業⇒試験⇒成績発表フロー

## 1. 前期



## 2. 後期



## VII 鉄道運行停止時の授業・学期試験の取り扱いについて

八王子国際キャンパスでは、台風・大雨・大雪等の自然災害により鉄道の運行が停止した場合や、大震法にもとづく地震警戒宣言が発令される場合、当日の授業および学期試験の実施については下記のとおり取り扱います。

### 1 鉄道運行停止時の授業・学期試験の取り扱い

【対象事由】

- (1) 台風・大雨・大雪その他自然災害によるもの
- (2) 鉄道機関のストライキ

#### 八王子国際キャンパスにおける対応

【対象路線】 JR中央線(新宿～高尾間)・京王線(新宿～高尾間)・JR横浜線のいずれか1路線の全区間  
または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとする。

【時間・対応策】	条 件	授 業	試 験
	①当日午前6時現在運行停止となっている場合	第1・2時限目休講	第1・2時限目延期
	②当日午前10時現在運行停止となっている場合	終日休講	終日延期

【その他】 授業または試験開始後に運行停止となるような場合は、大学からの指示に従う。

※上記によらず、前日において翌日の授業・試験の実施に大きな影響があると判断した場合は、「翌日の授業の休講・試験の延期」について、本学公式ホームページ及びポータルサイト (Takudai Portal)にて掲載する。

### 2 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業・学期試験の対応

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法(大震法)に基づく「警戒宣言」が発せられる場合の授業・学期試験の取り扱いは以下のとおりとする。

- (1) 「警戒宣言」が発せられるのに先立ち「地震防災対策強化地域判定会」(以下「判定会」という)が招集された場合、ただちに全学休講および学期試験延期とする。
  - ア. 「判定会」が招集されたことがテレビ等で報道された時点で全学休校(授業休講、学期試験延期等)とする。
  - イ. 通学途中の場合は、ただちに帰宅するなど適切な行動をとる。
  - ウ. 大学にいる場合は、大学からの指示に従う。
- (2) 「警戒宣言」が解除されたときや「判定会」が解散されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準ずる。

以上の事由により休講および試験延期となった場合、その後の措置については、別途大学よりポータルサイト (Takudai Portal) 等で連絡します。

# 国際学部における履修

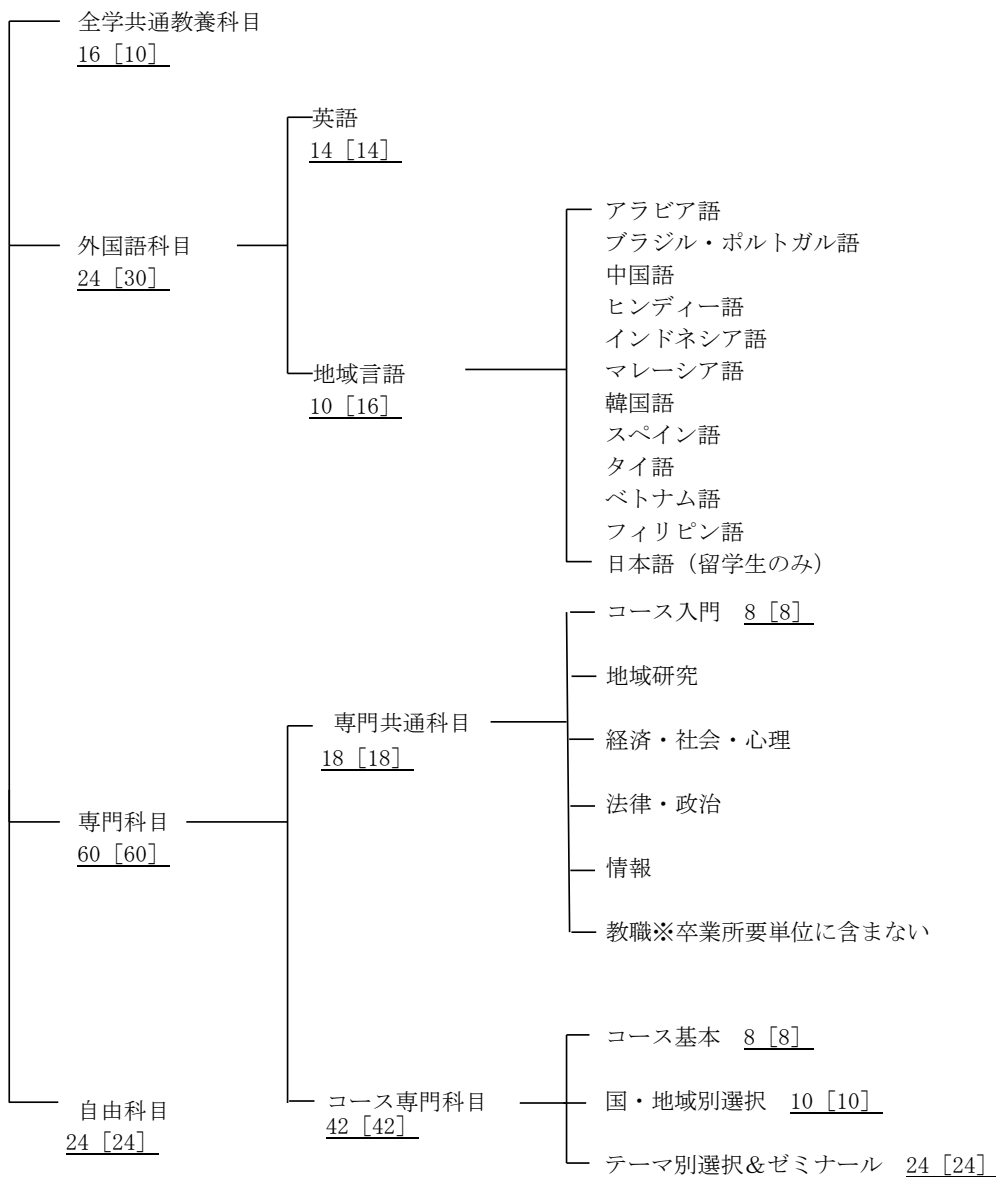


# I 教育課程（カリキュラム）について

## 1. 教育課程の構成

国際学部の教育課程は、下図のように構成されています。

(2025年度入学者適用)



数字は「卒業所要単位」。[ ]内は留学生所要単位です。

## 2. コース専門の選択

国際学部では、専門科目において次のとおり7つのコース（国際協力、国際経済、国際政治、国際文化、国際観光、農業総合、※国際スポーツコース）を設けています。**コースの選択（登録）は、1年次後期に届け出を行います。一度登録したコースは卒業まで変更できません**ので、慎重に選択してください。なお、国際スポーツコースは、1年次に登録します。対象者には別途お知らせします。

また、農業総合コース科目を履修する場合は、次の実習・教材費等の納付が必要です。

- (1) 農業入門演習Ⅰ－A、Ⅰ－B（2年次前期）
  - ア. 実習・教材費：20,000円 イ. 納付期日：5月 ウ. 納付方法：銀行振込
  - ※2科目履修の場合でも20,000円となります。
- (2) 農業入門演習Ⅱ（2年次後期）
  - ア. 実習・教材費：20,000円 イ. 納付期日：10月 ウ. 納付方法：銀行振込
- (3) 農産加工演習（3年次前期）
  - ア. 学外実習費：学外実習先の費用を別途徴収（費用は実習先に直接、納付）
  - イ. 納付期日：夏季集中講義の開始日に徴収予定
- (4) 学研災付帯賠償責任保険の加入（2・3年次）

## 3. 副専攻について

主専攻以外の特定コースを1つ選び、副専攻コースの「コース基本科目（2科目4単位）」（必修）及び、「テーマ別選択科目（2科目4単位）」を含め、自由科目として20単位以上修得すれば、希望者の届出により同コースを「副専攻」として認定します。

## Ⅱ 進級・卒業要件について

### 1. 卒業要件

本学に4年間在学し、卒業に必要な合計124単位を修得した者に対して、卒業が認定されます。ただし、**所属学科（コース）で定められた科目区分ごとの卒業所要単位数を満たさなければ、たとえ4年次終了時点で124単位以上を修得していても、卒業資格は与えられません**ので注意してください。

なお、卒業要件は、卒業するにあたり最低限必要な単位数を示したものです。単に時間割を埋めるだけでなく、この「履修要項」や「講義要項」等を活用し、各自の学修目標に基づき計画的に履修登録・単位修得するよう心がけてください。

#### 卒業所要単位

(2025年度入学者適用、[ ]内は留学生所要単位)

区 分		卒業所要単位	
全学共通 教養科目	A系列 国際性を高める	2 [ 2 ]	
	B系列 専門性の幅を広げる	2 [ 2 ]	
	C系列 人間性を高める	2 [ 2 ]	
	D系列 キャリア形成を行う	2 [ - ]	
	E系列 データ活用能力を養う	4 [ 4 ]	
	A～E系列 (任意)	4 [ - ]	
<小 計>		16 [10]	
外国語科目	英 語	14 [14]	
	地 域 言 語	10 [16]	
	<小 計>	24 [30]	
専 門 科 目	専門共通 科目	コース入門	8 [ 8 ]
		地域研究 経済・社会・心理 法律・政治 情報 「教職」分野は卒業所要単位に含まない	10 [10]
	コース専 門科目	コース基本	8 [ 8 ]
		国・地域別選択	10 [10]
		テーマ別選択&ゼミナール	24 [24]
	<小 計>		60 [60]
自由科目		24 [24]	
<合 計>		124 [124]	
学 位		学 士 (国際開発)	

## 2. 進級要件

国際学部では、進級要件として**2年次から3年次に進級する際に、最低限修得すべき基準を設けています**。2年終了時に進級所要単位を満たしていなければ、原級にとどまる（留年）ことになります。

なお、**1年次から2年次、および3年次から4年次への進級要件は設けていません**。前掲の「履修登録単位制限」を考慮して、各科目区分の卒業所要単位を意識し、計画的に履修登録した上で、バランス良く単位修得することが必要です。

### 進 級 所 要 単 位

(2025年度入学者適用)

科目区分	対象学生	進級所要単位	単位修得の条件	
全学共通教養科目	日本人学生	10単位以上		
	留学生	6単位以上		
外国語科目	英語	全学生	6単位以上	1年次必修科目の6単位を修得済みであること
	地域言語	日本人学生	5単位以上	1年次必修科目の5単位を修得済みであること
留学生		10単位以上	1年次必修科目の10単位を修得済みであること	
専門科目 自由科目 の合計	日本人学生	27単位以上	全必修科目14単位のうち、「国際学入門I・II」、「データサイエンスI・II」の8単位を修得済みであること	
	留学生	26単位以上		
合計		48単位以上		

## 3. 卒業論文について

卒業論文は4年間の学修の集大成であり必修です。卒業論文の指導及び審査は、所属するゼミナールの教員が行います。ゼミナールに属さない学生の卒業論文の指導及び審査員（教員）は、そのテーマに応じて教務委員長が指名します。

### (1) 卒業論文の基本体裁・執筆要領

卒業論文は以下の2つの部分から構成される

#### 1. 本文

- ・目次：論文の全体構成と該当ページ数を示す。（書籍の目次と同様）
- ・図表：「図」「表」「グラフ」ごとに番号、見出し（表題）をつけ、該当ページ数を示す。
- ・本文：内容の括りを「章」「節」「項」の順に示してまとめる。
- ・注記：本文の記述箇所の出典や補足する情報を示す。
- ・文献目録：論文作成において参考にした書籍、論文、情報典等を末尾にまとめて掲載する。

#### 2. 要約

- ・本文の要約をA4用紙1枚にまとめる。
- ・卒業論文合格者全員の要約を「卒業論文要約集」として印刷・刊行する。

本文及び要約の執筆要領は、3年時後期にゼミナール担当教員が配布する「国際学部 卒業論文作成ガイドライン」に準拠する。

### (2) 卒業論文作成・提出の条件

1. 4年生配当の科目である。作成に着手できるのは、3年生までに100単位以上取得している学生、100単位未満でも卒業単位124単位取得可能な学生。100単位未満の学生は所属ゼミ教員に事前に相談し、卒業論文に着手するかどうか決めること。100単位未満の学生が独自の判断で卒業論文題目を登録することはできない。
2. 「国際学部 卒業論文作成ガイドライン」に添付の「卒業論文 題目登録」用紙に、卒業論文の題目を記入し、指導教員による押印の上、八王子学務課に提出する。
3. 卒業論文の指導及び審査は、所属するゼミナールの教員が行う。

4. 卒業論文は、指定された期間内に八王子学務課に提出する。
5. 要約を本文に倣い作成し、本文と一緒に提出する。

(3) **卒業論文審査基準**

卒業論文は、ゼミナール担当教員が以下の審査項目に基づく総合評価を行い、成績評価する。

1. テーマの適切性・妥当性について
2. 先行研究、文献資料、調査などの情報収集の適切性・妥当性について
3. 研究方法の適切性・妥当性について
4. 論旨の明確さ、および妥当性について
5. 研究方法、内容、結論等に学業の成果が反映されていること

以上の基準を満たしたうえで、全体の構成、言語表現が適正で、「国際学部 卒業論文作成ガイドライン」に準拠し、「論文」としての体裁が整っていること

## Ⅲ 科目の履修方法について

### 1. 全学共通教養科目の履修方法

全学共通教養科目は、その目的・内容によって分類構成され、履修方法・必要な単位数は系列ごとに設定されています。指定のないものは1～4年次にわたり履修できます。計画的に履修登録・単位修得してください。

区分	授業科目区分	所要単位	
		日本人学生	留学生
全学共通教養科目	A系列 国際性を高める	2	2
	B系列 専門性の幅を広げる	2	2
	C系列 人間性を高める	2	2
	D系列 キャリア形成を行う	2	—
	E系列 データ活用能力を養う	4	4
	A～E系列 (任意)	4	—
全学共通教養科目の卒業所要単位 (合計)		16	10

(1) C系列 体育実技科目について

スポーツ演習の授業時の服装については、通学用とは別に運動のしやすいものを選んでください。詳細は、授業の際に担当教員より指示があります。また、用具は原則として大学側で準備しますが、体育館内での授業の際には、館内専用の上履運動靴を各自で用意してください。なお、成績評価については、スポーツ演習という特質を重くみて、出席を重視します。授業時間数の「4分3以上」出席しなければなりません。

(2) 履修者数制限科目について

教育効果を高めるため、履修者数制限を行う場合があります。年度初めに配布する履修登録に関する資料を確認してください。

### 2. 外国語科目の履修方法

(1) 必修英語

・英語は**14科目全てが必修科目**です。

授業は各科目週1回です。クラス指定されていますので、指示された方法により、指定年次に必ず履修・修得してください。なお、国際スポーツコース生は45頁の「英語科目の履修上の注意」に基づき履修・修得してください。

学年	配当科目	
1年次	English Foundation Skills I	English Foundation Skills II
	English Oral Communication Skills I	English Oral Communication Skills II
	English Presentation Skills I	English Presentation Skills II
2年次	English Foundation Skills III	English Foundation Skills IV
	English Oral Communication Skills III	English Oral Communication Skills IV
	English Presentation Skills III	English Presentation Skills IV

※資格試験等に基づき一定以上の能力があると認められる場合は、本人の申請に基づき、必修英語12単位を上限に単位認定します。(例えば、英検1級、TOEFLの点数がITPで600点(iBTで100点以上)、TOEIC860点以上を修得したもの)

※入学以前の修得級・点数も含む。

※申請方法等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal)でお知らせします。(毎年7月・12月)

学年	配当科目	
3・4年次	実用英語Ⅲ	実用英語Ⅳ

※TOEIC500点以上を取得した場合は、申請により「実用英語Ⅲ・Ⅳ(最大2単位)」を単位認定します。

※申請方法等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal)でお知らせします。(毎年7月・12月)

## (2) 選択英語

- 必修科目のほかに、選択英語を設置しています。

学年	配当科目	
1・2年次	実用英語Ⅰ	実用英語Ⅱ
3・4年次	上級実用英語Ⅰ-A	上級実用英語Ⅱ-A
	上級実用英語Ⅰ-B	上級実用英語Ⅱ-B

## (3) 必修地域言語(日本人学生)

- 地域言語は**1年次・2年次の必修科目**です。必修地域言語は11カ国語(アラビア、ブラジル・ポルトガル、中国、インドネシア、マレーシア、韓国、スペイン、タイ、ベトナム、フィリピン)が開講されており、1年次の前期授業開始前のオリエンテーション期間中にガイダンスを行い、希望言語科目を決めることとなります。なお、一度登録した言語は途中で変更は認められません。

また、科目によりクラス指定されます。指定年次に必ず履修・修得してください。

- 資格試験等に基づき一定以上の能力があると認められる場合は、本人の申請に基づき、必修地域言語10単位を上限に単位認定します。

※入学以前の資格取得・点数も含む。

※申請方法等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal)でお知らせします。(毎年7月・12月)

学年	配当科目	
1年次	初級地域言語Ⅰ-A	初級地域言語Ⅱ-A
	初級地域言語Ⅰ-B	初級地域言語Ⅱ-B
		地域言語リーディング
2年次	中級地域言語Ⅰ-A	中級地域言語Ⅱ-A
	中級地域言語Ⅰ-B	中級地域言語Ⅱ-B
		地域言語ライティング

## (4) 必修日本語(留学生)

- 留学生は日本語を履修してください。日本語は**1年次・2年次の必修科目**です。

授業は各科目週1回です。クラス指定されていますので、指示された方法により、指定年次に必ず履修・修得してください。

- 日本語能力試験N1レベルに140点以上で合格した留学生は、本人の申請に基づき、2年次配当の日本語科目4単位を上限に単位認定します。(1年次配当科目及び「日本を知る」は対象外)

※申請方法等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal)でお知らせします。(毎年7月・12月)

学年	配 当 科 目	
1 年次	日本語オーラル・コミュニケーションⅠ－A	日本語オーラル・コミュニケーションⅡ
	日本語オーラル・コミュニケーションⅠ－B	日本語リーディング&ライティングⅡ
	日本語リーディング&ライティングⅠ－A	日本を知るⅠ
	日本語リーディング&ライティングⅠ－B	日本を知るⅡ
2 年次	日本語オーラル・コミュニケーションⅢ	日本語オーラル・コミュニケーションⅣ
	日本語リーディング&ライティングⅢ	日本語リーディング&ライティングⅣ
	日本を知るⅢ	

#### (5) 選択地域言語

- ・ 1・2年次に必修地域言語10単位を修得したものは、単位修得済み言語以外の地域言語を履修することができます。

#### (6) 選択上級地域言語

- ・ 3・4年次に上級地域言語の履修ができます。
- ・ 資格試験等に基づき一定以上の能力があると認められる場合は、本人の申請に基づき、上級地域言語4単位を上限に単位認定します。

※申請方法等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal)でお知らせします。(毎年7月・12月)

※地域言語の必修科目を全て単位認定された1・2年生は、申請により上級地域言語を履修することができます。

学年	配 当 科 目	
3・4年次	上級地域言語Ⅰ	上級地域言語Ⅱ
	地域言語上級リーディング&ライティングⅠ	地域言語上級リーディング&ライティングⅡ

※アラビア語、ヒンディー語、マレーシア語については、地域言語上級リーディング&ライティングⅠ、Ⅱはありません。

### 3. 専門科目の履修方法

- (1) 専門科目は、専門共通科目、コース専門科目からなります。
- (2) 専門科目は、各区分に配当されている科目の中から指定単位数以上を必ず修得しなければなりません。卒業までに指定単位数以上を修得するよう、計画的に履修してください。
- (3) 各区分の科目を指定単位数以上修得した場合、単位超過分は自由科目の所要単位に充当します。なお、進級要件には適用されません。
- (4) ボランティア活動Ⅰ～Ⅲの単位認定について  
学生が、国内外において、学修成果等を活かしたボランティア活動を行うことは、将来の社会の担い手となる学生の円滑な社会への移行促進の観点から意義があるものです。このことから、「ボランティア活動Ⅰ～Ⅲ」(各2単位)の単位認定科目を「コース専門科目 テーマ別選択科目」区分に設置しています。

#### ○「ボランティア活動Ⅰ～Ⅲ」単位認定の申請手続

- a. 国際学部が認定するボランティア活動であり、受入機関(公共部門、民間部門、NPO等。異なる従業先の組み合わせでも可能)から活動期間及び活動事項の認定を得てください。
- b. ボランティア保険等(傷害保険)に加入してください(自己負担)。
- c. 原則として、「ボランティア活動」は、活動期間10日(連続ではなく合計の日数でも可能)をもって2単位を認定します。  
ただし、活動等の成果により単位認定として適当でないと判定する場合があります。
- d. 活動等出発日30日前かつ各月の10日(原則)までに「ボランティア活動参加届」を八王子学務課に提出し、予め国際学部教務委員会に活動の実施について承諾を得てください。
- e. 活動等終了後30日以内に「受入機関からの活動事項・期間の認定書等」、「活動等報告書」、「活動等報告書の要約(400字程度)」および国際ボランティアの場合はパスポートの出入国の分かる箇所を写しを八王子学務課に提出してください。
- f. 国際学部教務委員会は、本人から提出された「受入機関からの活動事項・期間の認定書等」及び「活動等報告書」等を総合的に評価し単位認定します。

#### 4. 自由科目の履修方法

(1) 自由科目として、次の科目区分等から任意に履修して卒業所要単位を充足してください。

- a. 職業能力基礎（SP I）非言語、職業能力基礎（SP I）言語
- b. 国際特別講座
- c. 開発研修 I～Ⅲ、長期開発研修 I・II
- d. 全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得点
- e. 外国語科目の卒業所要単位超過修得点
- f. 専門科目（専門共通科目・コース専門科目）の卒業所要単位超過修得点
- g. 他学部・他コース配当科目の修得単位。ただし、履修できない科目がありますので、八王子学務課に相談してください。
- h. 教職課程（一部の科目を除く）・日本語教員養成講座各科目の修得単位
- i. 単位互換協定に基づく単位互換科目（履修が許可されている他大学等の科目に限る：10単位を上限とする）

(2) 国際特別講座の履修について

国際特別講座は、（ ）内のテーマが異なれば、複数の科目を履修・修得できます。詳細は講義要項を参照してください。なお、国際特別講座（キャリアセミナー）は、単位認定科目です。認定方法は講義要項を参照してください。

2025年度開講 国際特別講座

開講テーマ
公務員合格に向けた基本講座
キャリアセミナー
グリーン・ツーリズム&エコ・ツーリズム研修

(3) 開発研修 I～Ⅲの単位認定について

本学の主催する短期海外研修、国内研修及び個人・グループでの海外研修の成果を単位認定する科目です。原則として、以下の項目の研修申請により、研修期間12日（研修10日間と往復の移動日として2日間）をもって2単位を認定します。連続して22日間ならば最大4単位、32日間ならば最大6単位認定します。ただし、研修等の成果により単位認定として適当でないと判定する場合があります。また次の研修等の種類・内容により、単位認定等の基準が異なります。

a. 本学の主催する海外研修（短期研修等）

海外提携大学・短大等による「成績」、研修後に提出する「研修報告書」の内容及び研修期間等を総合的に評価し単位認定します。

b. 本学の主催する国内研修、ゼミナール研修及び国際学部教務委員会の認定する研修

引率教員等に提出する「研修報告書」及び研修期間等を総合的に評価し単位認定します。

c. 個人・グループでの研修

研修終了後に提出する「研修等報告書」、「現地における証明書（成績・出席状況等）」及び研修期間等を総合的に評価し単位認定します。

(4) 長期開発研修 I・IIの単位認定について

本学の主催する長期海外研修、交換留学及び個人・グループでの長期海外研修の成果を単位認定する科目です。原則として、以下の項目の研修申請により、研修期間3カ月以上（90日以上）の研修期間をもって6単位、6カ月以上（180日以上）であれば、最大12単位を認定します。ただし、研修等の成果により単位認定として適当でないと判定する場合があります。また次の研修等の種類・内容により、単位認定等の基準が異なります。

a. 本学の主催する海外研修（長期海外研修、交換留学等）

海外提携大学・短大等による「成績」及び研修後に八王子国際課に提出する「研修報告書」の内容及び研修期間等を総合的に評価し単位認定します。

#### b. 個人・グループでの海外研修

研修終了後に提出する「研修等報告書」、「現地における証明書（成績・出席状況等）」及び研修期間等を総合的に評価し単位認定します。

- ※(3)及び(4)の研修において、個人・グループでの研修は、研修等出発日30日前かつ各月の10日（原則）までに「開発研修届」あるいは「長期開発研修届」、「研修計画書」を八王子学務課に提出し、予め国際学部教務委員会に研修の実施について承諾を得てください。研修等終了後30日以内に「単位認定申請書」、「研修等報告書」、「現地における証明書（成績・出席状況等）」及び海外研修の場合はパスポートの出入国の分かる箇所の写真等を八王子学務課に提出してください。また、(3)及び(4)の研修期間を組み合わせでの単位認定は出来ません。

(5) 教職課程科目（教科及び教科の指導法に関する科目のうち教職課程専用科目、教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目）、日本語教員養成講座科目

※履修する場合は所定の登録手続と登録料の納入が必要です。なお、教職課程の各「教科教育法」と「教育実習」及び専門共通科目のうち、「教職」の区分にある科目は卒業要件に含まれませんので、自由科目としては認定されません。

(6) 自由科目のうち、単位互換協定に基づく単位互換科目とは、拓殖大学と他大学等において単位互換制度の協定を結んでいる他大学等の提供科目です。

※以下を参照してください。

## IV 単位互換制度について

### 1. 大学コンソーシアム八王子

「大学コンソーシアム八王子」は、地域の特性を活かし、大学・市民・経済団体・企業・行政などが連携・協働し、大学・学生・市民の方々にとって、よりいっそう魅力ある学園都市を目指して、2009年4月に設立されました。

大学コンソーシアム八王子の多彩な事業展開のなかに単位互換事業があり、単位互換協定を締結した大学・短期大学・高等専門学校では、相互の協力・交流・連携を推進し、教育の活性化と充実に資するとともに、学生に対して多様な学習機会を提供することを目的として、所属以外の大学等で開講する授業を履修料等免除で受講し、試験等に合格すれば単位を修得することができます。

希望者は申請期間内に本学にて申請することで、単位互換協定校での履修・単位認定をすることができます。申請方法等詳細については、ポータルサイト（Takudai Portal）および掲示等でお知らせします。

なお、個々の授業については、「単位互換履修生募集ガイド」(<https://gakuen-hachioji.jp/main-business/credit/>)を参照してください。

- (1) 申請期間 : ポータルサイト(Takudai Portal)および掲示等でお知らせします。
- (2) 申請方法 : ポータルサイト(Takudai Portal)および掲示等でお知らせします。  
※申請前に必ず、八王子学務課窓口へ申し出てください。
- (3) 成績評価 : 単位互換協定校で履修した科目の成績は、本学八王子学務課を通じて発表します。  
なお、認定単位数上限は10単位で自由科目（単位認定科目の名称は単位互換協定校における科目名）として認定され、認定された単位の評価はGPAの計算に含まれます。
- (4) 注意事項 : ①単位互換協定校での履修単位数は、履修単位数上限に含まれます。  
②許可を受けた履修科目の変更または取消しは、認められません。

## V 国際学科授業科目一覧表

＜全学共通教養科目配当表＞ 科目名の右側丸数字は単位数を示します [ ] は留学生所要単位

(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
A系列 国際性を高める	<1～4年>				2 [2]	4 [1] (左記の各系列必要単位の他に任意科目を修得すること)
	SDGs基礎	②	安全と危機管理	②		
	日本史	②	現代の国際関係	②		
	東洋史	②	防災と安全	②		
	イスラム社会の歴史と文化	②	文化人類学	②		
	西洋史	②	生態学	②		
	西洋文化史	②	環境科学	②		
	宗教学	②	講座「拓く力」(世界の中の日本)	②		
	人文地理学	②				
B系列 専門性の幅を広げる	<1～4年>				2 [2]	4 [1] (左記の各系列必要単位の他に任意科目を修得すること)
	日本国憲法	②	ジェンダー論	②		
	政治学	②	地球科学	②		
	社会学	②	物理学	②		
	経済学	②	化学	②		
	経営学	②	生物学	②		
	流通論	②	健康科学	②		
	近代社会の思想史	②	天文学	②		
	コミュニティ論	②	自然認識の歴史	②		
	福祉学	②	技術史・技術論	②		
C系列 人間性を高める	<1～4年>				2 [2]	4 [1] (左記の各系列必要単位の他に任意科目を修得すること)
	哲学	②	伝統芸能	②		
	倫理学	②	武道論	②		
	論理学	②	考古学	②		
	心理学	②	トレーニング理論	②		
	日本文学	②	スポーツの心理学	②		
	外国文学	②	スポーツの歴史と社会	②		
	美術	②	講座「スポーツと人間」	②		
	音楽	②	スポーツ演習	①		
映像文化論	②	トレーニング演習	①			
D系列 キャリア形成を行う	<1～4年>				2 [-]	4 [1] (左記の各系列必要単位の他に任意科目を修得すること)
	職業と人生	②	プレゼンテーションと交渉	②		
	文章表現の基礎	②	口頭表現の技法	②		
	レポートの書き方	②	ボランティア論	②		
ビジネス文の書き方	②	歴史の中の拓殖大学	②			
E系列 データを養う	<1～4年>				4 [4]	4 [1] (左記の各系列必要単位の他に任意科目を修得すること)
	AI・データサイエンス基礎	②	数学	②		
	ITパスポート	②	統計学	②		
	情報リテラシー	②				
<b>卒業所要単位合計</b>					<b>16</b>	<b>[10]</b>

<外国語科目配当表>

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します

[ ] は留学生所要単位

(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位
外国語科目	英語	<1年>			
		English Foundation Skills I	①	English Foundation Skills II	①
		English Oral Communication Skills I	①	English Oral Communication Skills II	①
		English Presentation Skills I	①	English Presentation Skills II	①
		<2年>			
		English Foundation Skills III	①	English Foundation Skills IV	①
	English Oral Communication Skills III	①	English Oral Communication Skills IV	①	
	English Presentation Skills III	①	English Presentation Skills IV	①	
	<1・2年>				
	実用英語 I	①	実用英語 II	①	
	<3・4年>				
	実用英語 III	①	実用英語 IV	①	
上級実用英語 I-A	①	上級実用英語 II-A	①		
上級実用英語 I-B	①	上級実用英語 II-B	①		
地域言語	地域言語	<1年>			
		初級地域言語 I-A	①	初級地域言語 II-A	①
		初級地域言語 I-B	①	初級地域言語 II-B	①
				地域言語リーディング	①
		<2年>			
		中級地域言語 I-A	①	中級地域言語 II-A	①
	中級地域言語 I-B	①	中級地域言語 II-B	①	
			地域言語ライティング	①	
	<3・4年>				
	上級地域言語 I	①	上級地域言語 II	①	
	地域言語上級リーディング&ライティング I	①	地域言語上級リーディング&ライティング II	①	
	日本語	日本語	<1年>		
日本語オーラル・コミュニケーション I-A			①	日本語オーラル・コミュニケーション II	①
日本語オーラル・コミュニケーション I-B			①	日本語リーディング&ライティング II	①
日本語リーディング&ライティング I-A			①	日本を知る I	②
日本語リーディング&ライティング I-B			①	日本を知る II	②
<2年>					
日本語オーラル・コミュニケーション III	①	日本語オーラル・コミュニケーション IV	①		
日本語リーディング&ライティング III	①	日本語リーディング&ライティング IV	①		
		日本を知る III	②		

※地域言語の種類=アラビア語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、ヒンディー語、インドネシア語、マレーシア語、韓国語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、フィリピン語

※上級地域言語の履修については29頁を参照してください。

※「国際スポーツコース」登録学生は、45頁の「英語科目配当表」を参照してください。

< 専門科目 >

< 専門共通科目配当表 >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します

(2025年度入学適者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業 所要単位	
専 門 共 通 科 目	< 1年 > 国際学入門 I	②	国際学入門 II	②	8	
	国際協力入門	②	国際文化入門	②		
	国際経済入門	②	国際観光入門	②		
	国際政治入門	②	農業総合入門	②		
	地域 研究	< 1～4年 > 中国	②	アフリカ	②	10
		朝鮮半島	②	南アジア	②	
		東南アジア	②	中央アジア・中東	②	
		ラテンアメリカ・オセアニア	②	ヨーロッパ	②	
		北米	②			
	経済 ・ 社会 ・ 心理	< 1～4年 > 国際社会学	②	現代の経済と社会	②	
		地域研究の方法	②	実践のまちづくり	②	
		メンタル・トレーニング	②			
< 2～4年 > 地球環境		②	社会調査法	②		
会計学 I	②	会計学 II	②			
法律 ・ 政治	< 1～4年 > 法律学概論 I	②	法律学概論 II	②		
	< 2～4年 > 国際法	②	民法	②		
	国際経済法	②	国際取引法	②		
情報	< 1年 > データサイエンス I	②	データサイエンス II	②		
	< 2～4年 > 開発データ分析 I	②	開発データ分析 II	②		
	地域データ分析	②				
教 職	< 2～4年 > 日本史概論 I	②	日本史概論 II	②	※注	
	外国史概論 I	②	外国史概論 II	②		
	人文地理学概論 I	②	人文地理学概論 II	②		
	自然地理学概論 I	②	自然地理学概論 II	②		
	地誌学概論 I	②	地誌学概論 II	②		

※ ( ) 内は配当年次

※注 卒業所要単位には含まない

## < 国際協力コース >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。[ ] は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
コース基本	< 2年 > <b>国際協力論</b>	②	<b>ODA概論</b>	②	8	
	< 4年 > <b>卒業論文</b>	④			[8]	
	国・地域別選択	< 2～4年 > 中国の経済	②	台湾の政治と経済	②	10 [10]
		タイの政治と経済	②	朝鮮半島の政治と経済	②	
		インドネシアの政治と経済	②	マレーシア・シンガポールの政治と経済	②	
		アフリカの政治と経済	②	フィリピンの政治と経済	②	
		中東の政治と経済	②	インドシナの政治と経済	②	
		北米の経済	②	インドの経済	②	
		ラテンアメリカの経済 南アジアの政治と経済	② ②	オセアニアの政治と経済	②	
	専門科目	テーマ別選択&ゼミナール	< 2～4年 > インフラ開発	②	経済発展	②
ジェンダーと開発			②	都市開発	②	
環境経済学			②	制度開発	②	
開発コンサルティング			②	開発とNGO	②	
コミュニティ開発			②	開発と貧困	②	
開発経済学			②	環境政策	②	
都市交通計画			②	アジアの環境問題	②	
平和構築			②	開発教育	②	
人口学			②	新興国ビジネス論	②	
< 1～4年 > 国際社会とボランティア			②	ボランティア活動Ⅰ	②	
ボランティア活動Ⅱ		②	ボランティア活動Ⅲ	②		
グローバルファシリテーション		②				
< 1年 > クラスゼミナール		②				
2年ゼミナール	④					
3年ゼミナール	④					
4年ゼミナール	④					
自由科目	< 1～4年 > 職業能力基礎(SPI)非言語 ② 職業能力基礎(SPI)言語 ② 国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ② 開発研修Ⅱ ② 開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥ 長期開発研修Ⅱ ⑥				24 [24]	
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部の科目を除く)・日本語教員養成講座各科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)					

※ 〈 〉 内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。

## < 国際経済コース >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。[ ]は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
コース基本	<2年> 開発経済学	②	国際経済学	②	8	
	<4年> 卒業論文	④			[8]	
	国・地域別選択	<2~4年> 中国の経済	②	台湾の政治と経済	②	10 [10]
		タイの政治と経済	②	朝鮮半島の政治と経済	②	
		インドネシアの政治と経済	②	マレーシア・シンガポールの政治と経済	②	
		アフリカの政治と経済	②	フィリピンの政治と経済	②	
		中東の政治と経済	②	インドシナの政治と経済	②	
		北米の経済	②	インドの経済	②	
		ラテンアメリカの経済	②	オセアニアの政治と経済	②	
		南アジアの政治と経済	②			
専門科目	<2~4年> マクロ経済学	②	ミクロ経済学	②	24 [24]	
	国際金融	②	世界経済	②		
	環境経済学	②	人口学	②		
	日本経済	②	資源論	②		
	在外華人	②	アジアの環境問題	②		
	国際経営	②	観光産業	②		
	地域統合	②	経済発展	②		
	産業論	②	新興国ビジネス論	②		
	地域経済論	②				
	<1~4年> 国際社会とボランティア	②	ボランティア活動Ⅰ	②		
ボランティア活動Ⅱ	②	ボランティア活動Ⅲ	②			
<1年> クラスゼミナール	②					
2年ゼミナール	④					
3年ゼミナール	④					
4年ゼミナール	④					

自由科目	<1~4年> 職業能力基礎(SPI)非言語 ② 職業能力基礎(SPI)言語 ② 国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ② 開発研修Ⅱ ② 開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥ 長期開発研修Ⅱ ⑥				24 [24]
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部の科目を除く)・日本語教員養成講座科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)				

※( )内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。

## < 国際政治コース >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。[ ]は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
コース 基本	< 2年 > 国際政治	②	安全保障	②	8	
	< 4年 > 卒業論文	④			[8]	
	国・地域別 選択	< 2～4年 > 中国の政治	②	台湾の政治と経済	②	10 [10]
		タイの政治と経済	②	日本と中国	②	
		インドネシアの政治と経済	②	朝鮮半島の政治と経済	②	
		インドの政治	②	マレーシア・シンガポールの政治と経済	②	
		アフリカの政治と経済	②	フィリピンの政治と経済	②	
		中東の政治と経済	②	ラテンアメリカの政治	②	
		日米関係	②	インドシナの政治と経済	②	
		北米の政治	②	アジア史	②	
南アジアの政治と経済		②	オセアニアの政治と経済	②		
ロシア・中東欧		②				
専 門 科 目	< 2～4年 > 政治と民族	②	平和構築	②	24 [24]	
	国際協力論	②	開発とNGO	②		
	日本外交史	②	民族と宗教	②		
	開発経済学	②	経済発展	②		
	国際紛争	②	資源論	②		
	地域統合	②	ODA概論	②		
	現代のジャーナリズム	②				
	< 1～4年 > 国際社会とボランティア	②	ボランティア活動Ⅰ	②		
	ボランティア活動Ⅱ	②	ボランティア活動Ⅲ	②		
	< 1年 > クラスゼミナール	②				
2年ゼミナール	④					
3年ゼミナール	④					
4年ゼミナール	④					
自 由 科 目	< 1～4年 > 職業能力基礎(SPI)非言語 ② 職業能力基礎(SPI)言語 ② 国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ② 開発研修Ⅱ ② 開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥ 長期開発研修Ⅱ ⑥				24	
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部の科目を除く)・日本語教員養成講座科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)				[24]	

※〈 〉内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。

## ＜国際文化コース＞

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。〔 〕は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位
コ ー ス 専 門 科 目	コース基本	＜2年＞ 比較文化 ②      民族と宗教 ②			8
		＜4年＞ 卒業論文 ④			〔8〕
	国・地域別選択	＜2～4年＞ 日本の歴史 ②      日本の文化 ② 台湾の歴史と文化 ②      アジア史 ② フィリピンの歴史と文化 ②      タイの歴史と文化 ② インドシナの歴史と文化 ②      マレーシアの歴史と文化 ② 南アジアの歴史と文化 ②      朝鮮半島の歴史と文化 ② オセアニアの歴史と文化 ②      インドネシアの歴史と文化 ② 米国の歴史と文化 ②      ラテンアメリカの歴史と文化 ② アフリカの歴史と文化 ②      中国の歴史と文化 ②			10 〔10〕
	テーマ別選択&ゼミナール	＜2～4年＞ ジェンダーと開発 ②      現代のジャーナリズム ② 在外華人 ②      開発とNGO ② 言語と文化 ②      エコツーリズム ② 観光と文化 ②			24
		＜1～4年＞ 国際社会とボランティア ②      ボランティア活動Ⅰ ② ボランティア活動Ⅱ ②      ボランティア活動Ⅲ ②			〔24〕
		＜1年＞ クラスゼミナール ②			
		2年ゼミナール ④			
		3年ゼミナール ④			
		4年ゼミナール ④			
	自由科目	＜1～4年＞ 職業能力基礎(SPI)非言語 ②      職業能力基礎(SPI)言語 ②      国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ②      開発研修Ⅱ ②      開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥      長期開発研修Ⅱ ⑥			24
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部の科目を除く)・日本語教員養成講座科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)			〔24〕	

※〈 〉内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。

## < 国際観光コース >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。[ ]は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
コース 基本	< 2年 > 国際観光	②	観光産業	②	8	
	< 4年 > 卒業論文	④			[8]	
	国・地域別 選択	< 2～4年 > 日本の歴史	②	日本の文化	②	10 [10]
		中国の歴史と文化	②	アジア史	②	
		台湾の歴史と文化	②	タイの歴史と文化	②	
		フィリピン人の歴史と文化	②	マレーシアの歴史と文化	②	
		インドシナの歴史と文化	②	朝鮮半島の歴史と文化	②	
		南アジアの歴史と文化	②	インドネシアの歴史と文化	②	
		オセアニアの歴史と文化	②	ラテンアメリカの歴史と文化	②	
		米国の歴史と文化	②	アフリカの歴史と文化	②	
コース 専門 科目	テーマ別 選択&ゼミ ナール	< 2～4年 > 観光交通	②	観光社会学	②	24 [24]
		リゾート開発	②	環境政策	②	
		ホスピタリティ	②	観光危機管理	②	
		観光政策	②	エコツーリズム	②	
		観光と開発	②	観光と文化	②	
		比較文化	②	民族と宗教	②	
		観光と地域	②	新興国ビジネス論	②	
		< 1～4年 > 国際社会とボランティア	②	ボランティア活動Ⅰ	②	
		ボランティア活動Ⅱ	②	ボランティア活動Ⅲ	②	
		< 1年 > クラスゼミナール	②			
2年ゼミナール	④					
3年ゼミナール	④					
4年ゼミナール	④					
自由 科目	< 1～4年 > 職業能力基礎(SPI)非言語 ② 職業能力基礎(SPI)言語 ② 国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ② 開発研修Ⅱ ② 開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥ 長期開発研修Ⅱ ⑥				24	
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部科目を除く)・日本語教員養成講座科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)				[24]	

※ < > 内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。

< 農業総合コース >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。[ ] は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
コース基本	< 2年 > 農業基礎と世界の土壌	②	農業生態学	②	8	
	< 4年 > 卒業論文	④			[8]	
	国・地域別選択	< 2～4年 > 中国の経済	②	台湾の政治と経済	②	10 [10]
		タイの政治と経済	②	朝鮮半島の政治と経済	②	
		インドネシアの政治と経済	②	マレーシア・シンガポールの政治と経済	②	
		アフリカの政治と経済	②	フィリピンの政治と経済	②	
		中東の政治と経済	②	インドシナの政治と経済	②	
		北米の経済	②	インドの経済	②	
		ラテンアメリカの経済	②	オセアニアの政治と経済	②	
		南アジアの政治と経済	②			
テーマ別選択&ゼミナール	< 2～4年 > 森林生態学	②	国際農業協力論	②	24 [24]	
	ヨーロッパ・アメリカの農業	②	農業と開発	②		
	開発経済学	②	開発とNGO	②		
	環境経済学	②	アジアの環境問題	②		
	コミュニティ開発	②	環境政策	②		
	農業入門演習Ⅰ-A	②	農業入門演習Ⅰ-B	②		
	農業入門演習Ⅱ	②	資源論	②		
	開発と貧困	②				
	< 3年 > 農業応用演習Ⅰ	②	農業応用演習Ⅱ	②		
	農業応用演習Ⅲ	②	農業応用演習Ⅳ	②		
北短提供科目		農産加工演習	②			
< 1～4年 > 国際社会とボランティア	②	ボランティア活動Ⅰ	②			
ボランティア活動Ⅱ	②	ボランティア活動Ⅲ	②			
< 1年 > クラスゼミナール	②					
2年ゼミナール	④					
3年ゼミナール	④					
4年ゼミナール	④					
自由科目	< 1～4年 > 職業能力基礎(SPI)非言語 ② 職業能力基礎(SPI)言語 ② 国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ② 開発研修Ⅱ ② 開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥ 長期開発研修Ⅱ ⑥				24 [24]	
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部科目を除く)・日本語教員養成講座科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)					

※〈 〉内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。

## < 国際スポーツコース >

太文字は必修科目、科目名の右側丸数字は単位数を示します。[ ] は留学生所要単位  
(2025年度入学者適用)

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位	
コース 基本	< 2年 > スポーツと国際協力	②	スポーツと生涯教育	②	8	
	< 4年 > 卒業論文	④			[8]	
	国・地域別 選択	< 2～4年 > 日本の歴史	②	日本の文化	②	10 [10]
		台湾の歴史と文化	②	アジア史	②	
		フィリピンの歴史と文化	②	タイの歴史と文化	②	
		インドシナの歴史と文化	②	マレーシアの歴史と文化	②	
		南アジアの歴史と文化	②	朝鮮半島の歴史と文化	②	
		オセアニアの歴史と文化	②	インドネシアの歴史と文化	②	
		米国の歴史と文化	②	ラテンアメリカの歴史と文化	②	
		アフリカの歴史と文化	②	中国の歴史と文化	②	
専門 科目	< 2～4年 > 開発とNGO	②	開発経済学	②	24 [24]	
	体育及びレクリエーション指導	②	スポーツと国際社会	②		
	スポーツ医学A	②	スポーツ医学B	②		
	スポーツ経営論	②	競技者養成システム論	②		
	コーチング論A	②	コーチング論B	②		
	スポーツ栄養学	②	武道論演習Ⅰ	②		
	武道論演習Ⅱ	②				
	< 1～4年 > ボランティア活動Ⅰ	②	ボランティア活動Ⅱ	②		
	ボランティア活動Ⅲ	②	国際ボランティア活動	②		
	グローバルファシリテーション	②				
< 1年 > クラスゼミナール	②					
2年ゼミナール	④					
3年ゼミナール	④					
4年ゼミナール	④					
自由 科目	< 1～4年 > 職業能力基礎(SPI)非言語 ② 職業能力基礎(SPI)言語 ② 国際特別講座 ② 開発研修Ⅰ ② 開発研修Ⅱ ② 開発研修Ⅲ ② 長期開発研修Ⅰ ⑥ 長期開発研修Ⅱ ⑥				24 [24]	
	・全学共通教養科目の卒業所要単位超過修得分 ・外国語科目の卒業所要単位超過修得分 ・専門科目(専門共通科目・コース専門科目)の卒業所要単位超過修得分 ・他学部他コースの配当科目の修得単位 ・教職課程(一部科目を除く)・日本語教員養成講座科目の修得単位 ・単位互換協定に基づく単位互換科目 (履修が許可されている他大学等の科目に限る:10単位を上限とする)					

※( )内は配当年次 ※自由科目の履修方法については、30頁を参照。



## 国際スポーツコースの履修について



# I. 英語科目の履修上注意

国際学部国際スポーツコース生の英語科目は下記のとおり配当します。

ただし、**教職課程を登録する学生は「ESP I」を履修せず「English Oral Communication Skills I」および「English Oral Communication Skills II」を履修してください。**（下表「教職課程履修者配当表」参照）教員免許状を取得するために必要な科目です。

なお、英語の授業については全てクラス指定で行われますので、必ず指定されたクラスで受講してください。

※資格試験等に基づく単位認定は28頁に準じます。

〈国際スポーツコース 英語科目配当表〉

（2025年度入学者適用）

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位
外国語科目	<1年> ESP I ESP III	② ②	ESP II	②	14
	<2年> ESP IV ESP VI	② ②	ESP V	②	
	<3年> ESP VII	②			
	<1・2年> 実用英語 I	①	実用英語 II	①	
	<3・4年> 上級実用英語 I - A 上級実用英語 I - B	① ①	上級実用英語 II - A 上級実用英語 II - B	① ①	

太文字は必修科目、科目名の右側数字は単位数を示します

〈国際スポーツコース 教職課程履修者 英語科目配当表〉

（2025年度入学者適用）

区分	科目名	単位	科目名	単位	卒業所要単位
外国語科目	<1年> English Oral Communication Skills I ESP II	① ②	English Oral Communication Skills II ESP III	① ②	14
	<2年> ESP IV ESP VI	② ②	ESP V	②	
	<3年> ESP VII	②			
	<1・2年> 実用英語 I	①	実用英語 II	①	
	<3・4年> 上級実用英語 I - A 上級実用英語 I - B	① ①	上級実用英語 II - A 上級実用英語 II - B	① ①	

太文字は必修科目、科目名の右側数字は単位数を示します

## Ⅱ. スポーツ指導者基礎資格

### 1 スポーツ指導者基礎資格「コーチングアシスタント」とスポーツ関係科目

公益財団法人日本スポーツ協会(以下、「スポーツ協会」という)、およびスポーツ協会加盟団体等は生涯スポーツ社会の実現を目指し、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を構築するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成しています。また、スポーツ振興の一環として、各種指導者認定を行い、競技スポーツや地域スポーツの指導者育成事業を行っています。この資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブ指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

国際学部では将来地域スポーツ指導者としての資格を取得できるようにするため、スポーツ協会が認定するスポーツ指導者養成のための科目を開講します。資格を取得するためには、スポーツ協会で定めた「共通科目」を修了する必要がありますが、スポーツ協会との協定により別表「資格申請(免除)に必要な科目」中の10科目すべてを単位修得し、スポーツ協会へ申請することにより、「コーチングアシスタント」資格の取得に必要な「共通科目Ⅲコース」の講習が免除され、共通科目検定試験(オンラインテスト)に合格し、登録手続き(要、別途、登録費用)を行うことで、資格が認定されます(資格認定の有効期間は4年間(更新制))。

卒業後、各都道府県体育協会や競技団体などが実施する「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「アスレティックトレーナー」等の「専門科目」を受講し修了することにより、それぞれの資格を得ることができます。

別表「資格申請(免除)に必要な科目」

(2025年度入学者適用)

科目区分	配当年次	科目名 (単位数)	スポーツ協会共通カリキュラム
全学共通教養科目 (C系列 人間性を高める)	1年次	スポーツの歴史と社会 (2)	【コーチングを理解しよう】の項目 コーチングとは、コーチに求められる役割、 コーチに求められる知識とスキル、対他者力を 磨こう、対自己力を磨こう、スポーツの異議と 価値、スポーツの価値を守るスポーツ権、 スポーツの自治、暴力・ハラスメントの根絶、 スポーツのイングリティ、スポーツ事故におけ るスポーツ指導者の法的責任、スポーツ仲裁、 スポーツ倫理、時代をリードするコーチング  【グッドコーチに求められる医・科学的 知識】の項目 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論 体系、体力のトレーニング、スキルトレーニング 心のトレーニング、スポーツと栄養、スポーツに 関連する医学的知識、アンチ・ドーピング  【現場・環境に応じたコーチング】の項目 コーチング環境の特徴、ハイパフォーマンス スポーツにおける今日的なコーチング、スポーツ 組織のマネジメント、障がい者とスポーツ
		スポーツの心理学 (2)	
		トレーニング理論 (2)	
コース専門科目 (テーマ別選択& ゼミナール)	2年次	スポーツ栄養学 (2)	
		スポーツ経営論 (2)	
		コーチング論A (2)	
		コーチング論B (2)	
		スポーツ医学A (2)	
		スポーツ医学B (2)	
		競技者養成システム論 (2)	

## 2 資格の内容と取得条件

国際学部で開講している「資格申請(免除)に必要な科目」10科目を履修・修得し、共通科目検定試験(オンラインテスト)に合格し、登録手続き(要、別途、登録費用)を行うことで、スポーツ指導者基礎資格である、「コーチングアシスタント」資格を取得することができます。資格の詳細は以下の表で確認してください。

(2025年度入学者適用)

資格	資格内容
コーチングアシスタント (基礎資格)	(養成目的) ・地域住民のスポーツの生活化・定着化を促進するためのスポーツ指導者をサポートする人材の育成 (役割) ・地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる (認定により備えられる知識と能力) ・スポーツに関する基礎知識 ・ボランティアに関する基礎知識

## 3 申請手続き

資格取得申請を希望する学生は、スポーツ協会の「マイページ登録」、およびリファレンスブックの購入と「資格申請(免除)に必要な科目」の単位を全て修得した上で、別途指定する期間に申請手続きを行ってください。申請方法等詳細については、説明会やポータルサイト(Takudai Portal)、および掲示等でお知らせします。



## 「環境再生医」初級資格



## 「環境再生医」初級資格

### (1) 「環境再生医」の概要

環境再生医とは、認定NPO法人自然環境復元協会が定める民間資格で、環境関連の実務経験2年以上の者を対象に年1回実施する講習の受講と試験に合格することによって取得できます。急速に失われていく自然環境を再生し、持続可能な循環型社会を構築するためには、行政・産業界・教育界・地域住民などの協働が必要不可欠とされています。環境再生医は自然環境に関する専門的知識や地域の歴史・風土への理解などの裏付けのもとに、この協働を市民の立場で調整・推進していくことをその役割としており、地域の環境を診断し、治療を行う「わが町の環境のお医者さん」との意味から名付けられたものです。

### (2) 「環境再生医」初級資格の取得

国際学部は、認定NPO法人自然環境復元協会が認定する「環境再生医」初級資格の認定基準を満たしていることから、本プログラム履修学生は、協会が指定する以下の対応科目の単位を履修・修得し、ガイダンスを含む所定の手続きを行うことにより、「環境再生医」初級資格を取得することができます。

### (3) 「環境再生医」初級資格認定講習の本学対応科目一覧

(2025年度入学者適用)

初級認定講習項目	本学対応科目	(単位数)	必要単位数
1. 地球環境問題・ 自然環境復元概論	アジアの環境問題	(2)	4以上
	地球環境	(2)	
	森林生態学	(2)	
	技術史・技術論	(2)	
	地球科学	(2)	
	環境科学	(2)	
2. 自然環境の再生	都市開発	(2)	2以上
	実践のまちづくり	(2)	
	生態学	(2)	
	農業生態学	(2)	
	農業基礎と世界の土壌	(2)	
	農業と開発	(2)	
3. 資源循環	資源論	(2)	4以上
	環境経済学	(2)	
	開発経済学	(2)	
	エコツーリズム	(2)	
	ヨーロッパ・アメリカの農業	(2)	
	観光政策	(2)	
	観光と開発	(2)	
	観光社会学	(2)	
	国際特別講座(グリーン・ツーリズム&エコ・ツーリズム研修)	(2)	
4. 環境教育・市民活動	ボランティア論	(2)	4以上
	コミュニティ論	(2)	
	開発とNGO	(2)	
	国際社会とボランティア	(2)	
	コミュニティ開発	(2)	
	ボランティア活動I~III	(各2)	
	開発教育	(2)	
	開発コンサルティング	(2)	
	地域データ分析	(2)	
SDGs基礎	(2)		
5. 環境行政・関係法令	現代の経済と社会	(2)	2以上
	環境政策	(2)	
	地域経済論	(2)	
必要な修得単位数の合計			16

### (4) 申請手続

資格取得希望者がガイダンスに出席し、指定する期間内に、以下の申請書類を八王子学務課窓口へ提出してください。このガイダンスに出席しないと資格取得できませんので注意してください。

【申請書類】 ①環境再生医初級資格 受験・認定希望申請書 ②最新の学業成績表(写)

③認定料: 8,000円 ※資格認定申請時に納入

※申請書類の配布・日程等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal) および掲示等でお知らせします。



**「カリキュラム・マップ」「科目ナンバリング」  
及び「カリキュラム・ツリー」**



## 「カリキュラム・マップ」「科目ナンバリング」及びカリキュラム・ツリー

「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」（以下「DP」という。）における教育研究上の到達目標を達成するためには、卒業までに身につけるべき知識・能力と授業科目との間の対応関係を理解し、順次性のある体系的な履修計画を立てることが重要となります。この履修計画を立てる際に役立ててもらうため「カリキュラム・マップ」「科目ナンバリング」及び「カリキュラム・ツリー（履修系統図）」を次のとおり作成しました。これらは、到達目標がより明確となり学修への動機付けが高まるとともに、将来の進路を考慮して学修計画に役立てられることが期待できるものです。

### 1 カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、DPの到達目標と授業との関係性を明確したもので、卒業までに身につけるべき知識・能力と授業科目との間の対応関係を表すものです。

#### 1. 国際学部 DP到達目標のキーワード

区 分	到達目標のキーワード
DP 1	基礎知識
DP 2	コミュニケーション力
DP 3	実践力
DP 4	専門的知識
DP 5	問題発見解決能力

#### 2. 国際学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学部国際学科の7コースでは以下に示す教育目標を掲げている。

- (1) 国際協力コース  
開発途上国及び新興国への協力の在り方及びその改善策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (2) 国際経済コース  
世界がともに経済発展を遂げるための具体的な方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (3) 国際政治コース  
紛争や対立を解決に導く平和・安全保障の未来形を提示し、これを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (4) 国際文化コース  
歴史や文化への理解をもとに世界とコミュニケーションする方法を学びこれを積み上げていく方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (5) 国際観光コース  
大交流時代に相応しい観光の在り方とこれを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (6) 農業総合コース  
農業ビジネス・環境保全・農村開発の推進役としてとるべき具体的な行動プランを考案できる専門的知識と能力の修得
- (7) 国際スポーツコース  
スポーツを通じた国際交流や社会貢献活動を考案し、それを実行できる能力の修得

国際学部国際学科では、全学共通教養科目、外国語科目、専門共通科目、上記の各コース専門科目および自由科目の所定単位を修得することで、①三つの力〔**基礎知識 (DP1)**、**コミュニケーション力 (DP2)**、**実践力 (DP3)**〕を身につけ、②各コースの**専門的知識 (DP4)**を体系的に修得し、この知識・技能を駆使して、③各コースに関わる国際社会的課題を自ら設定し、必要な情報の収集・分析を行い、他者と協調・協働しながら、その**課題を解決できる能力 (DP5)**を身につけたと認められる学生に対して、卒業を認定し学士（国際開発）の学位を授与する。

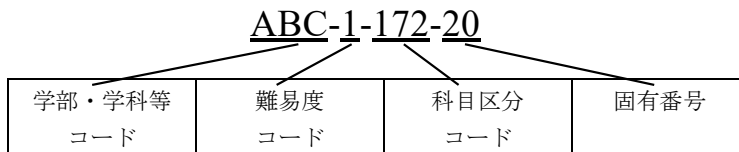
国際学部国際学科の教育課程を修め、以上の教育目標に十分達したと認められた学位取得者は、国際的なビジネスを展開する企業（貿易・商社、金融・証券、メーカー、観光、農業、スポーツ）や国際協力・交流に取り組む国際機関・団体などの職業で、優れた能力を発揮できる。

## 2 科目ナンバリングとカリキュラム・ツリー（履修系統図）

科目ナンバリングは、授業科目に番号を付し分類することで、教育課程の体系的性や学修の段階・順序等を表すものです。これにより学問分野や難易度に応じて授業科目を選びやすくなります。

### 1. 科目ナンバリングの体系

#### (1) コードの構成



#### (2) 学部学科等コード

国際学部	Faculty of International Studies	FIS
国際学科	Department of International Studies	DIS
国際協力コース	International Cooperation Course	CIC
国際経済コース	International Economics Course	CIE
国際政治コース	International Politics Course	CIP
国際文化コース	International Culture Course	CIU
国際観光コース	International Tourism Course	CIT
農業総合コース	General Agriculture Course	CGA
国際スポーツコース	International Sports Course	CIS
全学共通教養科目	University General Education	UGE
教職課程科目	University Teaching License Program	UTL
日本語教員養成講座	University Japanese Language Education Program	UJE

#### (3) 難易度

難易度コード	目 安
1	基礎的な科目
2	応用的な科目
3	発展的な科目
4	卒業研究、卒業論文等

#### (4) 科目区分コード

学部等別に科目区分ごとのコードを付しています。

##### 1. 全学共通教養科目 (各コース共通)

全学共通教養科目	A系列 国際性を高める	100
	B系列 専門性の幅を広げる	110
	C系列 人間性を高める	120
	D系列 キャリア形成を行う	130
	E系列 データ活用能力を養う	140

##### 2. 外国語科目 (各コース共通)

外国語科目	英語	201
地域言語	アラビア語	211
	ブラジル・ポルトガル語	212
	中国語	213
	ヒンディー語	214
	インドネシア語	215
	マレーシア語	216
	韓国語	217
	スペイン語	218
	タイ語	219
	ベトナム語	220
	フィリピン語	221
	日本語	222

##### 3. 専門共通科目 (各コース共通)

専門共通科目	コース入門	301
	地域研究	311
	経済・社会・心理	321
	法律・政治	331
	情報	361
	教職	351

##### 4. コース専門科目 (コース共通)

コース専門科目	コース基本科目	401
	国・地域別選択科目	411
	テーマ別選択科目&ゼミナール	421

##### 5. 自由科目 (コース共通)

自由科目	501
------	-----

#### (5) 固有番号

科目区分ごとの履修順序を極力考慮して、科目を識別する「固有番号」を付しています。

## 2. カリキュラムマップ及び科目ナンバリング、カリキュラムツリー

(1) 全学共通教養科目 カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区 分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケー ション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決 能力)
全学共通 教養科目	A系列 国際性を 高める	SDG③基礎	1・2・3・4	UGE-1-100-01	2	◎				
		日本史	1・2・3・4	UGE-1-100-02	2	◎				
		東洋史	1・2・3・4	UGE-1-100-03	2	◎				
		イスラム社会の歴史と文化	1・2・3・4	UGE-1-100-04	2	◎				
		西洋史	1・2・3・4	UGE-1-100-05	2	◎				
		西洋文化史	1・2・3・4	UGE-1-100-06	2	◎				
		宗教学	1・2・3・4	UGE-1-100-07	2	◎				
		人文地理学	1・2・3・4	UGE-1-100-08	2	◎				
		安全と危機管理	1・2・3・4	UGE-1-100-09	2	◎				
		現代の国際関係	1・2・3・4	UGE-1-100-10	2	◎				
		防災と安全	1・2・3・4	UGE-1-100-11	2	◎				
		文化人類学	1・2・3・4	UGE-1-100-12	2	◎				
		生態学	1・2・3・4	UGE-1-100-13	2	◎				
		環境科学	1・2・3・4	UGE-1-100-14	2	◎				
		講座「拓く力」(世界の中の日本)	1・2・3・4	UGE-1-100-15	2	◎				
	B系列 専門性の 幅を広げ る	日本国憲法	1・2・3・4	UGE-1-110-01	2	◎				
		政治学	1・2・3・4	UGE-1-110-02	2	◎				
		社会学	1・2・3・4	UGE-1-110-03	2	◎				
		経済学	1・2・3・4	UGE-1-110-04	2	◎				
		経営学	1・2・3・4	UGE-1-110-05	2	◎				
		流通論	2・3・4	UGE-1-110-06	2	◎				
		近代社会の思想史	1・2・3・4	UGE-1-110-07	2	◎				
		コミュニティ論	1・2・3・4	UGE-1-110-08	2	◎				
		福祉学	1・2・3・4	UGE-1-110-09	2	◎				
		ジェンダー論	1・2・3・4	UGE-1-110-10	2	◎				
		地球科学	1・2・3・4	UGE-1-110-11	2	◎				
		物理学	1・2・3・4	UGE-1-110-12	2	◎				
		化学	1・2・3・4	UGE-1-110-13	2	◎				
		生物学	1・2・3・4	UGE-1-110-14	2	◎				
		健康科学	1・2・3・4	UGE-1-110-15	2	◎				
天文学	1・2・3・4	UGE-1-110-16	2	◎						
自然認識の歴史	1・2・3・4	UGE-1-110-17	2	◎						
技術史・技術論	1・2・3・4	UGE-1-110-18	2	◎						

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)	
全学共通 教養科目	O系列 人間性を高める	哲学	1・2・3・4	UGE-1-120-01	2	◎					
		倫理学	1・2・3・4	UGE-1-120-02	2	◎					
		論理学	1・2・3・4	UGE-1-120-03	2	◎					
		心理学	1・2・3・4	UGE-1-120-04	2	◎					
		日本文学	1・2・3・4	UGE-1-120-05	2	◎					
		外国文学	1・2・3・4	UGE-1-120-06	2	◎					
		美術	1・2・3・4	UGE-1-120-07	2	◎					
		音楽	1・2・3・4	UGE-1-120-08	2	◎					
		映像文化論	1・2・3・4	UGE-1-120-09	2	◎					
		伝統芸能	1・2・3・4	UGE-1-120-10	2	◎					
		武道論	1・2・3・4	UGE-1-120-11	2	◎					
		考古学	1・2・3・4	UGE-1-120-12	2	◎					
		トレーニング理論	1・2・3・4	UGE-1-120-13	2	◎					
		スポーツの心理学	1・2・3・4	UGE-1-120-14	2	◎					
		スポーツの歴史と社会	1・2・3・4	UGE-1-120-15	2	◎					
		講座「スポーツと人間」	1・2・3・4	UGE-1-120-16	2	◎					
		スポーツ演習	1・2・3・4	UGE-1-120-17	1	◎					
		トレーニング演習	1・2・3・4	UGE-1-120-18	1	◎					
	D系列 キャリア形成を行う	職業と人生	1・2・3・4	UGE-1-130-01	2	◎					
		文章表現の基礎	1・2・3・4	UGE-1-130-02	2	◎					
		レポートの書き方	1・2・3・4	UGE-1-130-03	2	◎					
		ビジネス文の書き方	1・2・3・4	UGE-1-130-04	2	◎					
		プレゼンテーションと交渉	1・2・3・4	UGE-1-130-05	2	◎					
		口頭表現の技法	1・2・3・4	UGE-1-130-06	2	◎					
		ボランティア論	1・2・3・4	UGE-1-130-07	2	◎					
		歴史の中の拓殖大学	1・2・3・4	UGE-1-130-08	2	◎					
	E系列 データ活用能力を養う	AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4	UGE-1-140-01	2	◎					
		IT/パスポート	1・2・3・4	UGE-1-140-02	2	◎					
		情報リテラシー	1・2・3・4	UGE-1-140-03	2	◎					
		数学	1・2・3・4	UGE-1-140-04	2	◎					
		統計学	1・2・3・4	UGE-1-140-05	2	◎					
	開講科目数 小計①(◎の科目のみカウント)						64	0	0	0	0

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目

## (2) 外国語科目 カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次 -期別	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケー ション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決 能力)
外国語科目	英語	English Foundation Skills I	1前	DIS-1-201-01	1		○	◎		
		English Foundation Skills II	1後	DIS-1-201-02	1		○	◎		
		English Foundation Skills III	2前	DIS-2-201-03	1			◎		
		English Foundation Skills IV	2後	DIS-2-201-04	1			◎		
		English Oral Communication Skills I	1前	DIS-1-201-05	1		○	◎		
		English Oral Communication Skills II	1後	DIS-1-201-06	1		○	◎		
		English Oral Communication Skills III	2前	DIS-2-201-07	1			◎		
		English Oral Communication Skills IV	2後	DIS-2-201-08	1			◎		
		English Presentation Skills I	1前	DIS-1-201-09	1		○	◎		
		English Presentation Skills II	1後	DIS-1-201-10	1		○	◎		
		English Presentation Skills III	2前	DIS-2-201-11	1			◎		
		English Presentation Skills IV	2後	DIS-2-201-12	1			◎		
		ESP I	1後	DIS-1-201-13	2		○	◎	○	
		ESP II	1前	DIS-1-201-14	2		○	◎	○	
		ESP III	1前	DIS-1-201-15	2		○	◎	○	
		ESP IV	2後	DIS-2-201-16	2			◎	○	
		ESP V	2前	DIS-2-201-17	2			◎	○	
		ESP VI	2前	DIS-2-201-18	2			◎	○	
		ESP VII	3前	DIS-3-201-19	2			◎	○	
		実用英語 I	1・2前	DIS-1-201-20	1			◎	○	
		実用英語 II	1・2後	DIS-1-201-21	1			◎	○	
		実用英語 III	3・4前	DIS-3-201-22	1			◎	○	
		実用英語 IV	3・4後	DIS-3-201-23	1			◎	○	
		上級実用英語 I—A	3・4前	DIS-3-201-24	1			◎	○	
		上級実用英語 I—B	3・4前	DIS-3-201-25	1			◎	○	
		上級実用英語 II—A	3・4後	DIS-3-201-26	1			◎	○	
		上級実用英語 II—B	3・4後	DIS-3-201-27	1			◎	○	
	地域言語	初級アラビア語 I—A	1前	DIS-1-211-01	1		○	◎		
		初級アラビア語 I—B	1前	DIS-1-211-02	1		○	◎		
		初級アラビア語 II—A	1後	DIS-1-211-03	1		○	◎		
		初級アラビア語 II—B	1後	DIS-1-211-04	1		○	◎		
		アラビア語リーディング	1後	DIS-1-211-05	1		○	◎		
中級アラビア語 I—A		2前	DIS-2-211-06	1			◎			
中級アラビア語 I—B		2前	DIS-2-211-07	1			◎			
中級アラビア語 II—A		2後	DIS-2-211-08	1			◎			
中級アラビア語 II—B		2後	DIS-2-211-09	1			◎			
アラビア語ライティング		2後	DIS-2-211-10	1			◎			
初級ブラジル・ポルトガル語 I—A		1前	DIS-1-212-01	1		○	◎			
初級ブラジル・ポルトガル語 I—B		1前	DIS-1-212-02	1		○	◎			
初級ブラジル・ポルトガル語 II—A		1後	DIS-1-212-03	1		○	◎			
初級ブラジル・ポルトガル語 II—B		1後	DIS-1-212-04	1		○	◎			
ブラジル・ポルトガル語リーディング		1後	DIS-1-212-05	1		○	◎			

区 分	授業科目名	配当年次 ・期別	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)	
外国語科目	地域言語	中級ブラジル・ポルトガル語Ⅰ—A	2前	DIS-2-212-06	1		◎				
		中級ブラジル・ポルトガル語Ⅰ—B	2前	DIS-2-212-07	1		◎				
		中級ブラジル・ポルトガル語Ⅱ—A	2後	DIS-2-212-08	1		◎				
		中級ブラジル・ポルトガル語Ⅱ—B	2後	DIS-2-212-09	1		◎				
		ブラジル・ポルトガル語ライティング	2後	DIS-2-212-10	1		◎				
		初級中国語Ⅰ—A	1前	DIS-1-213-01	1		○	◎			
		初級中国語Ⅰ—B	1前	DIS-1-213-02	1		○	◎			
		初級中国語Ⅱ—A	1後	DIS-1-213-03	1		○	◎			
		初級中国語Ⅱ—B	1後	DIS-1-213-04	1		○	◎			
		中国語リーディング	1後	DIS-1-213-05	1		○	◎			
		中級中国語Ⅰ—A	2前	DIS-2-213-06	1			◎			
		中級中国語Ⅰ—B	2前	DIS-2-213-07	1			◎			
		中級中国語Ⅱ—A	2後	DIS-2-213-08	1			◎			
		中級中国語Ⅱ—B	2後	DIS-2-213-09	1			◎			
		中国語ライティング	2後	DIS-2-213-10	1			◎			
		初級ヒンディー語Ⅰ—A	1前	DIS-1-214-01	1		○	◎			
		初級ヒンディー語Ⅰ—B	1前	DIS-1-214-02	1		○	◎			
		初級ヒンディー語Ⅱ—A	1後	DIS-1-214-03	1		○	◎			
		初級ヒンディー語Ⅱ—B	1後	DIS-1-214-04	1		○	◎			
		ヒンディー語リーディング	1後	DIS-1-214-05	1		○	◎			
		中級ヒンディー語Ⅰ—A	2前	DIS-2-214-06	1			◎			
		中級ヒンディー語Ⅰ—B	2前	DIS-2-214-07	1			◎			
		中級ヒンディー語Ⅱ—A	2後	DIS-2-214-08	1			◎			
		中級ヒンディー語Ⅱ—B	2後	DIS-2-214-09	1			◎			
		ヒンディー語ライティング	2後	DIS-2-214-10	1			◎			
		初級インドネシア語Ⅰ—A	1前	DIS-1-215-01	1		○	◎			
		初級インドネシア語Ⅰ—B	1前	DIS-1-215-02	1		○	◎			
		初級インドネシア語Ⅱ—A	1後	DIS-1-215-03	1		○	◎			
		初級インドネシア語Ⅱ—B	1後	DIS-1-215-04	1		○	◎			
		インドネシア語リーディング	1後	DIS-1-215-05	1		○	◎			
		中級インドネシア語Ⅰ—A	2前	DIS-2-215-06	1			◎			
		中級インドネシア語Ⅰ—B	2前	DIS-2-215-07	1			◎			
		中級インドネシア語Ⅱ—A	2後	DIS-2-215-08	1			◎			
		中級インドネシア語Ⅱ—B	2後	DIS-2-215-09	1			◎			
		インドネシア語ライティング	2後	DIS-2-215-10	1			◎			
		初級マレーシア語Ⅰ—A	1前	DIS-1-216-01	1		○	◎			
		初級マレーシア語Ⅰ—B	1前	DIS-1-216-02	1		○	◎			
		初級マレーシア語Ⅱ—A	1後	DIS-1-216-03	1		○	◎			
		初級マレーシア語Ⅱ—B	1後	DIS-1-216-04	1		○	◎			
		マレーシア語リーディング	1後	DIS-1-216-05	1		○	◎			
中級マレーシア語Ⅰ—A	2前	DIS-2-216-06	1			◎					
中級マレーシア語Ⅰ—B	2前	DIS-2-216-07	1			◎					
中級マレーシア語Ⅱ—A	2後	DIS-2-216-08	1			◎					

区 分	授業科目名	配当年次 ・期別	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
外国語科目	地域言語	中級マレーシア語Ⅱ—B	2後	DIS-2-216-09	1		◎			
		マレーシア語ライティング	2後	DIS-2-216-10	1		◎			
		初級韓国語Ⅰ—A	1前	DIS-1-217-01	1	○	◎			
		初級韓国語Ⅰ—B	1前	DIS-1-217-02	1	○	◎			
		初級韓国語Ⅱ—A	1後	DIS-1-217-03	1	○	◎			
		初級韓国語Ⅱ—B	1後	DIS-1-217-04	1	○	◎			
		韓国語リーディング	1後	DIS-1-217-05	1	○	◎			
		中級韓国語Ⅰ—A	2前	DIS-2-217-06	1		◎			
		中級韓国語Ⅰ—B	2前	DIS-2-217-07	1		◎			
		中級韓国語Ⅱ—A	2後	DIS-2-217-08	1		◎			
		中級韓国語Ⅱ—B	2後	DIS-2-217-09	1		◎			
		韓国語ライティング	2後	DIS-2-217-10	1		◎			
		初級スペイン語Ⅰ—A	1前	DIS-1-218-01	1	○	◎			
		初級スペイン語Ⅰ—B	1前	DIS-1-218-02	1	○	◎			
		初級スペイン語Ⅱ—A	1後	DIS-1-218-03	1	○	◎			
		初級スペイン語Ⅱ—B	1後	DIS-1-218-04	1	○	◎			
		スペイン語リーディング	1後	DIS-1-218-05	1	○	◎			
		中級スペイン語Ⅰ—A	2前	DIS-2-218-06	1		◎			
		中級スペイン語Ⅰ—B	2前	DIS-2-218-07	1		◎			
		中級スペイン語Ⅱ—A	2後	DIS-2-218-08	1		◎			
		中級スペイン語Ⅱ—B	2後	DIS-2-218-09	1		◎			
		スペイン語ライティング	2後	DIS-2-218-10	1		◎			
		初級タイ語Ⅰ—A	1前	DIS-1-219-01	1	○	◎			
		初級タイ語Ⅰ—B	1前	DIS-1-219-02	1	○	◎			
		初級タイ語Ⅱ—A	1後	DIS-1-219-03	1	○	◎			
		初級タイ語Ⅱ—B	1後	DIS-1-219-04	1	○	◎			
		タイ語リーディング	1後	DIS-1-219-05	1	○	◎			
		中級タイ語Ⅰ—A	2前	DIS-2-219-06	1		◎			
		中級タイ語Ⅰ—B	2前	DIS-2-219-07	1		◎			
		中級タイ語Ⅱ—A	2後	DIS-2-219-08	1		◎			
		中級タイ語Ⅱ—B	2後	DIS-2-219-09	1		◎			
		タイ語ライティング	2後	DIS-2-219-10	1		◎			
		初級ベトナム語Ⅰ—A	1前	DIS-1-220-01	1	○	◎			
		初級ベトナム語Ⅰ—B	1前	DIS-1-220-02	1	○	◎			
		初級ベトナム語Ⅱ—A	1後	DIS-1-220-03	1	○	◎			
		初級ベトナム語Ⅱ—B	1後	DIS-1-220-04	1	○	◎			
		ベトナム語リーディング	1後	DIS-1-220-05	1	○	◎			
		中級ベトナム語Ⅰ—A	2前	DIS-2-220-06	1		◎			
		中級ベトナム語Ⅰ—B	2前	DIS-2-220-07	1		◎			
		中級ベトナム語Ⅱ—A	2後	DIS-2-220-08	1		◎			
		中級ベトナム語Ⅱ—B	2後	DIS-2-220-09	1		◎			
		ベトナム語ライティング	2後	DIS-2-220-10	1		◎			
初級フィリピン語Ⅰ—A	1前	DIS-1-221-01	1	○	◎					

区 分	授業科目名	配当年次 ・期別	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)		
外国語科目	地域言語	初級フィリピン語Ⅰ—B	1前	DIS-1-221-02	1		○	◎				
		初級フィリピン語Ⅱ—A	1後	DIS-1-221-03	1		○	◎				
		初級フィリピン語Ⅱ—B	1後	DIS-1-221-04	1		○	◎				
		フィリピン語リーディング	1後	DIS-1-221-05	1		○	◎				
		中級フィリピン語Ⅰ—A	2前	DIS-2-221-06	1			◎				
		中級フィリピン語Ⅰ—B	2前	DIS-2-221-07	1			◎				
		中級フィリピン語Ⅱ—A	2後	DIS-2-221-08	1			◎				
		中級フィリピン語Ⅱ—B	2後	DIS-2-221-09	1			◎				
		フィリピン語ライティング	2後	DIS-2-221-10	1			◎				
		上級アラビア語Ⅰ	3・4前	DIS-3-211-11	1				◎	○		
		上級アラビア語Ⅱ	3・4後	DIS-3-211-12	1				◎	○		
		上級ブラジル・ポルトガル語Ⅰ	3・4前	DIS-3-212-11	1				◎	○		
		上級ブラジル・ポルトガル語Ⅱ	3・4後	DIS-3-212-12	1				◎	○		
		ブラジル・ポルトガル語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-212-13	1				◎	○		
		ブラジル・ポルトガル語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-212-14	1				◎	○		
		上級中国語Ⅰ	3・4前	DIS-3-213-11	1				◎	○		
		上級中国語Ⅱ	3・4後	DIS-3-213-12	1				◎	○		
		中国語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-213-13	1				◎	○		
		中国語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-213-14	1				◎	○		
		上級ヒンディー語Ⅰ	3・4前	DIS-3-214-11	1				◎	○		
		上級ヒンディー語Ⅱ	3・4後	DIS-3-214-12	1				◎	○		
		上級インドネシア語Ⅰ	3・4前	DIS-3-215-11	1				◎	○		
		上級インドネシア語Ⅱ	3・4後	DIS-3-215-12	1				◎	○		
		インドネシア語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-215-13	1				◎	○		
		インドネシア語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-215-14	1				◎	○		
		上級マレーシア語Ⅰ	3・4前	DIS-3-216-11	1				◎	○		
		上級マレーシア語Ⅱ	3・4後	DIS-3-216-12	1				◎	○		
		上級韓国語Ⅰ	3・4前	DIS-3-217-11	1				◎	○		
		上級韓国語Ⅱ	3・4後	DIS-3-217-12	1				◎	○		
		韓国語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-217-13	1				◎	○		
		韓国語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-217-14	1				◎	○		
		上級スペイン語Ⅰ	3・4前	DIS-3-218-11	1				◎	○		
		上級スペイン語Ⅱ	3・4後	DIS-3-218-12	1				◎	○		
		スペイン語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-218-13	1				◎	○		
		スペイン語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-218-14	1				◎	○		
		上級タイ語Ⅰ	3・4前	DIS-3-219-11	1				◎	○		
		上級タイ語Ⅱ	3・4後	DIS-3-219-12	1				◎	○		
		タイ語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-219-13	1				◎	○		
		タイ語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-219-14	1				◎	○		
		上級ベトナム語Ⅰ	3・4前	DIS-3-220-11	1				◎	○		
上級ベトナム語Ⅱ	3・4後	DIS-3-220-12	1				◎	○				
ベトナム語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-220-13	1				◎	○				
ベトナム語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-220-14	1				◎	○				

区分	授業科目名	配当年次・期別	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)		
外国語科目	地域言語	上級フィリピン語Ⅰ	3・4前	DIS-3-221-11	1		◎	○				
		上級フィリピン語Ⅱ	3・4後	DIS-3-221-12	1		◎	○				
		フィリピン語上級リーディング&ライティングⅠ	3・4前	DIS-3-221-13	1		◎	○				
		フィリピン語上級リーディング&ライティングⅡ	3・4後	DIS-3-221-14	1		◎	○				
	日本語	日本語オーラル・コミュニケーションⅠ—A	1前	DIS-1-222-01	1		○	◎				
		日本語オーラル・コミュニケーションⅠ—B	1前	DIS-1-222-02	1		○	◎				
		日本語オーラル・コミュニケーションⅡ	1後	DIS-1-222-03	1		○	◎				
		日本語オーラル・コミュニケーションⅢ	2前	DIS-2-222-04	1			◎				
		日本語オーラル・コミュニケーションⅣ	2後	DIS-2-222-05	1			◎				
		日本語リーディング&ライティングⅠ—A	1前	DIS-1-222-06	1		○	◎				
		日本語リーディング&ライティングⅠ—B	1後	DIS-1-222-07	1		○	◎				
		日本語リーディング&ライティングⅡ	1後	DIS-1-222-08	1		○	◎				
		日本語リーディング&ライティングⅢ	2前	DIS-2-222-09	1			◎				
		日本語リーディング&ライティングⅣ	2後	DIS-2-222-10	1			◎				
		日本を知るⅠ	1	DIS-1-222-11	2	☆	◎					
		日本を知るⅡ	1	DIS-1-222-12	2	☆	◎					
		日本を知るⅢ	2	DIS-2-222-13	2	☆	◎					
		開講科目数 小計②(◎の科目のみカウント)						3	185	0	0	0

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDPに関連する科目

## (3) 専門共通科目 カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)	
専門科目	コース入門	国際学入門Ⅰ	1	DIS-1-301-01	2	◎			○		
		国際学入門Ⅱ	1	DIS-1-301-02	2	◎			○		
		国際協力入門	1	DIS-1-301-03	2	☆	◎			○	
		国際経済入門	1	DIS-1-301-04	2	☆	◎			○	
		国際政治入門	1	DIS-1-301-05	2	☆	◎			○	
		国際文化入門	1	DIS-1-301-06	2	☆	◎			○	
		国際観光入門	1	DIS-1-301-07	2	☆	◎			○	
		農業総合入門	1	DIS-1-301-08	2	☆	◎			○	
	地域研究	中国	1・2・3・4	DIS-1-311-01	2		◎			○	
		朝鮮半島	1・2・3・4	DIS-1-311-02	2		◎			○	
		東南アジア	1・2・3・4	DIS-1-311-03	2		◎			○	
		ラテンアメリカ・オセアニア	1・2・3・4	DIS-1-311-04	2		◎			○	
		北米	1・2・3・4	DIS-1-311-05	2		◎			○	
		アフリカ	1・2・3・4	DIS-1-311-06	2		◎			○	
		南アジア	1・2・3・4	DIS-1-311-07	2		◎			○	
		中央アジア・中東	1・2・3・4	DIS-1-311-08	2		◎			○	
	経済・社会・心理	ヨーロッパ	1・2・3・4	DIS-1-311-09	2		◎			○	
		現代の経済と社会	1・2・3・4	DIS-1-321-03	2		◎			○	
		国際社会学	1・2・3・4	DIS-1-321-04	2		◎			○	
		地域研究の方法	1・2・3・4	DIS-1-321-05	2		◎			○	
		メンタル・トレーニング	1・2・3・4	DIS-1-321-12	2		◎		○		
		実践のまちづくり	1・2・3・4	DIS-1-321-13	2		◎		◎	○	○
		会計学Ⅰ	2・3・4	DIS-2-321-06	2		○			◎	
		会計学Ⅱ	2・3・4	DIS-2-321-07	2		○			◎	
	法律・政治	社会調査法	2・3・4	DIS-2-321-10	2		○			◎	
		地球環境	2・3・4	DIS-2-321-11	2		○			◎	
		法律学概論Ⅰ	1・2・3・4	DIS-1-331-01	2		◎			○	
		法律学概論Ⅱ	1・2・3・4	DIS-1-331-02	2		◎			○	
		国際法	2・3・4	DIS-2-331-05	2		○			◎	
		国際経済法	2・3・4	DIS-2-331-06	2		○			◎	
	情報	民法	2・3・4	DIS-2-331-07	2		○			◎	
		国際取引法	2・3・4	DIS-2-331-08	2		○			◎	
		データサイエンスⅠ	1	DIS-1-361-01	2		◎		○		○
		データサイエンスⅡ	1	DIS-1-361-02	2		◎		○		○
		開発データ分析Ⅰ	2・3・4	DIS-2-361-03	2		○			◎	
		開発データ分析Ⅱ	2・3・4	DIS-2-361-04	2		○			◎	
	教職	地域データ分析	2・3・4	DIS-2-361-05	2				◎	○	○
		日本史概論Ⅰ	2・3・4	DIS-1-351-01	2		◎				
		日本史概論Ⅱ	2・3・4	DIS-1-351-02	2		◎				
		外国史概論Ⅰ	2・3・4	DIS-1-351-03	2		◎				
外国史概論Ⅱ		2・3・4	DIS-1-351-04	2		◎					
人文地理学概論Ⅰ		2・3・4	DIS-1-351-05	2		◎					
人文地理学概論Ⅱ		2・3・4	DIS-1-351-06	2		◎					
自然地理学概論Ⅰ		2・3・4	DIS-1-351-07	2		◎					
自然地理学概論Ⅱ		2・3・4	DIS-1-351-08	2		◎					
地誌学概論Ⅰ		2・3・4	DIS-1-351-09	2		◎					
地誌学概論Ⅱ	2・3・4	DIS-1-351-10	2		◎						
開講科目数 小計③(◎の科目のみカウント)						43	0	2	10	0	

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

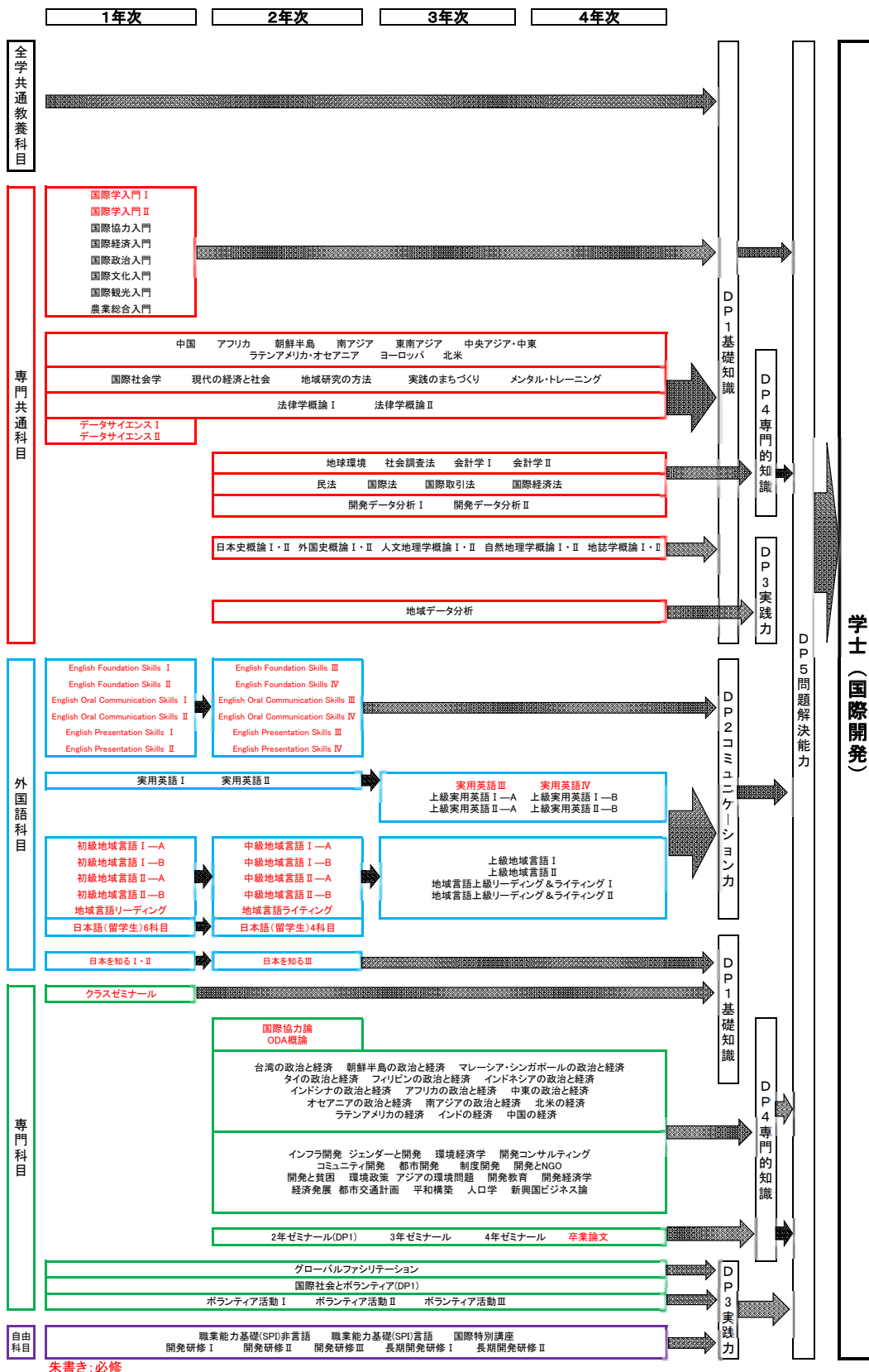
◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目

(4) - 1 - ① 国際協力コース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区 分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
コース 基本科目	国際協力論	2	CIC-2-401-01	2	☆				◎	○
	ODA概論	2	CIC-2-401-02	2	☆				◎	○
国・地域別 選択科目	卒業論文	4	CIC-4-401-03	4			○	○	○	◎
	台湾の政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-01	2					◎	
	朝鮮半島の政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-02	2					◎	
	マレーシア・シンガポールの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-03	2					◎	
	タイの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-04	2					◎	
	フィリピンの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-05	2					◎	
	インドネシアの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-06	2					◎	
	インドシナの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-07	2					◎	
	アフリカの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-08	2					◎	
	中東の政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-09	2					◎	
	オセアニアの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-10	2					◎	
	南アジアの政治と経済	2・3・4	CIC-2-411-11	2					◎	
	北米の経済	2・3・4	CIC-2-411-12	2					◎	
	ラテンアメリカの経済	2・3・4	CIC-2-411-13	2					◎	
	コース 専門科目	インドの経済	2・3・4	CIC-2-411-14	2					◎
中国の経済		2・3・4	CIC-2-411-15	2					◎	
インフラ開発		2・3・4	CIC-2-421-02	2			○	◎	○	
ジェンダーと開発		2・3・4	CIC-2-421-04	2			○	◎	○	
環境経済学		2・3・4	CIC-2-421-06	2				◎	○	
開発コンサルティング		2・3・4	CIC-2-421-07	2			○	◎	○	
コミュニティ開発		2・3・4	CIC-2-421-08	2			○	◎	○	
都市開発		2・3・4	CIC-2-421-09	2			○	◎	○	
制度開発		2・3・4	CIC-2-421-10	2			○	◎	○	
開発とNGO		2・3・4	CIC-2-421-11	2			○	◎	○	
開発と貧困		2・3・4	CIC-2-421-12	2			○	◎	○	
環境政策		2・3・4	CIC-2-421-13	2				◎	○	
アジアの環境問題		2・3・4	CIC-2-421-14	2				◎	○	
開発教育		2・3・4	CIC-2-421-15	2			○	◎	○	
開発経済学		2・3・4	CIC-2-421-16	2	☆			◎	○	
経済発展		2・3・4	CIC-2-421-17	2				◎	○	
都市交通計画		2・3・4	CIC-2-421-18	2			○	◎	○	
平和構築		2・3・4	CIC-2-421-19	2				◎	○	
人口学		2・3・4	CIC-2-421-21	2				◎	○	
新興国ビジネス論		2・3・4	CIC-2-421-30	2				◎		
国際社会とボランティア		1・2・3・4	CIC-1-421-22	2		◎		○		○
グローバルファシリテーション		1・2・3・4	CIC-1-421-23	2		○	○	◎		○
ボランティア活動Ⅰ		1・2・3・4	CIC-1-421-24	2			○	◎		○
ボランティア活動Ⅱ		1・2・3・4	CIC-1-421-25	2			○	◎		○
ボランティア活動Ⅲ		1・2・3・4	CIC-1-421-26	2			○	◎		○
クラスゼミナール		1	CIC-1-421-31	2		◎	○			
2年ゼミナール		2	CIC-2-421-27	4	☆	◎	○	○		○
3年ゼミナール	3	CIC-3-421-28	4	☆		○	○	◎	○	
4年ゼミナール	4	CIC-4-421-29	4	☆		○	○	○	◎	
開講科目数 小計◎(◎の科目のみカウント)						3	0	4	36	2

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目



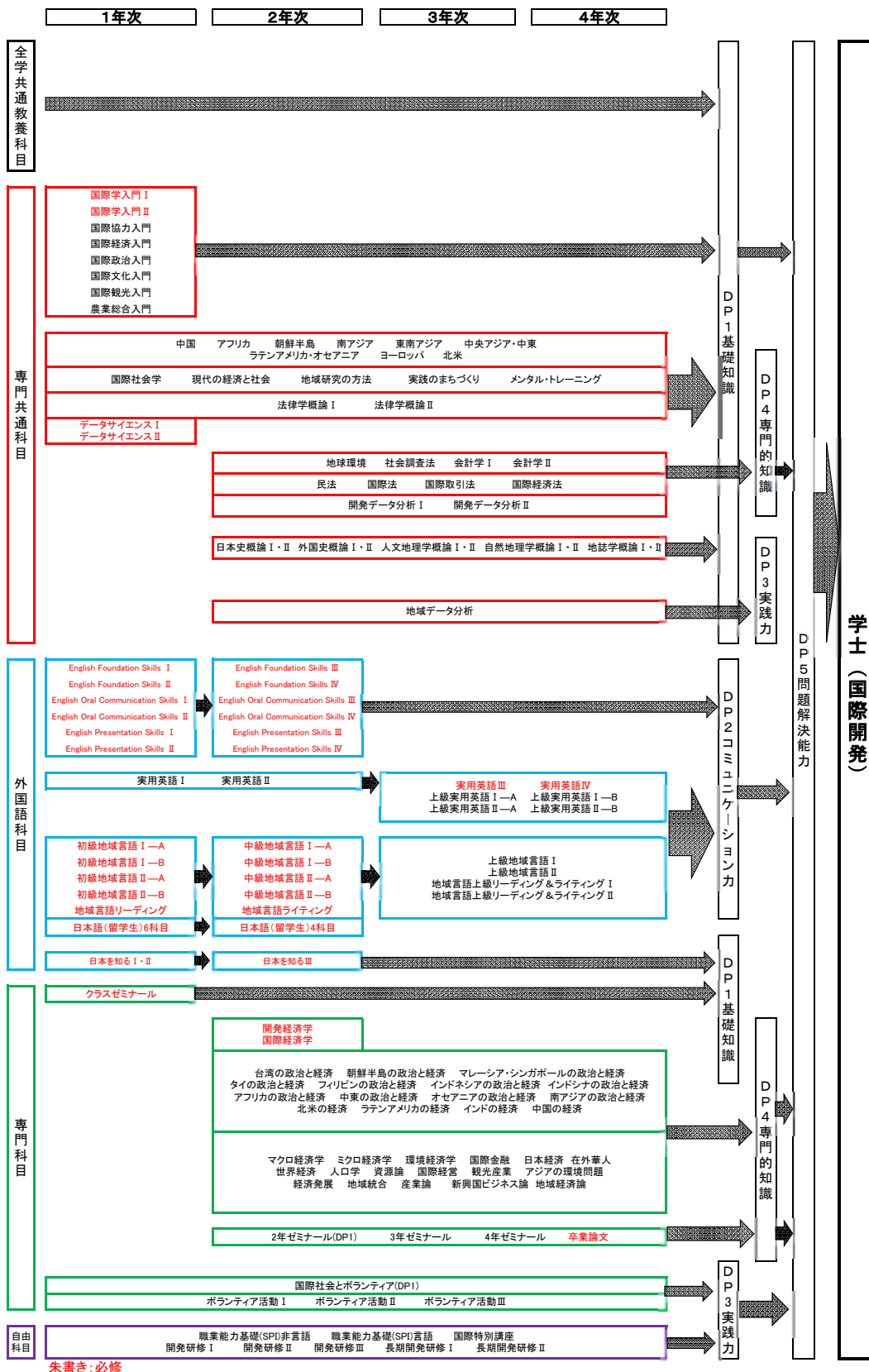
学士(国際開発)

## (4) - 2 - ① 国際経済コース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
コース基本科目	開発経済学	2	CIE-2-401-01	2	☆				◎	○
	国際経済学	2	CIE-2-401-02	2	☆				◎	○
	卒業論文	4	CIE-4-401-03	4			○	○	○	◎
国・地域別選択科目	台湾の政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-01	2					◎	
	朝鮮半島の政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-02	2					◎	
	マレーシア・シンガポールの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-03	2					◎	
	タイの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-04	2					◎	
	フィリピンの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-05	2					◎	
	インドネシアの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-06	2					◎	
	インドシナの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-07	2					◎	
	アフリカの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-08	2					◎	
	中東の政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-09	2					◎	
	オセアニアの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-10	2					◎	
	南アジアの政治と経済	2・3・4	CIE-2-411-11	2					◎	
	北米の経済	2・3・4	CIE-2-411-12	2					◎	
	ラテンアメリカの経済	2・3・4	CIE-2-411-13	2					◎	
	インドの経済	2・3・4	CIE-2-411-14	2					◎	
	中国の経済	2・3・4	CIE-2-411-15	2					◎	
コース専門科目	マクロ経済学	2・3・4	CIE-2-421-01	2					◎	○
	ミクロ経済学	2・3・4	CIE-2-421-02	2					◎	○
	環境経済学	2・3・4	CIE-2-421-03	2					◎	○
	国際金融	2・3・4	CIE-2-421-04	2	☆				◎	○
	日本経済	2・3・4	CIE-2-421-05	2					◎	○
	在外華人	2・3・4	CIE-2-421-06	2					◎	○
	世界経済	2・3・4	CIE-2-421-07	2					◎	○
	人口学	2・3・4	CIE-2-421-08	2					◎	○
	資源論	2・3・4	CIE-2-421-09	2					◎	○
	国際経営	2・3・4	CIE-2-421-11	2					◎	○
	観光産業	2・3・4	CIE-2-421-13	2	☆				◎	○
	アジアの環境問題	2・3・4	CIE-2-421-14	2					◎	○
	経済発展	2・3・4	CIE-2-421-15	2					◎	○
	地域統合	2・3・4	CIE-2-421-16	2					◎	○
	産業論	2・3・4	CIE-2-421-17	2					◎	○
	新興国ビジネス論	2・3・4	CIE-2-421-25	2					◎	
	地域経済論	2・3・4	CIE-2-421-26	2					◎	
	国際社会とボランティア	1・2・3・4	CIE-1-421-18	2		◎		○		○
	ボランティア活動Ⅰ	1・2・3・4	CIE-1-421-19	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅱ	1・2・3・4	CIE-1-421-20	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅲ	1・2・3・4	CIE-1-421-21	2			○	◎		○
	クラスゼミナール	1	CIE-1-421-27	2		◎	○			○
	2年ゼミナール	2	CIE-2-421-22	4	☆	◎	○	○		○
	3年ゼミナール	3	CIE-3-421-23	4	☆		○	○	◎	○
4年ゼミナール	4	CIE-3-421-24	4	☆		○	○	○	◎	
開講科目数 小計(◎の科目のみカウント)						3	0	3	35	2

☆：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目、○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目

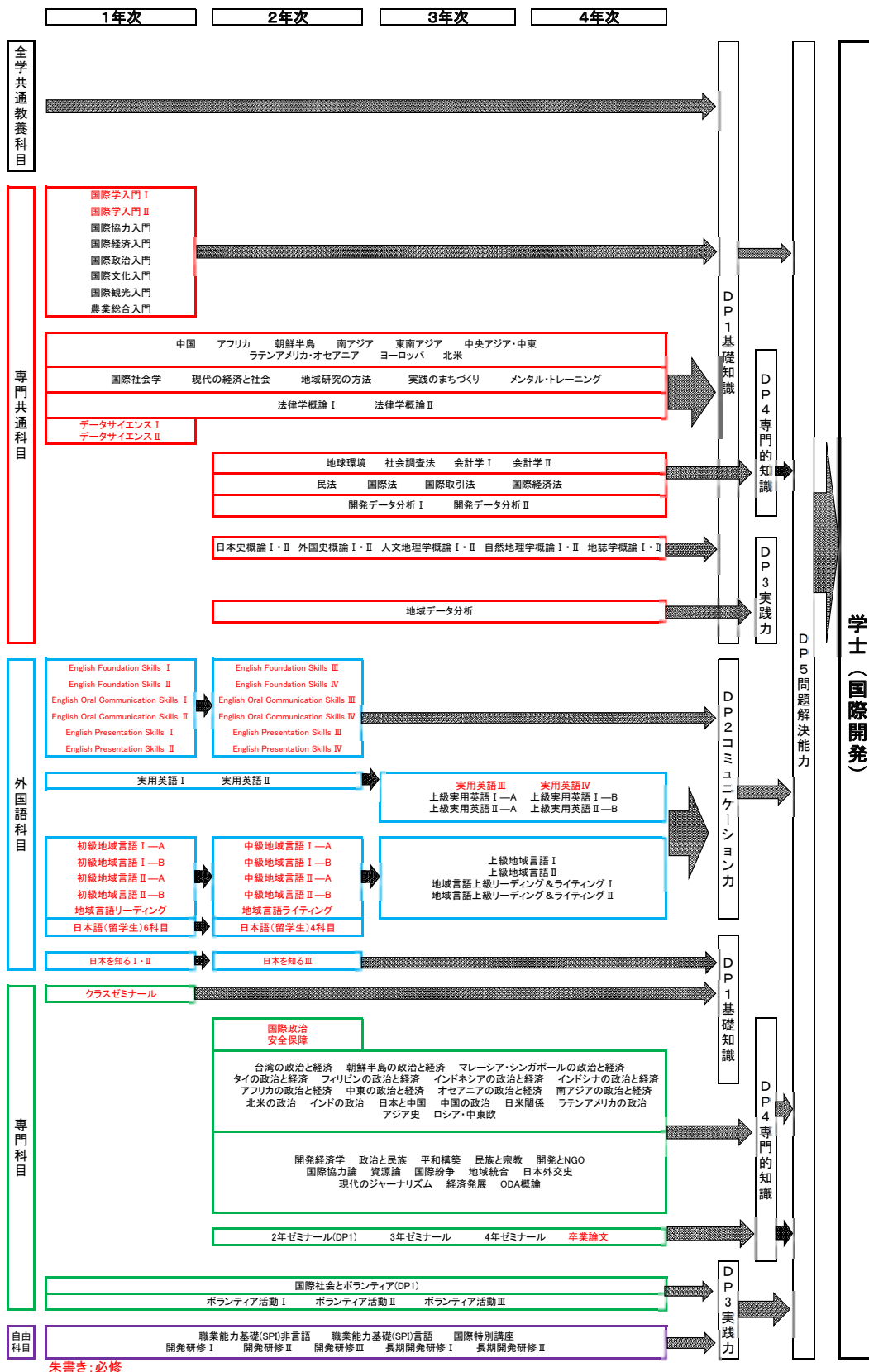


## (4) - 3 - ① 国際政治コース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要 授業 科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
コース 基本科目	国際政治	2	CIP-2-401-01	2	☆				◎	
	安全保障	2	CIP-2-401-02	2	☆				◎	
	卒業論文	4	CIP-4-401-03	4		○	○	○	◎	
国・地域別 選択科目	台湾の政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-01	2					◎	
	朝鮮半島の政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-02	2					◎	
	マレーシア・シンガポールの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-03	2					◎	
	タイの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-04	2					◎	
	フィリピンの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-05	2					◎	
	インドネシアの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-06	2					◎	
	インドシナの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-07	2					◎	
	アフリカの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-08	2					◎	
	中東の政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-09	2					◎	
	オセアニアの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-10	2					◎	
	南アジアの政治と経済	2・3・4	CIP-2-411-11	2					◎	
	北米の政治	2・3・4	CIP-2-411-12	2					◎	
	インドの政治	2・3・4	CIP-2-411-13	2					◎	
	日本と中国	2・3・4	CIP-2-411-14	2					◎	
	中国の政治	2・3・4	CIP-2-411-15	2					◎	
	日米関係	2・3・4	CIP-2-411-16	2					◎	
	ラテンアメリカの政治	2・3・4	CIP-2-411-17	2					◎	
	アジア史	2・3・4	CIP-2-411-18	2					◎	
	ロシア・中東欧	2・3・4	CIP-2-411-19	2					◎	
テーマ別 選択科目 & ゼミナール	開発経済学	2・3・4	CIP-2-421-01	2	☆				◎	○
	政治と民族	2・3・4	CIP-2-421-02	2					◎	○
	平和構築	2・3・4	CIP-2-421-03	2					◎	○
	民族と宗教	2・3・4	CIP-2-421-04	2	☆				◎	○
	開発とNGO	2・3・4	CIP-2-421-05	2					◎	○
	国際協力論	2・3・4	CIP-2-421-06	2	☆				◎	○
	資源論	2・3・4	CIP-2-421-07	2					◎	○
	国際紛争	2・3・4	CIP-2-421-08	2					◎	○
	地域統合	2・3・4	CIP-2-421-09	2					◎	○
	日本外交史	2・3・4	CIP-2-421-10	2					◎	○
	現代のジャーナリズム	2・3・4	CIP-2-421-11	2					◎	○
	経済発展	2・3・4	CIP-2-421-12	2					◎	○
	ODA概論	2・3・4	CIP-2-421-13	2	☆				◎	○
	国際社会とボランティア	1・2・3・4	CIP-1-421-14	2		◎		○		○
	ボランティア活動Ⅰ	1・2・3・4	CIP-1-421-15	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅱ	1・2・3・4	CIP-1-421-16	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅲ	1・2・3・4	CIP-1-421-17	2			○	◎		○
クラスゼミナール	1	CIP-1-421-21	2		◎	○				
2年ゼミナール	2	CIP-2-421-18	4	☆	◎	○	○		○	
3年ゼミナール	3	CIP-3-421-19	4	☆		○	○	◎	○	
4年ゼミナール	4	CIP-4-421-20	4	☆		○	○	○	◎	
開講科目数 小計◎(◎の科目のみカウント)						3	0	3	35	2

☆:主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎:科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○:科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目



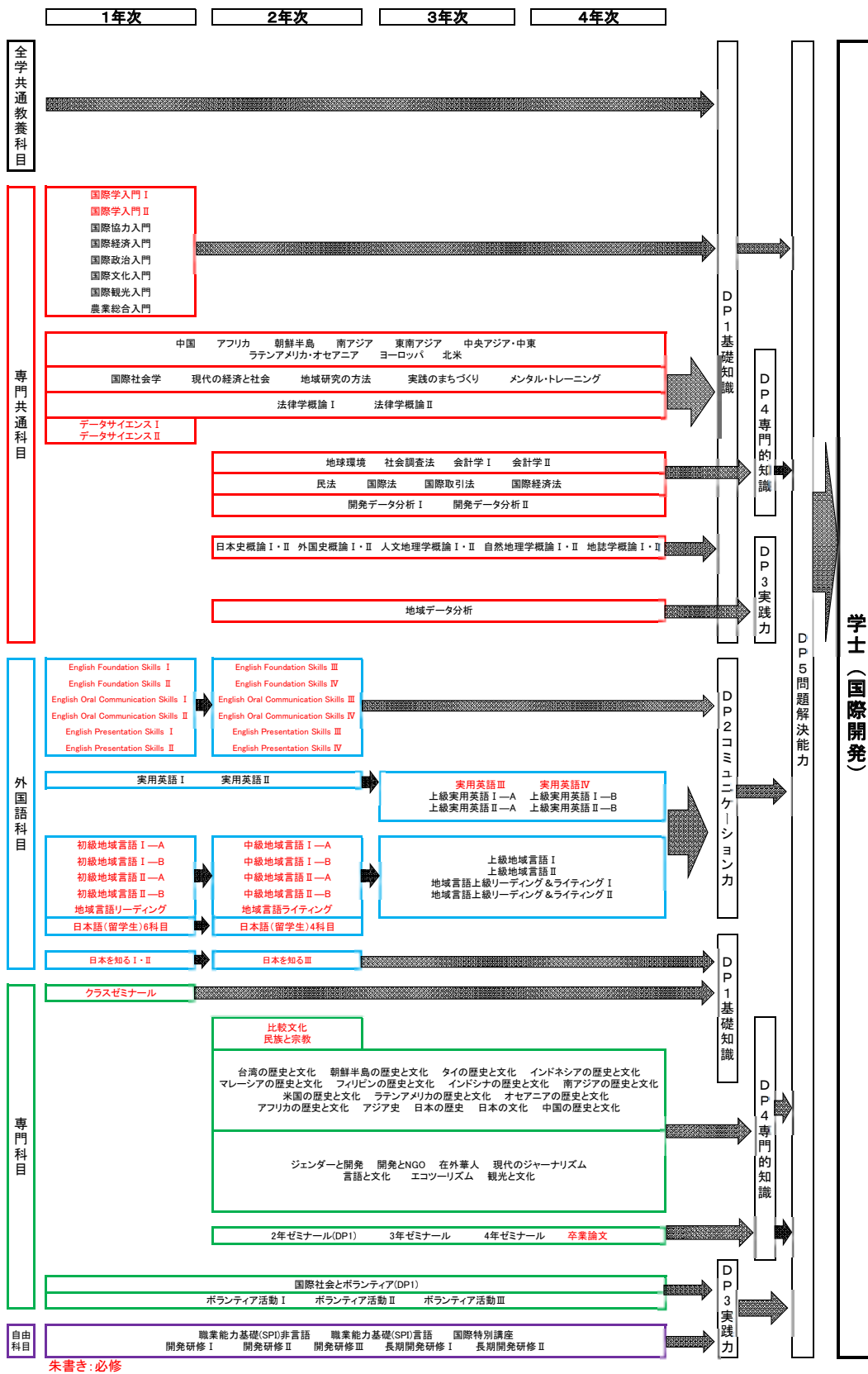
朱書き:必修

(4) - 4 - ① 国際文化コース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)	
専 門 科 目	コース 基本科目	比較文化	2	CIU-2-401-01	2	☆			◎	○	
		民族と宗教	2	CIU-2-401-02	2	☆			◎	○	
		卒業論文	4	CIU-4-401-03	4			○	○	○	◎
	国・地域別 選択科目	台湾の歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-01	2					◎	
		朝鮮半島の歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-02	2					◎	
		タイの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-03	2					◎	
		インドネシアの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-04	2					◎	
		マレーシアの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-05	2					◎	
		フィリピンの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-06	2					◎	
		インドシナの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-07	2					◎	
		南アジアの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-08	2					◎	
		米国の歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-09	2					◎	
		ラテンアメリカの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-10	2					◎	
		オセアニアの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-11	2					◎	
		アフリカの歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-13	2					◎	
		アジア史	2・3・4	CIU-2-411-14	2					◎	
		日本の歴史	2・3・4	CIU-2-411-15	2					◎	
		日本の文化	2・3・4	CIU-2-411-16	2					◎	
		中国の歴史と文化	2・3・4	CIU-2-411-17	2					◎	
		テーマ別 選択科目 & ゼミナール	ジェンダーと開発	2・3・4	CIU-2-421-02	2					◎
	開発とNGO		2・3・4	CIU-2-421-03	2					◎	○
	在外華人		2・3・4	CIU-2-421-04	2					◎	○
	現代のジャーナリズム		2・3・4	CIU-2-421-05	2					◎	○
	言語と文化		2・3・4	CIU-2-421-06	2					◎	○
	エコツーリズム		2・3・4	CIU-2-421-07	2					◎	○
	観光と文化		2・3・4	CIU-2-421-08	2					◎	○
	国際社会とボランティア		1・2・3・4	CIU-1-421-13	2		◎		○		○
	ボランティア活動Ⅰ		1・2・3・4	CIU-1-421-14	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅱ		1・2・3・4	CIU-1-421-15	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅲ		1・2・3・4	CIU-1-421-16	2			○	◎		○
クラスゼミナール	1		CIU-1-421-20	2		◎	○				
2年ゼミナール	2		CIU-2-421-17	4	☆	◎	○	○		○	
3年ゼミナール	3	CIU-3-421-18	4	☆		○	○	◎	○		
4年ゼミナール	4	CIU-4-421-19	4	☆		○	○	○	◎		
<b>開講科目数 小計(◎の科目のみカウント)</b>						<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>26</b>	<b>2</b>	

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目



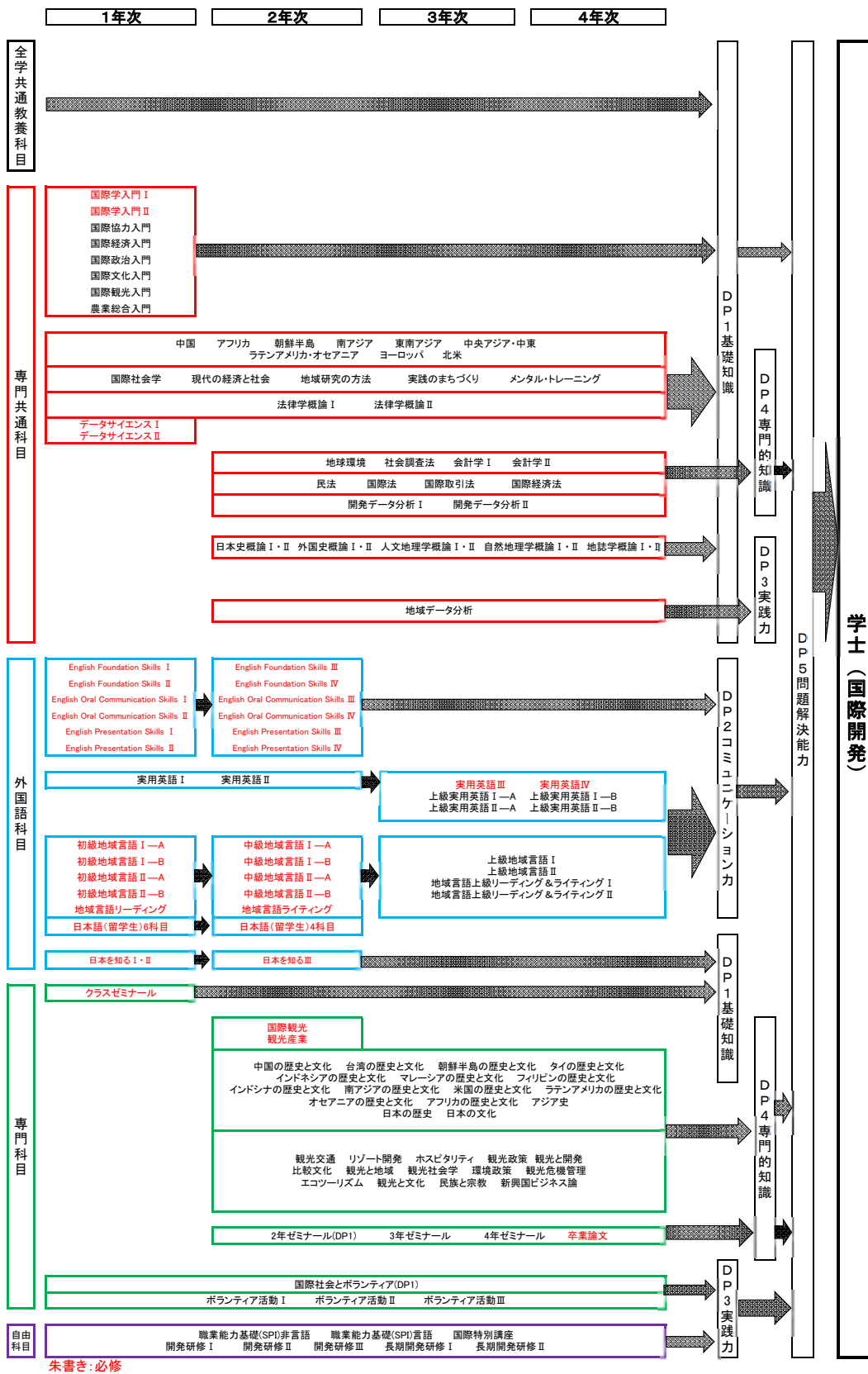
朱書き:必修

## (4) - 5 - ① 国際観光コース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
コース基本科目	国際観光	2	CIT-2-401-01	2	☆				◎	○
	観光産業	2	CIT-2-401-02	2	☆				◎	○
	卒業論文	4	CIT-4-401-03	4			○	○	○	◎
	中国の歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-01	2					◎	
国・地域別選択科目	台湾の歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-02	2					◎	
	朝鮮半島の歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-03	2					◎	
	タイの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-04	2					◎	
	インドネシアの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-05	2					◎	
	マレーシアの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-06	2					◎	
	フィリピンの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-07	2					◎	
	インドシナの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-08	2					◎	
	南アジアの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-09	2					◎	
	米国の歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-10	2					◎	
	ラテンアメリカの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-11	2					◎	
	オセアニアの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-12	2					◎	
	アフリカの歴史と文化	2・3・4	CIT-2-411-14	2					◎	
	アジア史	2・3・4	CIT-2-411-15	2					◎	
	日本の歴史	2・3・4	CIT-2-411-16	2					◎	
日本の文化	2・3・4	CIT-2-411-17	2					◎		
コース専門科目	民族と宗教	2・3・4	CIT-2-421-02	2	☆				◎	○
	環境政策	2・3・4	CIT-2-421-03	2					◎	○
	観光と開発	2・3・4	CIT-2-421-04	2					◎	○
	観光交通	2・3・4	CIT-2-421-05	2					◎	○
	リゾート開発	2・3・4	CIT-2-421-06	2					◎	○
	ホスピタリティ	2・3・4	CIT-2-421-07	2					◎	○
	観光と文化	2・3・4	CIT-2-421-08	2					◎	○
	観光社会学	2・3・4	CIT-2-421-09	2					◎	○
	観光危機管理	2・3・4	CIT-2-421-10	2					◎	○
	エコツーリズム	2・3・4	CIT-2-421-11	2					◎	○
	比較文化	2・3・4	CIT-2-421-12	2	☆				◎	○
	観光政策	2・3・4	CIT-2-421-13	2					◎	○
	観光と地域	2・3・4	CIT-2-421-14	2					◎	○
	新興国ビジネス論	2・3・4	CIT-2-421-25	2					◎	○
	国際社会とボランティア	1・2・3・4	CIT-1-421-18	2		◎		○		○
	ボランティア活動Ⅰ	1・2・3・4	CIT-1-421-19	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅱ	1・2・3・4	CIT-1-421-20	2			○	◎		○
	ボランティア活動Ⅲ	1・2・3・4	CIT-1-421-21	2			○	◎		○
	クラスゼミナール	1	CIT-1-421-26	2		◎	○			
	2年ゼミナール	2	CIT-2-421-22	4	☆	◎	○	○		○
3年ゼミナール	3	CIT-3-421-23	4	☆		○	○	◎	○	
4年ゼミナール	4	CIT-4-421-24	4	☆		○	○	○	◎	
<b>開講科目数 小計◎(◎の科目のみカウント)</b>						<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>33</b>	<b>2</b>

☆:主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎:科目の到達目標が該当のDPに直結する科目、○:科目の到達目標が該当のDPに関連する科目



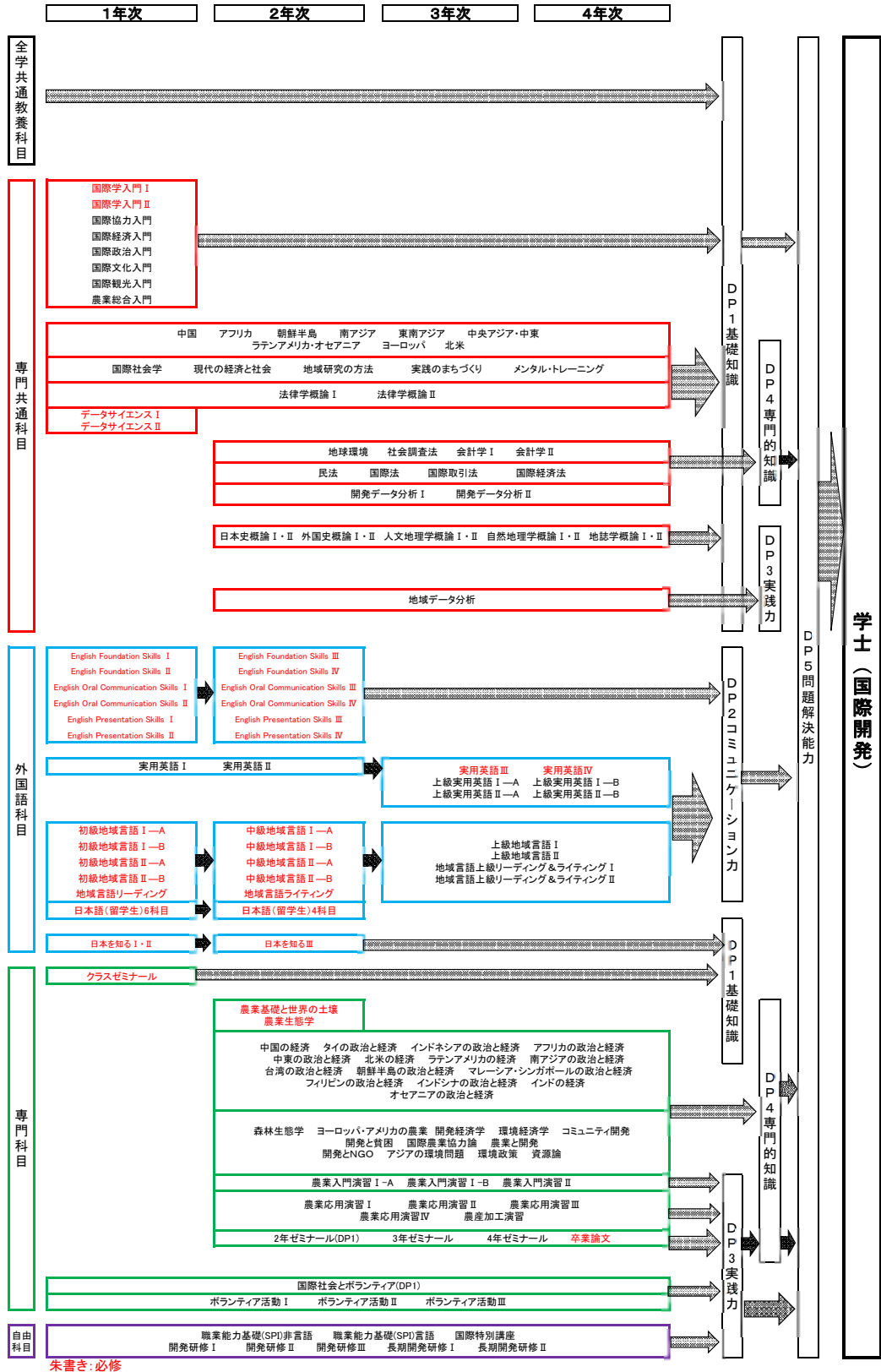
朱書き:必修

(4) - 6 - ① 農業総合コース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
コース基本科目	農業基礎と世界の土壌	2	CGA-2-401-01	2	☆				◎	○
	農業生態学	2	CGA-2-401-02	2	☆				◎	○
国・地域別選択科目	卒業論文	4	CGA-4-401-03	4			○	○	○	◎
	中国の経済	2・3・4	CGA-2-411-01	2					◎	
	タイの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-02	2					◎	
	インドネシアの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-03	2					◎	
	アフリカの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-04	2					◎	
	中東の政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-05	2					◎	
	北米の経済	2・3・4	CGA-2-411-06	2					◎	
	ラテンアメリカの経済	2・3・4	CGA-2-411-07	2					◎	
	南アジアの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-08	2					◎	
	台湾の政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-09	2					◎	
	朝鮮半島の政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-10	2					◎	
	マレーシア・シンガポールの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-11	2					◎	
	フィリピンの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-12	2					◎	
	インドシナの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-13	2					◎	
	インドの経済	2・3・4	CGA-2-411-14	2					◎	
オセアニアの政治と経済	2・3・4	CGA-2-411-15	2					◎		
コース専門科目	森林生態学	2・3・4	CGA-2-421-01	2					◎	○
	ヨーロッパ・アメリカの農業	2・3・4	CGA-2-421-02	2					◎	○
	環境政策	2・3・4	CGA-2-421-03	2					◎	○
	資源論	2・3・4	CGA-2-421-04	2					◎	○
	開発経済学	2・3・4	CGA-2-421-06	2	☆				◎	○
	開発と貧困	2・3・4	CGA-2-421-07	2					◎	○
	コミュニティ開発	2・3・4	CGA-2-421-08	2					◎	○
	国際農業協力論	2・3・4	CGA-2-421-09	2					◎	○
	農業と開発	2・3・4	CGA-2-421-10	2					◎	○
	開発とNGO	2・3・4	CGA-2-421-11	2					◎	○
	アジアの環境問題	2・3・4	CGA-2-421-12	2					◎	○
	環境経済学	2・3・4	CGA-2-421-13	2					◎	○
	農業入門演習 I-A	2・3・4	CGA-2-421-14	2		○			◎	○
	農業入門演習 I-B	2・3・4	CGA-2-421-15	2		○			◎	○
	農業入門演習 II	2・3・4	CGA-2-421-16	2		○			◎	○
テーマ別選択科目 & ゼミナール	農業応用演習 I	3	CGA-3-421-17	2					◎	○
	農業応用演習 II	3	CGA-3-421-18	2					◎	○
	農業応用演習 III	3	CGA-3-421-19	2					◎	○
	農業応用演習 IV	3	CGA-3-421-20	2					◎	○
	農産加工演習	3	CGA-3-421-21	2					◎	○
	国際社会とボランティア	1・2・3・4	CGA-1-421-22	2		◎			○	○
	ボランティア活動 I	1・2・3・4	CGA-1-421-23	2			○		◎	○
	ボランティア活動 II	1・2・3・4	CGA-1-421-24	2			○		◎	○
	ボランティア活動 III	1・2・3・4	CGA-1-421-25	2			○		◎	○
	クラスゼミナール	1	CGA-1-421-30	2		◎	○			○
	2年ゼミナール	2	CGA-2-421-26	4	☆	◎	○			○
	3年ゼミナール	3	CGA-3-421-27	4	☆		○			◎
4年ゼミナール	4	CGA-4-421-28	4	☆		○			◎	
北短提供科目	3	CGA-3-421-29	4						◎	
開講科目数 小計◎(◎の科目のみカウント)						3	0	11	31	2

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎: 科目の到達目標が該当のDP1に直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDP1に関連する科目



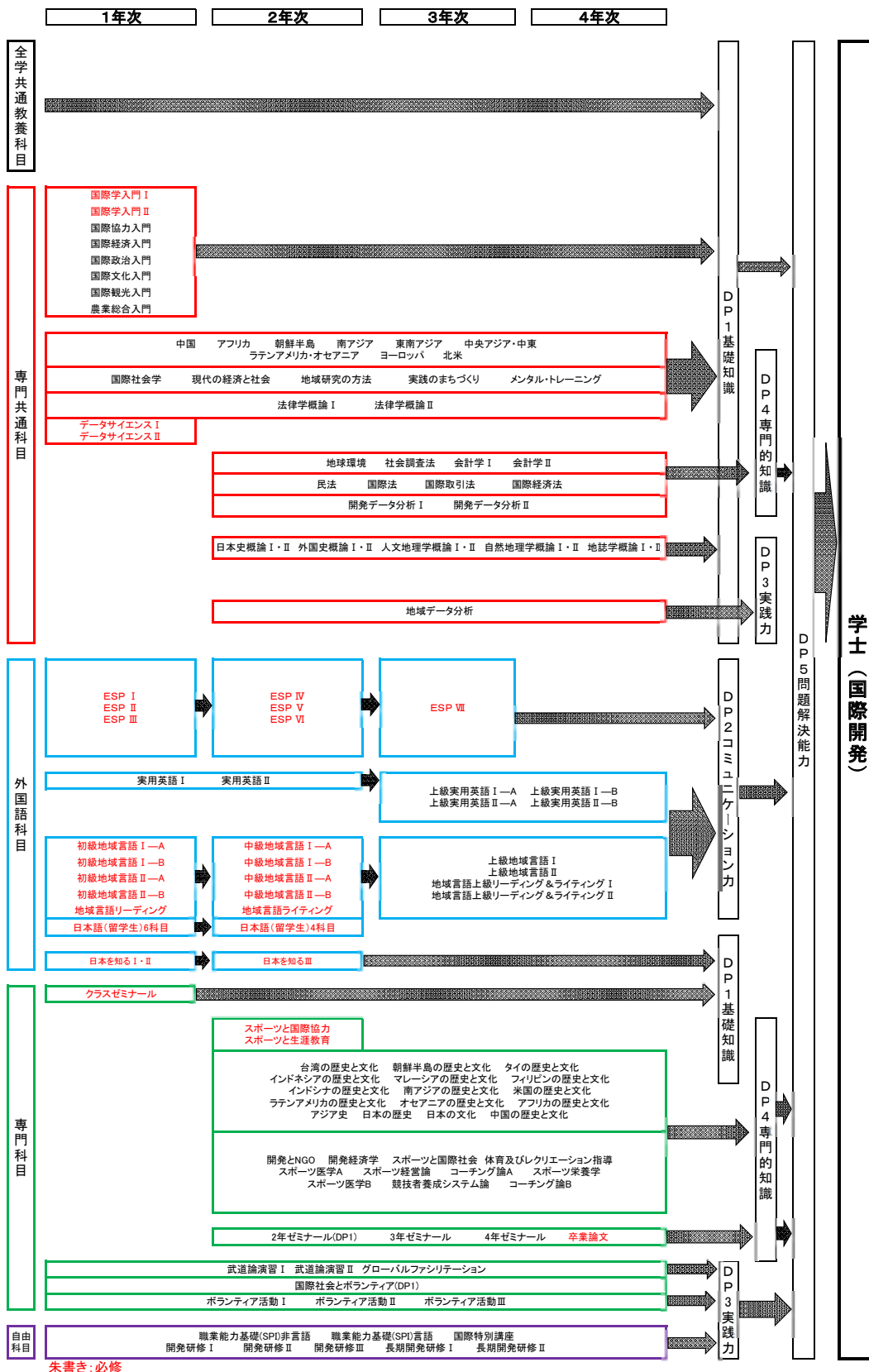
朱書き:必修

## (4) - 7 - ① 国際スポーツコース カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)	
専 門 科 目	コース 基本科目	スポーツと国際協力	2	CIS-2-401-01	2	☆			◎	○	
		スポーツと生涯教育	2	CIS-2-401-02	2	☆			◎	○	
		卒業論文	4	CIS-4-401-03	4			○	○	○	◎
	国・地域別 選択科目	台湾の歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-01	2					◎	
		朝鮮半島の歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-02	2					◎	
		タイの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-03	2					◎	
		インドネシアの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-04	2					◎	
		マレーシアの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-05	2					◎	
		フィリピンの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-06	2					◎	
		インドシナの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-07	2					◎	
		南アジアの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-08	2					◎	
		米国の歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-09	2					◎	
		ラテンアメリカの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-10	2					◎	
		オセアニアの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-11	2					◎	
		アフリカの歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-13	2					◎	
		アジア史	2・3・4	CIS-2-411-14	2					◎	
		日本の歴史	2・3・4	CIS-2-411-15	2					◎	
	日本の文化	2・3・4	CIS-2-411-16	2					◎		
	中国の歴史と文化	2・3・4	CIS-2-411-17	2					◎		
	コース 専門科目	テーマ別 選択科目 & ゼミナール	開発とNGO	2・3・4	CIS-2-421-01	2				◎	○
開発経済学			2・3・4	CIS-2-421-02	2				◎	○	
スポーツと国際社会			2・3・4	CIS-2-421-03	2				◎	○	
体育及びレクリエーション指導			2・3・4	CIS-2-421-05	2			○	◎	○	
スポーツ医学A			2・3・4	CIS-2-421-06	2			○	◎	○	
スポーツ経営論			2・3・4	CIS-2-421-07	2				◎	○	
コーチング論A			2・3・4	CIS-2-421-08	2			○	◎	○	
スポーツ栄養学			2・3・4	CIS-2-421-09	2			○	◎	○	
スポーツ医学B			2・3・4	CIS-2-421-10	2			○	◎	○	
競技者養成システム論			2・3・4	CIS-2-421-11	2			○	◎	○	
コーチング論B			2・3・4	CIS-2-421-12	2			○	◎	○	
武道論演習Ⅰ			2・3・4	CIS-2-421-21	2		○		◎		
武道論演習Ⅱ			2・3・4	CIS-2-421-22	2		○		◎		
グローバルファシリテーション			1・2・3・4	CIS-1-421-13	2		○	○	◎	○	
国際ボランティア活動			1・2・3・4	CIS-1-421-14	2		◎	○	○		
ボランティア活動Ⅰ			1・2・3・4	CIS-1-421-15	2			○	◎	○	
ボランティア活動Ⅱ	1・2・3・4	CIS-1-421-16	2			○	◎	○			
ボランティア活動Ⅲ	1・2・3・4	CIS-1-421-17	2			○	◎	○			
クラスゼミナール	1	CIS-1-421-23	2		◎	○					
2年ゼミナール	2	CIS-2-421-18	4	☆	◎	○	○		○		
3年ゼミナール	3	CIS-3-421-19	4	☆		○	○	◎	○		
4年ゼミナール	4	CIS-4-421-20	4	☆		○	○	○	◎		
開講科目数 小計◎(◎の科目のみカウント)						3	0	6	30	2	

☆: 主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○: 科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目



朱書き:必修

(5) 自由科目 カリキュラムマップ及び科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数	主要授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						(基礎知識)	(コミュニケーション力)	(実践力)	(専門的知識)	(問題解決能力)
自由科目	開発研修Ⅰ	1・2・3・4	DIS-1-501-01	2		○	○	◎		
	開発研修Ⅱ	1・2・3・4	DIS-1-501-02	2		○	○	◎		○
	開発研修Ⅲ	1・2・3・4	DIS-1-501-03	2		○	○	○		◎
	長期開発研修Ⅰ	1・2・3・4	DIS-1-501-04	6		○	○	◎		○
	長期開発研修Ⅱ	1・2・3・4	DIS-1-501-05	6		○	○	◎		○
	職業能力基礎(SPI)非言語	1・2・3・4	DIS-1-501-06	2		◎				
	職業能力基礎(SPI)言語	1・2・3・4	DIS-1-501-07	2		◎				
	国際特別講座(地域経済論)	1・2・3・4	DIS-1-501-10	2					○	
	国際特別講座(新興国ビジネス論)	1・2・3・4	DIS-1-501-11	2					◎	
	国際特別講座(公務員合格に向けた基本講座)	1・2・3・4	DIS-1-501-13	2		◎				
	国際特別講座(キャリアセミナー)	1・2・3・4	DIS-1-501-14	2		◎				
	国際特別講座(グリーン・ツーリズム&エコ・ツーリズム研修)	1・2・3・4	DIS-1-501-15	2				◎	○	○
<b>開講科目数 小計◎(◎の科目のみカウント)</b>						<b>4</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>1</b>

☆:主要授業科目(学部が教育課程上主要と認める授業科目)

◎:科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目、○:科目の到達目標が該当のDPIに関連する科目

## (6) 教職課程科目 科目ナンバリング

区 分		授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数
教科 に及 び する 科の 指 導 法	各教科の指導法	社会科・地理歴史科教育法	2	UTL-2-201-01	4
		社会科・公民科教育法	2	UTL-2-201-02	4
教育の基礎的 理解に関する 科目等	教育の基礎的 理解に関する 科目	教育原理	1	UTL-1-301-01	2
		教育史	1	UTL-1-301-02	2
		教職論	1	UTL-1-301-03	2
		教育社会学	1	UTL-1-301-04	2
		生涯学習概論	1	UTL-1-301-05	2
		教育・発達心理学	1	UTL-1-301-06	2
		特別支援教育論	1	UTL-1-301-07	2
		教育課程論	1	UTL-1-301-08	2
	道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	道徳教育指導論	2	UTL-2-311-01	2
		総合的な学習の時間指導論	1	UTL-1-311-02	1
		特別活動論	2	UTL-2-311-03	2
		教育方法	2	UTL-2-311-04	2
		教育とICT活用	2	UTL-2-311-05	2
		生徒指導論	2	UTL-2-311-06	2
		教育相談(カウンセリングを含む)	2	UTL-2-311-07	2
	教育実践に関 する科目	進路指導論	2	UTL-2-311-08	2
		教育実習(事前・事後指導)	3	UTL-3-321-01	1
		教育実習Ⅰ	4	UTL-4-321-02	2
		教育実習Ⅱ	4	UTL-4-321-03	2
	大学が独自に設定 する科目	教職実践演習(中・高)	4	UTL-4-321-04	2
介護等体験		2	UTL-2-401-01	2	

## (7) 拓殖大学 日本語教員養成講座科目 科目ナンバリング

区分	授業科目名	配当年次	ナンバリング	単位数
日本語教員養成講座	日本語学概論Ⅰ	1	UJE-1-201-21	2
	日本語学概論Ⅱ	1	UJE-1-201-22	2
	日本語教育概論	1	UJE-1-201-23	2
	日本語教育文法Ⅰ	1	UJE-1-201-24	2
	日本語教育文法Ⅱ	1	UJE-1-201-25	2
	教育日本語総合A	2	UJE-2-201-26	2
	教育日本語総合B	2	UJE-2-201-27	2
	教育日本語総合C	2	UJE-3-201-28	2
	日本語教授法Ⅰ	1	UJE-1-201-29	2
	日本語教授法Ⅱ	1	UJE-1-201-30	2
	日本語教育教材論	1	UJE-1-201-31	2
	日本語教育実践演習	3	UJE-3-201-32	2
	日本語教育実習	3	UJE-3-201-33	1
	異文化間理解	1	UJE-1-201-34	2

## 教職課程 履修要項



日本の国公立、私立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員となるためには、教員の免許状を持っていなければなりません。そして、この免許状は教育職員免許法という法律にしたがって設けられた教職課程を履修し、定められた単位を修得した者に与えられます。

## 1 拓殖大学の教職課程における教員養成の理念と目的

拓殖大学は「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為の人材の育成」という建学の理念を掲げて、教育目標である、国際性、専門性、人間性を備えた人材の育成に努めてきました。現在、これを具現化して、「学生一人ひとりが国際的な視野を持ち、国内外の人々と協働して積極的に問題の発見と解決にチャレンジしていくタフな人間力を身につけたグローバル人材（『拓殖人材』）」の育成に取り組んでいます。

本学の教職課程における教員養成の理念は、建学の理念と軌を一にしており、国際社会に生きる一人の国民として主体的に行動し、持続可能な社会の創り手として貢献することができる人材の育成にあります。そのうえで、専門的な知識を身に付け、多様な人々と協働して課題の発見と解決ができ、生徒・保護者・地域社会から信頼され尊敬される教員を養成することこそが、本学の教員養成の目標であり、使命であると考えます。

そこで、目標を次の3つに柱立てして、全学的な協力・指導体制の下、次代を担う生徒たちのため、学校教育が求める教員の養成に全力であたります。

### (1) 世界を視野に入れ、多様な他者と協働して問題発見・解決ができる教員の育成

本学の第2代学監で「太平洋の橋とならん」の言で知られる新渡戸稲造が、国際理解と世界平和に尽力してきたことはよく知られています。グローバル化、高度情報化など社会の急速な進展のなかで、本学の教員養成においても国際社会に貢献しうる人材を育成します。地域社会、自国を含めた世界の多様な他者と主体的に関わり、協働して問題に取り組むことのできる教員の養成を目指します。

### (2) 教育に熱意と使命感を抱き、心豊かな人間性をそなえた教員の養成

生徒の人格形成を目指す学校教育では、生徒に対する深い愛情や責任感を持ち、教員としての高い倫理観と社会常識を身に付け、温かい心で思いやる包容力を持つ教員が求められます。本学では、これらに加えて、豊かな教養や、「チーム学校」の一員として他者と連携・協働できるコミュニケーション能力をもつ心豊かな教員の養成を目指します。

### (3) 高い専門性と実践的な指導力に支えられた、学び続ける教員の養成

生徒のよさや潜在能力を引き出し伸ばしながら、持続可能な社会を切り拓く資質・能力を育成するためには、学習指導、生活指導や学級指導などの場面で具体的かつ効果的な高い指導力が求められます。本学では、そのために必要な専門的知識・技能やそれらを活用した問題発見・解決能力、情報活用能力、「主体的・対話的で深い学び」を実践できる指導力を育成し、「理論と実践の往還」を通して学び続ける教員の養成を目指します。

## 2 教育職員免許状の種類及び教科

国際学部生が取得できる免許状の種類及び教科は、次のとおりです。

(2025年度入学者適用)

学部・学科	修得できる免許状の種類	
国際学部・国際学科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
	社会	地理歴史 公民

- ※ 小学校教諭二種免許状の取得について  
 小学校教諭二種免許状の取得も可能です。取得希望者は、1年次に行われる説明会に必ず出席をして、別途行われる選考を通過した場合のみ2年次に受講を開始出来ます。  
 なお、説明会の詳細については、ポータルサイト (Takudai Portal) でお知らせいたします。

### 3 国際学部が目指す教師像

国際学部では、「拓殖大学の教職課程における教員養成の理念と目的」(前掲)に重点を置きながら、学部独自の教育理念に基づいて、次のような教師の養成を目指します。

#### 1 グローバル化時代に対応し、国際社会の発展のために貢献できる広い視野をもった教師

国際学部では、①三つの力(基礎知識、コミュニケーション力、実践力)を身につけ、②各コースの専門的知識を体系的に修得し、その知識・技能を駆使して、③各コースに関わる国際社会の課題を自ら設定し、必要な情報の収集・分析を行い、他者と協調・協働しながら、その課題を解決できる能力を身につけた人材の育成を教育目標に掲げています。教師の養成においても国際学部で学んだ専門知識や実践力を活かし、国際的な視野から諸問題に取り組みその解決に寄与できる教師の養成を目指します。

#### 2 コミュニケーション力を活かし、問題に迅速かつ適切に対応できる教師

国際学部では、独自の海外研修プログラムやゼミの海外研修旅行など「世界」を直接体験する機会が豊富です。その中で他者と協調・協働しながら問題解決に取り組み、コミュニケーション力を身につけています。教師の養成においても、こうして得た高いコミュニケーション力を活かし、「チーム学校」の一員として保護者、地域社会と関わりながら学校教育の抱える諸問題の解決に向け、迅速かつ適切に対応できる教師の養成を目指します。

#### 3 高い専門性と教育実践力を身に付け、即戦力として活躍できる教師

国際学部では、実践力を養うために学生の海外留学、国内研修、ボランティア活動などを支援し、専門ゼミナールでは専門的知識の体系化と三つの力(基礎知識、コミュニケーション力、実践力)の育成を進めています。このような高い専門性と実践力を持ち、「主体的・対話的で深い学び」を実践できる、即戦力としての教師の養成を目指します。

### 4 教職課程の登録

#### (1) 登録方法

教職課程に登録し、科目を履修するには、次の手続きが必要です。なお、**登録手続きは初年度のみ**で、翌年度以降は自動継続されます。

①登録料の納付	登録初年度の指定時期(4月)に、教職課程登録料を納付してください。
②登録の申請	Web履修登録の『資格申請』で「教職課程」を申請してください。

※ 登録料の納付時期・方法については、教職課程ガイドスにて指示します。

#### (2) 登録料

教職課程の登録料は10,000円です。

ただし、拓殖大学日本語教員養成講座と併せて登録する場合には、15,000円となります。

## 5 教職課程の科目分類

教職課程の科目は、「基礎資格科目」・「教科及び教科の指導法に関する科目」・「教育の基礎的理解に関する科目等」・「大学が独自に設定する科目」の4つに分類されます。

## 6 免許状の取得に必要な科目及び単位数

免許状を取得するためには、免許状の種類及び教科別に定める各科目の必要単位を、4年間にわたり計画的に修得しなければなりません。

(2025年度入学者適用)

科目の区分	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	
	社会	地理歴史	公民
基礎資格科目	8	8	
教科及び教科の指導法に関する科目	40以上	24以上	24以上
教育の基礎的理解に関する科目等	34以上	30以上	30以上
大学が独自に設定する科目	2	5以上	5以上
合計	84以上	67以上	67以上

## 7 基礎資格科目

免許状を取得するための基礎資格として、教育職員免許法施行規則第66条の6で定める「**日本国憲法・体育・外国語コミュニケーション・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作**」の各区分に属する次の開設科目の中から所定の単位を修得しなければなりません。

(2025年度入学者適用)

免許法の科目区分	本学の開設科目名(単位数)	配当年次	必要単位数
日本国憲法	日本国憲法(2)	1年	<b>2単位</b>
体育	スポーツ演習(1)	1年	<b>2単位</b>
	トレーニング演習(1)	1年	
外国語コミュニケーション	English Oral Communication Skills I(1)	1年	<b>2単位</b>
	English Oral Communication Skills II(1)	1年	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	データサイエンス I(2)	1年	<b>2単位以上</b>
	データサイエンス II(2)	1年	
基礎資格科目の合計			<b>8単位以上</b>

## 8 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目は、免許状の種類及び教科によって、修得しなければならない科目・単位数が異なります。各免許法の科目区分ごとに必要単位数を充足した上で、合計単位数以上を修得してください。

なお、次の各表で、○印が付いた科目は、必修科目です。

※ 「各教科教育法」の配当年次一覧は、該当頁を参照してください。

### (1) 中学校教諭一種免許状（社会）

（2025年度入学者適用）

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学の開設科目名（単位数）	必要単位数
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	○日本史概論Ⅰ（2） ○日本史概論Ⅱ（2） ○外国史概論Ⅰ（2） ○外国史概論Ⅱ（2） 日本外交史（2） 朝鮮半島の歴史と文化（2） 中国の歴史と文化（2） 南アジアの歴史と文化（2）	8単位以上
	地理学（地誌を含む）	○人文地理学概論Ⅰ（2） ○人文地理学概論Ⅱ（2） ○自然地理学概論Ⅰ（2） ○自然地理学概論Ⅱ（2） 地球環境（2） ○地誌学概論Ⅰ（2） ○地誌学概論Ⅱ（2） ヨーロッパ（2） 中国（2） 東南アジア（2） 南アジア（2）	12単位以上
	「法律学、政治学」	○政治学（2） 民法（2） 国際法（2） ○法律学概論Ⅰ（2） 法律学概論Ⅱ（2） 安全保障（2） 国際政治（2） 平和構築（2） 国際経済法（2） 国際取引法（2）	4単位以上
	「社会学、経済学」	○社会学（2） ○国際社会学（2） マクロ経済学（2） ミクロ経済学（2） ○開発経済学（2） 国際金融（2）	6単位以上
	「哲学、倫理学、宗教学」	民族と宗教（2） 哲学（2） 倫理学（2） 宗教学（2）	2単位以上
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		○社会科・地理歴史科教育法（4） ○社会科・公民科教育法（4）	8単位
国際学科（社会） 教科及び教科の指導法に関する科目の合計			40単位以上

## (2) 高等学校教諭一種免許状 (地理歴史)

(2025年度入学者適用)

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学の開設科目名 (単位数)	必要単位数
教科に関する専門的事項	日本史	○ 日本史概論Ⅰ (2) ○ 日本史概論Ⅱ (2) 日本外交史 (2)	4単位以上
	外国史	○ 外国史概論Ⅰ (2) ○ 外国史概論Ⅱ (2) 朝鮮半島の歴史と文化 (2) 中国の歴史と文化 (2) 南アジアの歴史と文化 (2)	4単位以上
	人文地理学・自然地理学	○ 人文地理学概論Ⅰ (2) ○ 人文地理学概論Ⅱ (2) ○ 自然地理学概論Ⅰ (2) ○ 自然地理学概論Ⅱ (2) 地球環境 (2)	8単位以上
	地誌	○ 地誌学概論Ⅰ (2) ○ 地誌学概論Ⅱ (2) ヨーロッパ (2) 中国 (2) 東南アジア (2) 南アジア (2)	4単位以上
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		○ 社会科・地理歴史科教育法 (4)	4単位
国際学科 (地理歴史) 教科及び教科の指導法に関する科目の合計			24単位以上

## (3) 高等学校教諭一種免許状 (公民)

(2025年度入学者適用)

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学の開設科目名 (単位数)	必要単位数
教科に関する専門的事項	「法学 (国際法を含む)、政治学 (国際政治を含む。)	○ 政治学 (2) 民法 (2) 国際法 (2) ○ 法学概論Ⅰ (2) 法学概論Ⅱ (2) 安全保障 (2) 国際政治 (2) 平和構築 (2) 国際経済法 (2) 国際取引法 (2)	4単位以上
	「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	○ 社会学 (2) ○ 国際社会学 (2) マクロ経済学 (2) ミクロ経済学 (2) ○ 開発経済学 (2) 国際金融 (2)	6単位以上
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	民族と宗教 (2) 哲学 (2) 倫理学 (2) 宗教学 (2)	2単位以上
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		○ 社会科・公民科教育法 (4)	4単位
国際学科 (公民) 教科及び教科の指導法に関する科目の合計			24単位以上

※ 各区分の必要単位数の他に、高等学校教諭一種免許状 (公民) の開設科目の中から8単位以上履修しなければ、24単位以上になりませんので、注意してください。

## (4) 「各教科の指導法」の配当年次一覧

(2025年度入学者適用)

授業科目名 (単位数)	対象免許状の種類	配当年次
社会科・地理歴史科教育法 (4)	社会・地理歴史	2年
社会科・公民科教育法 (4)	社会・公民	2年

## 9 教育の基礎的理解に関する科目等

教育の基礎的理解に関する科目等は、次に定められた必要単位数を修得してください。

なお、次の表で○印が付いた科目は必修科目、●印が付いた科目は中学校教諭一種免許状の必修科目です。

(2025年度入学者適用)

免許法の科目区分	本学の開設科目名(単位数)	配当年次	必要単位数
教育の基礎的理解に関する科目	○ 教育原理 (2) ○ 教育史 (2) ○ 教職論 (2) ○ 教育社会学 (2) ○ 生涯学習概論 (2) ○ 教育・発達心理学 (2) ○ 特別支援教育論 (2) ○ 教育課程論 (2)	1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年	12単位以上
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	● 道徳教育指導論 (2) ○ 総合的な学習の時間指導論 (1) ○ 特別活動論 (2) ○ 教育方法 (2) ○ 教育とICT活用 (2) ○ 生徒指導論 (2) ○ 教育相談(カウンセリングを含む) (2) ○ 進路指導論 (2)	2年 1年 2年 2年 2年 2年 2年	中学：15単位 高校：13単位以上
教育実践に関する科目	○ 教育実習(事前・事後指導) (1) ○ 教育実習Ⅰ (2) ● 教育実習Ⅱ (2) ○ 教職実践演習(中・高) (2)	3・4年 4年 4年 4年	中学：7単位 高校：5単位以上

※ 中学校教諭一種免許状の取得希望者は、必ず「道徳教育指導論」(2単位)と「教育実習Ⅱ」(2単位)の単位を修得してください(必修)。

※ 「教育実習(事前・事後指導)」は、3年次後期及び4年次前期に履修する年度をまたがる科目のため、必ず3年次後期から履修してください。

## 10 大学が独自に設定する科目

大学が独自に設定する科目は、次に定められたとおり、中学校は「介護等体験」(2単位)、高等学校各教科は「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」の超過単位数が、合計5単位以上になるよう履修し、単位を修得してください。

(2025年度入学者適用)

科目の区分	科目名	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	
		社会	地歴	公民
大学が独自に設定する科目	介護等体験	2単位(必修)	5単位以上	5単位以上
	教科及び教科の指導法に関する科目の必要単位数超過分単位	—		
	教育の基礎的理解に関する科目等の必要単位数超過分単位	—		
合計		2単位	5単位以上	5単位以上

※ 「道徳教育指導論」は、教育の基礎的理解に関する科目等の必要単位数超過分として認定されません。

※ 中学校教諭一種免許状取得希望者は必ず「介護等体験」(2年次配当)の単位を修得してください(必修)。

また、高等学校教諭一種免許状取得希望者が「介護等体験」の単位を取得した場合は、「大学が独自に認定する科目」(5単位以上)に充当されます。

## 11 履修カルテについて

教職課程履修者の学修状況をきめ細かく把握し、指導・助言に活用するために「履修カルテ」を使用します。詳細については、教職課程ガイダンスにおいて説明しますが、「教育実習（事前・事後指導）」、「教職実践演習（中・高）」を履修するうえで、必要となりますので、教職課程ガイダンスには必ず出席してください。

## 12 教育実習について

- (1) 「教育実習Ⅰ・Ⅱ」を実施するためには、以下のことが必要になります。
  - ・「**教職論**」を修得していること。
  - ・「**(教育実習を実施する教科の)教科教育法**」を修得していること。
  - ・「**総合的な学習の時間指導論**」、「**道徳教育指導論**」、「**特別活動論**」のうち1科目以上を修得していること。  
(高等学校教諭免許状のみを取得希望する者は、「総合的な学習の時間指導論」・「特別活動論」のうち1科目以上を修得していること。)
  - ・「**教育実習（事前・事後指導）**」を3年生で履修し、担当教員が教育実習への派遣を許可していること。これらすべての要件を満たさない場合は、**実習が中止**となりますので、注意してください。
- (2) 教育実習期間は、概ね**中学校教諭一種免許状の取得希望者は3～4週間、高等学校教諭一種免許状取得希望者は2週間**です。ただし、受入校により若干異なる場合があります。
- (3) 実習校の決定に当たっては、**第一に出身校を選び、教育実習を実施する前年度（3年次）中に内諾依頼書を持参のうえ、出身校を訪問し、内諾を得て**ください。なお、万が一内諾を得ることが出来なかった場合には、八王子学務課に申し出てください。
- (4) 出身校が**都立高等学校・都内公立中学校及び拓殖大学第一高等学校**の場合は、事前打合せ・実習期間等が予め指定されますので、教職課程ガイダンス時等の指示に従ってください。
- (5) 「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の成績は、大学での「教育実習（事前・事後指導）」の成果、実習生が作成する「教育実習記録」の内容、及び実習校における教育実習状況を総合的に評価し、**4年次の後期に発表**します。
- (6) 教育実習の実習日数により、認定される科目及び認定単位数が次のとおり異なります。
  - ① 2週間実施 : 「教育実習Ⅰ」（2単位）を認定
  - ② 3週間以上実施 : 「教育実習Ⅰ」（2単位）と「教育実習Ⅱ」（2単位）を認定
- (7) 教育実習に関わる諸費用として、4年次初めに教育実習費5,000円を指定期日までに八王子学務課に納入してください。  
ただし、実習校によっては、別途謝礼金が必要になる場合があります。

## 13 中学校教諭一種免許状取得のための「介護等体験」について

中学校教諭一種教諭の免許を取得するためには、介護等の体験が7日間（福祉施設：5日間、特別支援学校：2日間）必要となります。

- (1) 介護等体験を行うためには、「**介護等体験（講義）**」（2年次配当）を履修登録し、**事前指導を受けることが必要条件**です。
- (2) 介護等体験施設については、希望する学生を大学で取りまとめ、教育委員会・施設・学校等に依頼後決定しますので、指定された期間内に「介護等体験申込書」を八王子学務課に提出してください。
- (3) 介護等体験実習費として5,000円、施設・学校への謝礼金として11,000円（2024年度実績）をそれぞれ指定期日までに八王子学務課へ納入してください。  
なお、介護等体験の実習に際し、学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険〔保険料210円 2024年度実績〕への加入が必要となります。  
※ 金額は変更になる場合があります。
- (4) 介護等体験実習は、大学での「介護等体験（講義）」の成果、施設・学校が発行する「介護等体験証明書」及び体験者が作成する「介護等体験記録簿」等の評価を総合的に評価し、**履修年度の後期成績発表時に認定**します。

## 14 免許状の申請手続き

- (1) 卒業時に免許状を取得する場合（大学一括申請）
  - ① 4年次に配布する「教育職員免許状一括申請申込書」を指定期日までに、八王子学務課へ提出してください。
  - ② 申請書提出者に対し、免許状申請説明会を11月下旬から12月上旬頃に開催します。説明会にて、免許状記載事項の確認、宣誓書への署名捺印及び申請料金の納付（1教科：3,300円 2024年度実績）等の手続きを行います。
  - ③ 上記の手続きを完了し、免許状取得に必要な単位を修得し卒業が確定した者について、大学で取りまとめのうえ東京都教育委員会へ申請手続を行い、卒業式当日に免許状を授与します（印鑑持参）。
- (2) 卒業後に免許状を取得しようとする場合（個人申請）

卒業後、各自が居住する都道府県教育委員会に必要な書類を揃えて申請することにより免許状が取得できます（詳細は居住する都道府県教育委員会に確認してください）。

# 拓殖大学日本語教員養成講座 履修要項



## 1 拓殖大学日本語教員養成講座の概要

本講座は、日本語を母語としない人（主に外国人）を対象に、外国語として日本語を教えるうえで必要な知識・技能を学ぶ講座です。

日本語学習者は、国内 26 万人（※1）、海外 379 万人（※2）を数えます。一度コロナ禍で減少したものの、ふたたび大きく増加しており、多くの日本語教員が国内外で必要とされています。

また、日本語教員の養成は、海外との交流のかけ橋となるという本学の建学の理念にも沿ったものです。

今後、日本国内の正規の日本語学校（認定日本語教育機関）で日本語教員として活躍するためには、2024 年 4 月より国家資格となった「登録日本語教員」の資格を有する必要があります。資格を取得するには、日本語教員試験（基礎試験および応用試験）に合格し、実践研修を修了しなければいけません。本講座の 14 科目 27 単位を修得することにより、資格取得に必要な日本語教員試験（基礎試験）及び実践研修が免除されます。

したがって、本講座を修了し、日本語教員試験（応用試験）に合格すると「登録日本語教員」の資格を得ることができます。

本講座の修了者のうち、一定以上の水準に達した者には、本学大学院言語教育研究科日本語教育学専攻に進学する道も開かれています。

なお、開講キャンパスは八王子国際キャンパスのみとなります。

※1 2023 年度文化庁調べ、※2 2021 年度国際交流基金調べ

## 2 拓殖大学日本語教員養成講座の登録

### (1) 登録方法

拓殖大学日本語教員養成講座に登録し、科目を履修するには、次の手続が必要です。

なお、登録手続は初年度のみで、一度登録した者については、翌年度以降は自動継続されます。

①登録料の納付	登録初年度の指定時期（4月）に、登録料を納付する。
②登録の申請	Web 履修登録の『資格申請』で「日本語教員」を申請してください。

※登録料の納付時期・方法については、新年度の日本語教員養成講座ガイダンスにて指示します。

### (2) 登録料

拓殖大学日本語教員養成講座の登録料は、10,000円です。

ただし、教職課程と併せて登録する場合には、15,000円（2講座）となります。

### 3 拓殖大学日本語教員養成講座の開設科目と必要単位

拓殖大学日本語教員養成講座を修了するためには、次の科目すべての単位を修得してください。  
(2025年度入学者適用)

科目名	単位数	配当年次	文化庁で示す3領域5区分16下位区分による 必須の教育内容(50項目)
日本語学概論Ⅰ	(2)	1年	(11) 待遇・敬意表現 (37) 一般言語学 (38) 対照言語学 (39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声体系 (41) 日本語教育のための文字と表記 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (43) 日本語教育のための文法体系 (44) 日本語教育のための意味体系
日本語学概論Ⅱ	(2)	1年	(8) 社会言語学 (10) コミュニケーションストラテジー (11) 待遇・敬意表現 (14) 談話理解 (15) 言語学習 (37) 一般言語学 (38) 対照言語学 (45) 日本語教育のための語用論的規範
日本語教育概論	(2)	1年	(3) 多文化共生 (4) 日本語教育史 (7) 世界と日本の日本語教育事情 (13) 多言語・多文化主義 (16) 習得過程(第一言語・第二言語) (19) 日本語学習・教育の情意的側面 (24) 教授法 (34) コミュニケーション教育 (41) 日本語教育のための文字と表記 (43) 日本語教育のための文法体系
日本語教育文法Ⅰ	(2)	1年	(43) 日本語教育のための文法体系
日本語教育文法Ⅱ	(2)	1年	(43) 日本語教育のための文法体系
教育日本語総合A	(2)	2年	(1) 世界と日本の社会と文化 (2) 日本の在留外国人施策 (3) 多文化共生 (4) 日本語教育史 (5) 言語政策 (6) 日本語の試験 (7) 世界と日本の日本語教育事情
教育日本語総合B	(2)	2年	(9) 言語政策とことば (12) 言語・非言語行動 (39) 日本語教育のための日本語分析 (44) 日本語教育のための意味体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範
教育日本語総合C	(2)	2年	(15) 言語学習 (16) 習得過程(第一言語・第二言語) (17) 学習ストラテジー (18) 異文化受容・適応 (26) 評価法 (29) 中間言語分析 (30) 授業分析・自己点検能力 (32) 異文化間教育 (33) 異文化間コミュニケーション (34) コミュニケーション教育
日本語教授法Ⅰ	(2)	1年	(20) 日本語教師の資質・能力 (21) 日本語教育プログラムの理解と実践 (22) 教室・言語環境の設定 (24) 教授法 (35) 日本語教育とICT
日本語教授法Ⅱ	(2)	1年	(23) コースデザイン (25) 教材分析・作成・開発 (27) 授業計画 (31) 目的別・対象別教授法
日本語教育教材論	(2)	1年	(7) 世界と日本の日本語教育事情 (23) コースデザイン (25) 教材分析・作成・開発 (31) 目的別・対象別教授法 (35) 日本語教育とICT (36) 著作権
日本語教育実践演習 (※)	(2)	3年	(25) 教材分析・作成・開発 (27) 授業計画 (28) 教育実習 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力
日本語教育実習 (※)	(1)	3年	(28) 教育実習 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力
異文化間理解	(2)	1年	(3) 多文化共生 (18) 異文化受容・適応 (19) 日本語学習・教育の情意的側面 (32) 異文化間教育 (33) 異文化間コミュニケーション
必要な科目(単位)の合計 : 14科目 (27単位)			カッコ書き数字は、文化庁で示す3領域5区分 16下位区分による必須の教育内容(50項目)の番号

※「日本語教育実践演習」及び「日本語教育実習」の履修には条件があります。  
詳細は98頁を確認してください。

【参考】文化庁で示す3領域5区分16下位区分による必須の教育内容(50項目)との対応表

3領域	5区分	求められる単位数	拓殖大学日本語教員養成講座 開講科目名・単位数
	[丸囲み数字] 16下位区分 [カッコ書き数字] 必須の教育内容 (50項目)		
社会・文化・地域	① 世界と日本 (1) 世界と日本の社会と文化	2~4	日本語教育概論 (2) 教育日本語総合A (2) 日本語教育教材論 (2) 異文化間理解 (2)
	② 異文化接触 (2) 日本の在留外国人施策 (3) 多文化共生 (地域社会における共生)		
	③ 日本語教育の歴史と現状 (4) 日本語教育史 (5) 言語政策 (6) 日本語の試験 (7) 世界と日本の日本語教育事情		
言語と社会	④ 言語と社会の関係 (8) 社会言語学 (9) 言語政策とことば	2~4	日本語学概論 I (2) 日本語学概論 II (2) 日本語教育概論 (2) 教育日本語総合B (2)
	⑤ 言語使用と社会 (10) コミュニケーションストラテジー (11) 待遇・敬意表現 (12) 言語・非言語行動		
	⑥ 異文化コミュニケーションと社会 (13) 多文化・多言語主義		
言語と心理	⑦ 言語理解の過程 (14) 談話理解 (15) 言語学習	2~4	日本語学概論 II (2) 日本語教育概論 (2) 教育日本語総合C (2) 異文化間理解 (2)
	⑧ 言語習得・発達 (16) 習得過程 (第一言語・第二言語) (17) 学習ストラテジー		
	⑨ 異文化理解と真理 (18) 異文化受容・適応 (19) 日本語の学習・教育の情意的側面		
言語と教育	⑩ 言語教育法・実習 (20) 日本人教師の資質・能力 (21) 日本語教育プログラムの理解と実践 (22) 教室・言語環境の設定 (24) 教授法 (29) 中間言語分析 (31) 目的・対象別日本語教育法	2~4	日本語教育概論 (2) 教育日本語総合C (2) 日本語教授法 I (2) 日本語教授法 II (2) 日本語教育教材論 (2)
	(23) コースデザイン (25) 教材分析・作成・開発 (27) 授業計画	2~6	日本語教授法 II (2) 日本語教育教材論 (2) 日本語教育実践演習 (2)
	(28) 教育実習	1~3	日本語教育実践演習 (2) 日本語教育実習 (1)
	(26) 評価法 (30) 授業分析・自己点検能力	2	教育日本語総合C (2)
	⑪ 異文化間教育とコミュニケーション教育 (32) 異文化間教育 (33) 異文化コミュニケーション (34) コミュニケーション教育	2	日本語教育概論 (2) 教育日本語総合C (2) 異文化間理解 (2)
	⑫ 言語教育と情報 (35) 日本語教育とICT (36) 著作権	2	日本語教授法 I (2) 日本語教育教材論 (2)
	⑬ 言語の構造一般 (37) 一般言語学 (38) 対照言語学	2	日本語学概論 II (2)
言語	⑭ 日本語の構造 (39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声体系 (41) 日本語教育のための文字と表記 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (43) 日本語教育のための文法体系 (44) 日本語教育のための意味体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範	4~8	日本語学概論 I (2) 日本語学概論 II (2) 日本語教育概論 (2) 日本語教育文法 I (2) 日本語教育文法 II (2)
	⑮ 言語研究	-	
	⑯ コミュニケーション能力 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力	2	日本語教育実践演習 (2) 日本語教育実習 (1)
26~45単位			必要な単位の合計：27単位

#### 4 拓殖大学日本語教員養成講座の履修上の注意事項

拓殖大学日本語教員養成講座科目の科目は配当（履修）年次を定めていますので、計画的に履修してください。3年次からの2年間、あるいは4年次の1年間では、時間割の関係ですべての科目を履修できない場合がありますので、遅くとも2年次からの受講を推奨します。

- (1) 「日本語教育実践演習」および「日本語教育実習」の履修について  
この2科目を履修するには、日本語教育についての一定の知識が必要になるため、履修登録時までに①に示す7科目14単位を修得している必要があります。  
また、履修するにあたって、②に示されているとおりに履修してください。
- ①履修登録する時までに以下の7科目14単位を修得していること。

科目名	科目名
日本語学概論Ⅰ	日本語教授法Ⅰ
日本語教育概論	日本語教授法Ⅱ
日本語教育文法Ⅰ	日本語教育教材論
日本語教育文法Ⅱ	

- ②「日本語教育実践演習」と「日本語教育実習」は同時に履修すること。または先に「日本語教育実践演習」を履修し、次年度に「日本語教育実習」を履修すること。  
「日本語教育実習」のみ先に履修することはできない。

#### 5 修了証および単位修得証明書の申請

修了証の発行および単位修得証明書の交付を希望する学生は、修了に必要な単位を全て修得したうえで（修得予定可）、卒業年次に以下の手続きをおこなってください。申請方法等詳細については、ポータルサイト（Takudai Portal）でお知らせします。

- (1) 修了証の申請
- ① 申請期間 12月上旬を予定
  - ② 提出書類等 修了証申請書（所定用紙に必要事項を記入）、学業成績表（写）
  - ③ 修了証の交付 卒業式当日
- (2) 単位修得証明書の申請
- ① 申請期間 別途指定する期間（卒業確定者発表以降、指定期日まで）
  - ② 費用 1通400円（証明書自動発行機で申請書を購入してください）
  - ③ 証明書の交付 卒業式当日
- (3) 取得科目の授業内容等（シラバス）の提出を求められたとき  
単位修得年度の「講義要項」を拓殖大学ホームページ上で検索し、印刷してください。
- 本講座は、文化庁が定める日本語教師養成課程の新カリキュラムにも対応済みで、3領域5区分16下位区分による必須の教育内容（50項目）が、各科目のシラバスに反映されています。

# 拓殖大学学則(抄)



## 第1章 総則

(目的)

**第1条** 拓殖大学(以下「本学」という。)は、海外に赴き、地域の開発協力や福利の向上など、公私の事業に貢献できる有為の人材を育成するという建学の初志をふまえ、教育基本法を精神を体し、学校教育法に定める大学の役割を果たすべく、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究して、人格を陶冶し社会の発展に貢献できる有為の人材を育成することを目的とする。

2 第4条に定める学部、学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表第1に定める。

(使命)

**第2条** 本学は、積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為の人材の育成を建学の理念としている。この国際友愛と人間尊重の理念に基づき、日本及び世界の平和と文化の進展に寄与していくことを使命とする。

(自己点検・評価)

**第3条** 本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検及び評価に関する必要な事項は、別に定める。

## 第2章 組織

(学部及び学科の設置)

**第4条** 本学に、商学部、政経学部、外国語学部、工学部及び国際学部を置く。

(1) 商学部、経営学科、国際ビジネス学科及び会計学科を置く。

(2) 政経学部、法律政治学科、経済学科及び社会安全学科を置く。

(3) 外国語学部、英米語学科、中国語学科、スペイン語学科及び国際日本語学科を置く。

(4) 工学部に、機械システム工学科、電子システム工学科、情報工学科及びデザイン学科を置く。

(5) 国際学部、国際学科を置く。

(入学定員及び収容定員)

**第5条** 前条に規定する各学科の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	経営学科	416名 (※外国人留学生特別枠 36名を含む)	1,664名 (※外国人留学生特別枠 144名を含む)
	国際ビジネス学科	159名 (※外国人留学生特別枠 9名を含む)	636名 (※外国人留学生特別枠 36名を含む)
	会計学科	70名	280名
政経学部	法律政治学科	230名	920名
	経済学科	473名 (※外国人留学生特別枠 23名を含む)	1,892名 (※外国人留学生特別枠 92名を含む)
	社会安全学科	150名	600名
外国語学部	英米語学科	130名	520名
	中国語学科	50名	200名
	スペイン語学科	50名	200名
	国際日本語学科	50名	200名
工学部	機械システム工学科	80名	320名
	電子システム工学科	80名	320名
	情報工学科	105名	420名
	デザイン学科	80名	320名
国際学部	国際学科	350名	1,400名

(大学院)

**第6条** 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する規則は、別に定める。

(別科)

**第7条** 本学に、別科を置く。

2 別科に関する規則は、別に定める。

(附置研究所)

**第8条** 本学に、附置研究所として、経営経理研究所、政治経済研究所、言語文化研究所、理工学総合研究所、人文科学研究所、海外事情研究所、国際日本文化研究所、国際開発研究所、日本語教育研究所、イスラーム研究所、地方政治行政研究所、産学連携研究センター及び地域連携センター(以下「研究所」という。)を置く。

2 研究所に関する規則は、別に定める。

(図書館)

**第9条** 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関する規則は、別に定める。

(事務組織等)

**第10条** 本学に、事務局、学生支援センター、入学支援センター、総合情報センター、就職キャリアセンター及び国際交流留学生センターを置く。

2 本学の事務組織、学生支援センター、入学支援センター、総合情報センター、就職キャリアセンター及び国際交流留学生センターに関する規則は別に定める。

### 第3章 職員組織

(職員)

**第11条** 本学に、学長、副学長、教授、准教授、助教、講師、助手、学生主事、学生主事補、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長)

**第12条** 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

(副学長)

**第13条** 副学長は、学長を補佐し、命を受けて、校務を統括する。

(学部長)

**第14条** 各学部に、学部長を置く。

2 学部長は、その学部の教授のうちからこれをあてる。

3 学部長は、学長を補佐し、当該学部の校務を統括する。

(研究所長等)

**第15条** 研究所に、研究所長又はセンター長を置く。

(図書館長)

**第16条** 図書館に、図書館長を置く。

### 第4章 教授会

(学部教授会)

**第17条** 本学の各学部に、教授会を置く。

2 学部教授会は、当該学部の専任の専任の教授、准教授及び助教をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

3 学部教授会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 教授会の運営に関する事項

(2) 教育課程の編成、変更、実施及び講義担当に関する事項

(3) 学部長の選挙に関する事項

(4) 教員人事に関する事項

(5) 各種委員会に関する事項

(6) 名誉教授の推薦に関する事項

- (7) 学則に関する事項
  - (8) 学生の入学、退学、休学、進級、復学、転部、転科、留学、除籍、卒業及び課程の修了、学位の授与に関する事項
  - (9) 学生の試験に関する事項
  - (10) 奨学生の選考に関する事項
  - (11) 学生の賞罰に関する事項
  - (12) 学生団体、学生活動、その他学生生活に関する事項
  - (13) 教授会規程の改廃に関する事項
  - (14) その他当該学部運営上重要な事項
- 4 前項第4号の審議及び議決には、准教授及び助教は参加することができない。
  - 5 前3項に掲げる審議事項のうち、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与については、学長が決定を行うにあたり、必ず意見を述べなければならない。
  - 6 学部教授会において審議、議決された事項は、学部長から学長に報告し、学長が決定する。
  - 7 学部教授会に関するその他必要な事項は、別に定める。  
(連合教授会)
- 第18条** 本学に、連合教授会を置く。
- 2 連合教授会は、各学部の専任の教授をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。
  - 3 連合教授会は、学長が次に掲げる事項を決定するにあたり意見を述べるものとする。
    - (1) 学部教授会から附託された事項
    - (2) その他各学部に共通する事項
  - 4 連合教授会に関するその他必要な事項は、別に定める。

## 第5章 学年・学期及び休業日

(学年)

**第19条** 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

**第20条** 学年は、次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

(授業期間)

**第21条** 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(休業日)

**第22条** 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(2) 本学の創立記念日(11月3日)

(3) 春季休業日 3月24日から3月31日まで

(4) 夏季休業日 7月11日から9月10日まで

(5) 冬季休業日 12月25日から翌年1月7日まで

2 学長は、教授会の議を経て前項に規定する休業日を変更することができる。

3 第1項に規定するもののほか、学長は、教授会の議を経て臨時の休業日を定めることができる。

## 第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

**第23条** 学部の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

**第24条** 学生は、6年をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、8年以内の期間、在学することができる。

- 2 第30条第1項の規定により入学した学生は、同条第2項により定められた在学年数の1.5倍の年数(端数が生じた場合は切上げた数)をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、その2倍に相当する年数以内の期間、在学することができる。

## 第7章 入学

(入学の時期)

**第25条** 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

**第26条** 本学へ入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年1月31日文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度試験に合格した者
- (7) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

**第27条** 本学へ入学を志願する者は、入学志願書に別表第2-1に定める入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

- 2 入学検定料は、受験の如何にかかわらずこれを返還しない。

(入学者の選考)

**第28条** 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

**第29条** 選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書・同意書その他所定の書類を提出するとともに、別表第2-2に定める学費及び所定の諸会費(以下「学費等」という。)を納付しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学及び転入学)

**第30条** 次の各号の一に該当する者で、本学へ入学を志願するときは、学長は、欠員のある場合に限り、教授会の議を経て、相当学年に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
  - (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
  - (3) 他の大学を退学した者
  - (4) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校の課程を修了し、又は卒業した者
  - (5) 大学入学資格を有し、専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
  - (6) 大学入学資格を有し、高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
- 2 前項及び第31条の規定により入学を許可された者のすでに履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、学長が教授会の議を経て決定する。

(再入学)

**第31条** 学長は、本学の退学者及び除籍者が再入学を願い出たときは、次の各号に該当する者を除き、欠員がある場合に限り、教授会の議を経て相当学年に入学を許可することができる。

- (1) 第54条第2項により放校退学された者
- (2) 第54条第2項による論旨退学者で退学決定日より1年以上経過していないとき。
- (3) 第50条第2号により除籍された者

(保護者等)

**第32条** 入学の許可を得た者は、保護者等を届け出なければならない。

- 2 保護者等は、父母若しくはこれに準ずる者とする。
- 3 保護者等は、学生が学修研究活動等を円滑に遂行していくうえで、大学と連携し、学生を指導・支援しなければならない。

## 第8章 教育課程及び履修方法

(授業科目)

**第33条** 授業科目は、全学共通教養科目、外国語科目、初期教育科目、専門科目、ゼミナール科目、自由科目、教職課程科目及び拓殖大学日本語教員養成講座科目等とする。

(メディアを利用して行う授業)

**第34条** 学長は、本学が教育上有益と認めるときは、前条の授業科目を、教授会の議を経て、多様なメディアを高度に利用して、教室以外の場所で履修させることができる。

- 2 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち60単位を限度とする。

(履修方法)

**第35条** 授業科目の履修方法及び修得すべき単位数は、別表第3のとおりとする。

(単位の計算方法)

**第36条** 授業科目の単位計算方法は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて45時間を標準とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、ゼミナール論文、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められた場合は、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 3 授業科目の単位数は、教授会の議を経て学長が定める。

(教育職員免許状の授与)

**第37条** 教育職員の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める単位を修得しなければならない。

- 2 本学の学部及び学科において取得できる教育職員免許状の種類は、別表第4の通りである。

## 第9章 試験・成績及び進級

(履修届の提出)

**第38条** 学生は、毎年度所定の期日までに、履修すべき授業科目を記載した履修届を提出しなければならない。

(試験)

**第39条** 履修した授業科目は、試験その他の適切な方法等(以下「試験等」という。)により学修の成果を評価し、合格した者に単位を与える。

- 2 学費等を納付していない者、休学又は停学の期間中の者等には、単位を与えることができない。
- 3 試験等の実施については、別に定める。

(成績等)

**第40条** 学生に対して、授業の方法及び内容並びに授業の計画をあらかじめ明示する。

- 2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行う。

- 3 授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びFをもって表わし、S、A、B及びCを合格とする。  
(進級)

**第41条** 上級の学年に進級する基準は、別に定める。

## 第10章 休学・転学・転部・転科・留学・退学及び除籍

(休学)

**第42条** 疾病その他の事由により3カ月以上修学することができない者は、学長の許可を受けて休学することができる。

- 2 学長は、疾病のため修学することが適当でないと認められた者に対し休学を命ずることができる。  
(休学期間)

**第43条** 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して4年をこえることはできない。  
3 休学期間は、第24条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

**第44条** 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を受けて復学することができる。

(転入学)

**第45条** 他の大学へ入学又は転入学を志願しようとする者は、学長に届け出なければならない。

(転部及び転科)

**第46条** 学長は、他の学部へ転部又は他の学科へ転科することを志願する者に対し、欠員がある場合に限り、教授会の議を経て、許可することができる。

(単位認定等)

**第47条** 学長は、本学が教育上有益と認めるときは、次の各号の一に該当する単位等は、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

- (1) 本学が定める他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位
  - (2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位
  - (3) 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(いずれも外国の大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位及びその他文部科学大臣が別に定める学修を本学に入学した後の本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位
- 2 前項により認定することのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、60単位を限度とする。

(留学)

**第48条** 本学の学生で、外国の大学で学修することを志願する者は、学長の許可を受けて留学することができる。

- 2 前項の許可を受けて留学した期間は、第24条に定める在学期間に含めることができる。  
3 前項の規定より履修し、修得した授業科目及び単位は、教授会の議を経て、商学部、政経学部、外国語学部、国際学部においては、30単位を限度として、工学部においては、60単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。

(退学)

**第49条** 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

**第50条** 学長は、次の各号の一に該当する者を、教授会の議を経て、除籍することができる。

- (1) 学費等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第24条に定める在学年限をこえた者
- (3) 第43条第2項に定める休学期間をこえて修学できない者
- (4) 履修届の提出等在籍に要する手続を履行しない者

## 第11章 卒業及び学位

(卒業)

**第51条** 学長は、本学に4年(第30条第1項及び第31条の規定により入学した者については、第30条第2項により定められた在学すべき年数)以上在学し、別に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、卒業を認定する。

(学位の授与)

**第52条** 卒業した者には、次の区分に従い、学位を授与する。

商学部	経営学科 国際ビジネス学科 会計学科	学士(商学)
政経学部	法律政治学科 経済学科 社会安全学科	学士(法律政治学) 学士(経済学) 学士(法律政治学)
外国語学部	英米語学科 中国語学科 スペイン語学科 国際日本語学科	学士(英米語) 学士(中国語) 学士(スペイン語) 学士(日本語)
工学部	機械システム工学科 電子システム工学科 情報工学科 デザイン学科	学士(工学)
国際学部	国際学科	学士(国際開発)

2 学位の授与に関し、その他必要な事項は拓殖大学学位規程の定めるところによる。

## 第12章 賞罰

(表彰)

**第53条** 学長は、学生として表彰に価する行為があった者を教授会の議を経て表彰する。

(懲戒)

**第54条** 学長は、本学の規則に違反し、次の各号の一に該当する者に対し、教授会の議を経て、懲戒する。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなく出席が常でない者
- (3) 本学の秩序を乱した者
- (4) 学生としての本分に反した者

2 前項の懲戒の種類は、放校退学、諭旨退学、停学、謹慎、譴責及び訓戒とする。

## 第13章 科目等履修生・委託生・受託留学生及び研究生

(科目等履修生)

**第55条** 学長は、本学において一又は複数の授業科目について履修を志願する者があるときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 科目等履修生は、履修した授業科目の試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を認定する。
- 4 科目等履修生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(委託生)

**第56条** 学長は、本学に対して官公庁、外国政府又は内外の企業・機関等から委託があったときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、委託生として入学を許可することができる。

- 2 委託生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 委託生に関し、その他必要な事項については別に定める。  
(受託留学生)

**第57条** 学長は、外国の大学との協定に基づき、当該大学からの委託によって一定の期間本学に留学する者は、教授会の議を経て、受託留学生として入学を許可する。

- 2 受託留学生に関し、その他必要な事項については別に定める。  
(研究生)

**第58条** 学長は、指導教員の指導のもとに特定事項に関する研究をしようとする者があるときは、各学部の教育研究に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 研究生に関し、その他必要な事項については別に定める。  
(学則の準用)

**第59条** 科目等履修生、委託生、受託留学生及び研究生には、本章に規定するほか、本学則の各章の規定を準用する。

## 第14章 学費等

(学費の額)

**第60条** 学費等の額は、別表第2-2及び別表第2-3に定めるとおりとする。

- 2 第30条第1項及び第31条の規定により入学を許可された者が納付すべき学費の額は、在学することとなる年次の学生に適用する学則に定める額とする。
- 3 卒業できない者及び上級の学年に進級できない者の学費は、別表第2-2に定める学費の額にかかわらず、滞留することとなる年次の学生に適用する学則に定める額とする。
- 4 学費の減免及び免除等の特例については、別に定める。  
(学費等の納付)

**第61条** 学費及び所定の諸会費は、当該学年度分を別に定める期日までに納付しなければならない。

- 2 1学期を通じて休学する者に対しては、休学中の授業料及び施設設備資金を免除する。ただし、休学中は1学期につき50,000円の在籍料を納入しなければならない。
- 3 第48条に定める留学中の学費等は、全額納付しなければならない。  
(学費等の返還)

**第62条** 納付した学費等は、事由の如何にかかわらず返還しない。ただし、入学手続時において別に定めるところにより入学を辞退する場合は、この限りでない。

## 第15章 奨学生

(奨学生)

**第63条** 学長は、学力優秀、品行方正な学生を、教授会の議を経て、奨学生とすることができる。

- 2 奨学生に関する規程は、別に定める。

## 第16章 公開講座

(公開講座)

**第64条** 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座に関する規程は別に定める。

## 第17章 寄宿舍

(寄宿舍)

**第65条** 本学に寄宿舍を置く。

- 2 寄宿舍に関する規程は、別に定める。

## 第18章 雑則

(学則の変更)

**第 66 条** この学則は、教授会の議を経て、学長の提案に基づき、理事会の議決により変更することができる。

**附 則**

- 1 この学則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 6 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。



# 拓殖大学研究倫理ガイドライン



## 1. 目的

拓殖大学研究倫理ガイドライン（以下「本ガイドライン」という。）は、拓殖大学（以下「本学」という。）における学術研究が科学的及び社会的規範に従い適切な方法で遂行され、社会からの信頼を確保することを目的に、研究に従事するすべての研究者が遵守すべき倫理指針及び研究活動上の不正行為に関する必要な事項を定めたものである。

## 2. 用語の定義

本ガイドラインにおいて用いる用語の定義は、次のとおりとする。

### (1) 研究者

本学の専任教職員のみならず、本学で研究活動に従事するものすべての者を指し、学生であっても研究にかかわる時は研究者に準ずるものとする。

### (2) 研究活動上の不正行為

- ① 故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる、ねつ造、改ざん、又は盗用。
  - ・ねつ造：存在しないデータ、研究結果等を作成すること
  - ・改ざん：研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること
  - ・盗用：他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること
- ② ①以外の研究活動上の不適切な行為であって、研究者の行動規範及び社会通念に照らして研究倫理からの逸脱の程度が甚だしい二重投稿、不適切なオーサーシップ
  - ・二重投稿：他の学術誌等に既発表又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること
  - ・不適切なオーサーシップ：論文著作者が適正に公表されないこと

## 3. 大学の責務

- (1) 本学は、研究倫理にかかわる意識を高め、研究活動における不正行為及び研究費の取り扱いにおける不正行為を防止するため、必要な措置を講じる。
- (2) 本学は、研究活動に不適切な行為が認められた場合は、速やかに原因の究明と適切な措置を講じ、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 本学は、本学が研究者などに交付した研究費及び研究者などが学外から獲得した研究費を適切に管理し、研究費を支出又は支出後に、その支出が適正であるか確認し監査する。
- (4) 本学は、各研究科長、各学部長、別科長、各附置研究所長、事務局長を研究倫理教育責任者と定め、研究者による研究活動にかかわる法令等の違反を防止するため、必要な教育研修及び啓発活動を定期的に行う。
- (5) 本学は、研究活動における技術の提供や貨物の輸出について、法令等を遵守し安全保障輸出管理に努める。

## 4. 研究者の責務

### (1) 基本事項

- ① 研究者は、社会倫理を逸脱しないよう自らを強く律し、研究活動を遂行する。
- ② 研究者は、利益相反や責務相反の発生に十分注意を払い、研究活動を遂行する。
- ③ 研究者は、研究倫理及び研究活動に係る法令等に関する研修又は科目等を受講しなければならない。
- ④ 研究者は、研究を進めるにあたり、データのねつ造、改ざん、盗用などの不正な行為を行わないことはもとより、論文等の形で発表された研究成果のもととなった実験データ等の研究資料は、当該論文等の発表から10年間の保存を原則とし、試料や標本などの有体物については5年間の原則とするなど適切な取り扱いを徹底し、不正行為の発生を未然に防ぐよう環境整備を図る。
- ⑤ 研究者は、研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに、第三者による検証可能性を担

保するため、研究のため収集した資料等の開示の必要性及び相当性が認められる場合には、これを開示する。

- ⑥ 研究者は、研究費の使用にあたって、本学諸規程及び研究費ごとの決められた条件や使用ルールなどを遵守する。
  - ⑦ 研究者は、研究活動における技術の提供や貨物の輸出について、法令等を遵守し安全保障輸出管理に努める。
  - ⑧ 研究を指導する立場にある研究者は、研究者の研究活動に不正や法令等の違反が起きないように適切に指導・管理を行う。
- (2) 研究成果の適切な発表・オーサーシップの基準
- ① 研究者は、研究成果の公表に際して、データ根拠の信頼性や確保に十分留意し、公正かつ適切な引用を行う。
  - ② 研究者は、学術論文の発表に際して、オーサーシップやすでに発表されている関連データの利用、著作権について、各研究組織、研究分野、学術誌ごとにある固有のルールを十分に尊重する。
  - ③ 研究者は、共同研究における成果の発表に際しては、それぞれの研究者の実質的貢献度を適切に反映させ、研究者全員の了解のもとに行う。
- (3) 審査の公正性
- 研究者は、他者の研究論文の査読や審査にあたる場合、審査対象者に対して予断を持つことなく、学問的な基準や当該審査の審査基準に基づいて公正に審査を行う。
- (4) 個人情報の保護
- 研究者は、研究の過程で得られた個人情報を正当な理由なく他人に知らせ、又は不当な目的に利用しない。
- (5) ハラスメントの排除
- 研究者は、研究活動の遂行にあたり、本学におけるハラスメント防止に関する規則の精神に則り、いかなるハラスメントも行わない。
- (6) 利益相反の適正なマネジメント
- 研究者は、研究活動において、利益相反や責務相反の発生に十分な注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。
- (7) その他
- 「拓殖大学教員必携」（平成15年3月初版発行）にも則り、研究活動を遂行する。

## 5. 事務

このガイドラインに関する事務は、学務部学長事務室が行う。

## 6. 改廃

このガイドラインの改廃は、研究倫理・公的研究費適正化委員会の議を経て、理事長が決定する。

## 附 則

このガイドラインは、令和5年4月1日から施行する。

2025（令和7）年4月1日発行

**拓殖大学 履修要項（国際学部）  
2025（令和7）年度入学者用**

八王子国際キャンパス  
学務部八王子学務課  
〒193-0985  
八王子市館町 815-1  
<https://www.takushoku-u.ac.jp>

学 部	国 際 学 部
学 科	国 際 学 科
学生番号	番
氏 名	